

各人即チ
人表義表
自表現組
義治組織
ナリ

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 基督教ノ興起 五六八
部ニ神ノ國ヲ見得レドモ各人ノ偶然ヲ超越シテ唯一ナリ。從ツテ内部ノ
神ノ國ハ之ヲ其ノ外部ニモ見得ザルベカラズ。内部ノ神國モ外部ノ神國
モツマリ同一ナラザルベカラズ。

第二 「イエス」ノ神ノ國ハ尙外部のモノナリ。

「イエス」ノ神ノ國ハ普遍的ニ各人ノ内部ニ存在スル精神ノ一大統括制ナリ。
各人各別ニ其ノ内部ニ存スレドモ尙普遍的一體ト爲リテ存在シ、普遍的一體タ
ル精神ナレドモ尙一切人ノ各ノ内部ニ存在スル精神ナリ。是故ニ一方ニハ各
人ノ内部ニ存スルノミナラズ、相互ニ對立シツツアル外部的關係ニヨリテ之ヲ
保障セザルベカラズ。己心ノ神國ヲ保障シ其ノ偶然ニ陥ラシメズ、己心ノ神ノ
國ヲ發揚シテ益、其ノ圓滿ヲ成就セムニハ、他方ニ於テハ之ヲ外部ニ實現セシメ
ザルベカラズ。内部ノ神ノ國ハ外部ノ神ノ國ノ根柢トナレドモ前者ハ後者ニ
ヨリ完全ニ保障セラレ得ルモノナリ。内部外部共ニ歸一シ神國タルニ於テ異ナ
ルコトナキモノハ真正ノ神ノ國ナリ。此ノ意味ニ於テ「イエス」ノ神ノ國モ亦現
今ノ國家ガ内外兩方面ノ調和ニヨリテ存スルト等シク内外のナリ。路加ノ

九二ニ
九一三ニ
主客觀的ナリ。換言スレバ普遍的存在ナリ。

耶蘇ノ感ジハ律法ニツキテ神ニツキテ神ノ國ニ對シテ有スルモノガ、決シテ矛盾セズ普遍
的ナリ。吾人ノ所謂普遍モ亦是ナリ。普遍的規律の意思トイフモ亦是也。内外ニアル故普
遍的ナリ。各人ノ内部ニ在ルモ其ノ儘ツツク外部ニ存在スルナリ。是レ普遍我及ビ其ノ
表現人在ル所以ナリ。

此ノ外部の神國ハ神人ノ合一トシテ現ハレ「メシア」Messiasニヨリテ總攬セ
ラレツツアルモノニシテ「イエス」自ラ此ノ總攬者タルコトヲ自覺セリ。故ニ「キ
リスト」ハ即チ「イエス」ノ官職名ヲ表現人トシテトナリタルナリ。「キリスト」ハ總攬者
トシテ神ノ子トシテ「エホバ」自身ノ如ク獨占的ナリ。「ロゴス」Logosハ彼一人ニ
結晶セリ。「ストア」ノ「ロゴス」併シ「キリスト」ノ支配力ハ彼ノ私有スル支配力ニ非
ズシテ神ノ力ナリ。神ガ一切人ヲ救済シ之ヲ神ノ子タラシメムトスル爲ニ用
キル力ナリ。故ニ「キリスト」ハ表現人ニシテ專制君主ニハ非ズ。其ノ我ヲ没却
シ其ノ人格ヲ棄テテ故ニ誰ナリ好マズ。尙其ノ人格ヲ主張シ其ノ我ヲ貫徹
シタリ。故ニ自ラ救。此ノ矛盾ヲ調和シテ存在スルガ故ニ「イエス」ハ表現人ニ
シテ獨立人ニ非ズ。表現人トモ混ズベカラズ。又無人格者ニモ非ズ。表現人

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 基督教ノ興起 五六九

「イエス」ノ
總攬者タル
自覺ハ其ノ
使徒及ビ後
ノ信徒ニヨ
リ基督教ノ
第一要件ト
シテ確定セ
ラレタリ
「ユニテリ
アン」Un-
terハ「ユ
ニテリ」ニ
異ニシテ
「イエス」
ヲ異ニシテ
第二位ニ置
ク

君主主義體說
君主表現人
代表及君主
關スル
Homonis
照トノ兩説參

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 基督教ノ興起 五七〇
トシテ人間ノ罪惡死及ビ苦難ヲ一身ニ引受ケ其ノ眞正ナル根本意識ニヨリ之ヲ轉ジテ萬人ノ善ト爲サシメツアル總攬者ナリ。即チ回向スル主體ニシテ、各人ノ功德ヲ一身ニ集メテ私シツアル主體ニ非ズ。此ノ點ニツキテモ、恰モ立憲國ノ總攬者ガ表現人ニシテ國權ノ主體ニ非ズ。回向スル主體トシテ決シテ一切臣民ノ活働ノ結果ノ歸スルトコロノ主體ニ非ザルコトト其ノ眞正ナルコトヲ等ウス。

「キリスト」Christusトハ王トイフコトナリ。然ルニ「キリスト」ハ「イエス」ノコトニシテ「イエス」トハ「キリスト」ノコトナリ。「イエス」ハ此點ニツキ獨占的ノ性質ナレドモ表現人トシテ違フコトナシ。「イエス」ハ神ノ意思ヲ行ヒ神ノ力ヲ表現セルノミ。從ツテ又自己ノ活働ハ自己ノ爲ニ非ズ。自己ノ行動ハ一方ニハ神ノ愛ヲ表現シ他方ニハ人間ヲ表現シテ一切人ノ苦シミヲ引受ケシノミ。雙方ノ表現者トシテ惡シカラズ根本的ノ信仰ニヨリテ善ニ轉セントスルコトニツキ總攬者ナリ。「イエス」ハキカマ氣ノ人ニテ自己ノ我ヲ主張シテ貫徹セシ人ナリ。一方カラハ又自己ノ我ヲ棄テタル者ナリ。我ヲ棄テテ尙我ノ在ルハオカシイ様デアルガ是レ即チ表現人ナレバナリ。

斯ノ如ク「イエス」ノ神ノ國ハ内部的ニモ外部的ニモ發達シタル立憲國ト其ノ性質ヲ等ウセリ。併シ世間的國家即チ認定法ト共ニ存在スル國家即チ認定上

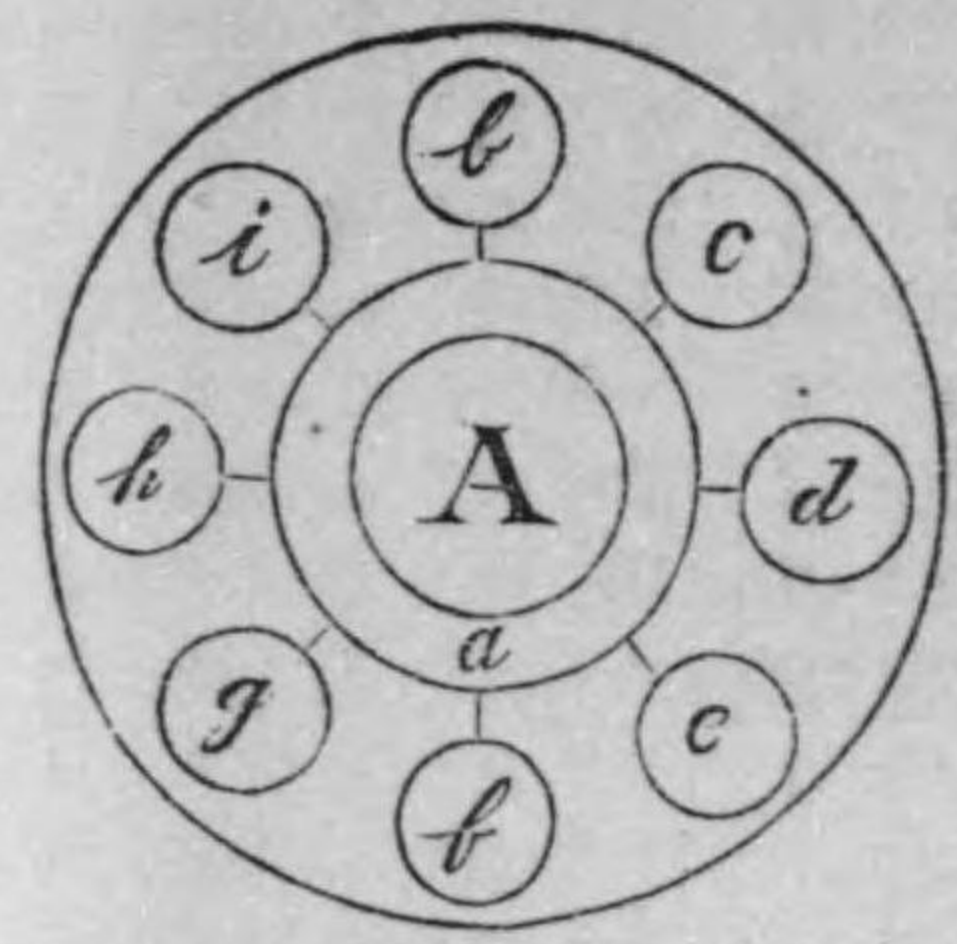
中世ノ終
ミテ尙罪惡ノ
近世ニ至リキ
テハ國家法
律ヲモ是認
シ救済セン
リトスル者
ナリ、Tribun
ナリ其革新者

ノ普遍我ガ現今ノ發達ヲ爲スニ至リシハ信仰ノ發達普及ノ結果ニシテ決シテ一朝一夕ノ業ニ非ザルナリ。「イエス」ノ時代ニ在リテハ世間ノ國家ハ尙此種ノ微妙ナル域ニ達セザリキ。サレバ「イエス」ハ其ノ神ノ國即チ信仰心ニ基ヅキ精神の内部外部ニ存スル國家ヲ政治法律上ノ國家ヨリ分離シ後者ヲ捨テ措キ專ラ根本的ナル前者ノミヲ實現セシメ成就セシメムト努メタル者ナリ。政治上法律上ノ國家ヲ罪惡ナリト認メタルモノニハ非ズ。其頃ノ世間國家ヲ改造スル段階トシテ之ヲ神ノ國ト分雖シ根本的ナル神ノ國ヲ確立シ之ニ依リ世間國家ヲ救済セムト欲シタルモノノミ。然レドモ彼ハ自ら此ノ凡テノ段階ヲ成就セムトセズ先ヅ神ノ國ノ「キリスト」タルヲ以テ甘ジ之ガ爲ニ仆レタルナリ。是レ彼ガ當時ノ教權ニ反抗シ争闘シテ一步ヲモ退カザリシニ反シ決シテ政權ニ反抗セズ又之ヲ是非セザリシ所以ナリ。是レ彼ガ自ら「メシア」タルコトヲ許シタルニ拘ハラズ決シテ世間ノ國王ヲ以テ自ら任セザリシ所以ナリ。又「イエス」ノ神ノ國ガ決シテ他ノ敵國ノ滅亡ヲ意味セザリシ所以ナリ。ハ總ベテ「イエス」メテノ眞意ヲ混同セズカ

本卷所載
見ヨ
更ニ此ノ
ヲ出テ神
ヲ現世ニ
カラス
ラズ

政權ト、教權トハ、分離ヲカメ、教權ヲ完全ニセント欲セリ。敵ハ「イエス」ノ行動ヲ政權ニマデ反抗スルモノトスルヲ喜ビタリ。然ルニ「イエス」自身ハ然ラズ。「王」ノ物ハ「王」ニ神ノ物ハ神ニ與ヘヨトセリ。人心ノ根柢ヲ築ク總攬者タラントセリ。人間ノ苦ヲ引受クル總攬者タラントセシナリ。是レヤガテ立憲國トナリシ段階ナリ。立憲國ノ法理ガ「イエス」ノ心持ニ暗合スルハ元ヨリ當然ナリ。其ノ爲ニ「イエス」ハ死シタリシナリ。

第八十三圖 「イエス」ノ神國

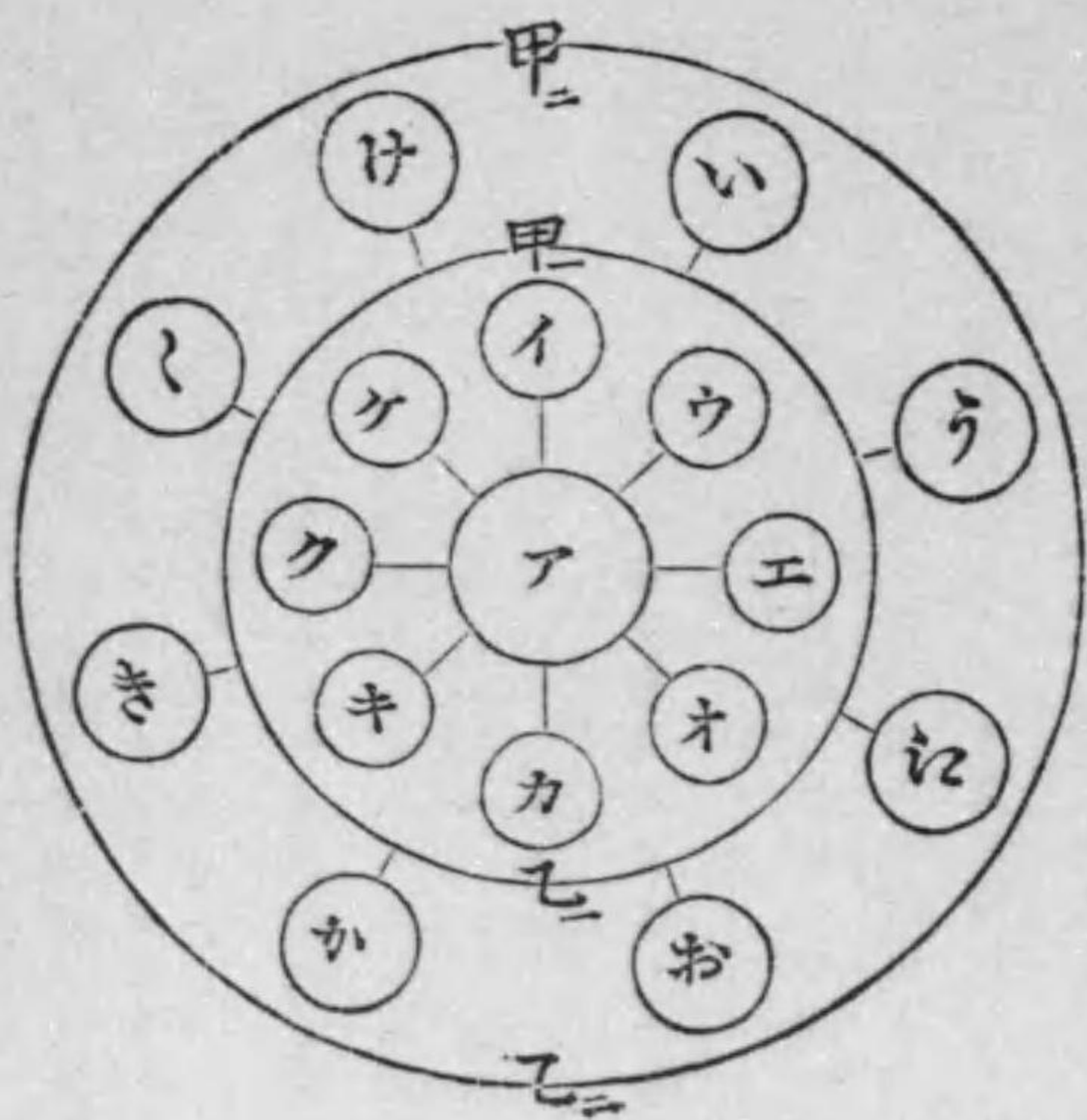


- 一 内部ノ神國トシテハ
 - A — 神ヲ現ハシツツアル最モ深キ心持又ハ露。
 - a — 「イエス」ヲ愛シ、「イエス」ヲ經驗ヲ信ジ彼ニ頼ル心。
 - b c d 以下 — 以上ト調和スル其ノ他一切ノ心ノ作用。
 - 二 外部ノ神國トシテハ
 - A — 神(ゴツト)
 - a — 「イエス、キリスト」
 - b c d 以下 — 「イエス」ヲ愛シ彼ニ信賴スルコトニヨリ
- 神ヲ見クツアル各個人。



注意 「イエス」神國ハ「イエス」ヲ活キタル心ノ經驗ニ外ナラザレドモ之ヲ形式ニ表ハスコトハ如何ニ「フキロン」ノ「ロゴス」説及ビ「プロテイマス」ノ發出論ノ三段階ノ形式ニ等シキカニ注意スベシ。(第八十圖、第八十一圖參照)

第八十四圖 表現汎神論ノ神國



一 内部ノ神國トシテハ

甲_一——大生命ヲ表現スル各自ノ生命此生命ハ一切ノ心ノ作用ヲ支配スル者(甲)ニシテ、又此一切ノ心ノ作用ヲモ網羅スル者(甲)ナリ。故ニ生命中ニハ主體ト客體トノ兩方面アリテ、然モ尙唯一ノ生命ナリ。

乙_二——内部ノ神國ニシテ神ト同ジ、各個人ハ其ノ内部ニ於テ神ヲ見得ルガ其ノ神ハ又神國ナリ。

ア——一切ノ心ノ作用ヲ總攬シ各自ノ生命ヲ表現スル最モ深キ心持。

イウエ以下——アノ總攬ノ下ニ、之ト調和シ一體トナリテ各自ノ生命ヲ表

現スル一切ノ心ノ作用。

いうえ以下——各自ノ生命ヲ表現スル方面イウエ……等ヲ有スレドモ尙其ノ生命ト對抗シ之ニヨリテ支配セラルル一切ノ心ノ作用。

二 外ノ神國トシテハ

甲_一 神(主體ニシテ又客體然モ唯一ノ神在ルノミ)

乙_一 神國(神國ト神トハ同一ニ歸ス)

ア——自主表視神(總攬表現神)例ヘバ

皇座靈神及ビ之ト一體タル 天照大御神ノ如シ。

之ト一體タルル 天皇モ亦同ジ。

イウエ以下——被總攬者タル表現神、例ヘバ八百萬神。

注意 基督教ニツキテモ立憲國ニツキテモ此ノ形式ヲ當嵌メ得、其ノ説明ハ左ノ如シ。

基督教ニ於テハ次第ニ「イエス」ノ總攬者タル地位ヲ確定セシメ、或ハ聖書ニ基ヅキ、或ハ神秘的ニ、或ハ哲理的ニ之ヲ敷衍セリ。三位一體ノ説是ニ於テ確定シ「ユニテリアン」ヲ除キテ、其ノ神ト稱スルモノハ「ゴット」夫、自身ノミ、ニ非ズシテ、父タル「ゴット」ト聖子タル「キリスト」ト聖靈トハ三者ハ一體ヲイフナ

リ。今此ノ三者ノ精神ヲ表現汎神論ノ心持ヨリ統括シツツ更ニ之ヲ分析シテ圖ニ表ハセバ、大體第八十四圖ニ當嵌マルナリ。「イエス」ハ總攬表現人ナリ、「イエス」無ケレバ、今日ノ基督教徒ノ信ズル「ゴット」無シ、「イエス」ヲ通シテ、一切ガ活キ世界モ亦別種ノ意義ヲ有ス。故ニ「イエス」ハ「ア」ニ當ル。然ルニ「イエス」ヲ信愛スルニヨリ「ゴット」及ビ彼ヲ各自ノ心中ニ活躍セシメ得ルハ、各自ノ心中ニ現ハルル聖靈ノ作用ニ外ナラズ、此ノ場合ニハ各人在レドモ各人無ク聖靈ヲ其ノ生命トナスノミ。故ニ「イエス」以下ノ聖靈ナリ。「ゴット」ハ「ア」ニモ「イウエ」以下ニモ非ザレドモ是等ヲ統一シテ存在スル甲ナリ。然モ「甲」タル「ゴット」ト「ア」ト「イウエ」以下ノ三位ハ異體ニハ非ズ、又代表等ノ關係デハナク、其ノ間ニ表現歸一關係ガ存スルノデアル。此ノ意味ノ三位一體タル「甲」ガ崇拜ノ主人タル「天」ニ在シマス、或等ノ父ヨ「ナド」ト基督教會ニ於テ呼バルル父デアル。此ノ父即チ「甲」ニ對シ愛ヲ以テ之ニ合一セントスル罪深キ各個人ハ「いウエ」以下ニ當ル。然モ罪惡ヲ以テ充ツルニセヨ、徒ラニ神ト對立シ、其ノ強制ノ下ニ立ツ者ニ非ズシテ、愛ヲ以テ神人ノ合一スルコトヲ主旨

トシテ居ルカラ人ヨリ神ニ神ヨリ。茲ニ神國ガ實現セラルル事トナリ乙ノ様ニナル。サレバ第八十三圖ニ示シタル「イエス」神國ノ形式ハ第八十四圖ノ如クニ發達セシメラレ得ルコトト考ヘル。尙此ノ表現汎神論ノ形式ニヨレバ「プロテニス」ノ發出論ナドヲモ統括包容シ得ルモノトスル。第八十四圖參照

實際ノ國家ニツキテイヘバ例ヘバ皇國ヲ採ランニ天皇ハ自主表現人アニ在シマス。イウエ以下ハ被總攬表現人トシテ何等ノ獨立ノ存在無ク、天皇ノ總攬ノ下ニ天皇ト一心同體タル表現人ナリ。日本テフ普遍的[○]大生命[○]ハ乙[○]デアツテ之ハ天皇及ビ被總攬表現人ト別物デナク是等ト表現歸一ノ關係ニ立ツテ居ル。一言ニシテイヘバ表現人ト普遍的[○]大生命トハ不二ノモノデアアル。此ノ普遍的[○]大生命ハ國權ノ主體トシテ國權ハ必ず自主表現人タル天皇ノ總攬ニヨリテ表現セラル之ヲ離レテ國權無シ一切ノ臣民イウエ以下ヲ支配ス。但シ是等ノ臣民ハ元來國家ヲ表現スル「沒我即チ擴我」ノ方面ヲ有スルコトヲ其ノ本質トナシ和魂ヲ以テ生活シテ

居ルモノデアアルカラ國家ト臣民トハ離レ者デナク臣民ヲ包括シタル大存在ガ即チ國家デアアル乙之ニ當ル。ソレデ此ノ國家ハ其ノ中ニ支配スル主體タル方面モアリ又自ラ己ヲ支配スルガ故ニ自己ノ客體タル方面モ在ル大生命[○]甲[○]デアアル。國家ガ自ラ己ヲ支配スル場合ニ己ノ支配者タル方面ヲ表現スル自主者[○]ハ天皇デアアル故ニ此ノ方面ヨリ見レバ天皇ガ國家ヲ支配セララルコトト見ユル。併シ之ハ決シテ國家ガ國權ノ主體タルコトヲ否定スルコトトハナラス。(第八十四圖參照)

此ノ「イエス」ノ神ノ國ハ内部的ニハ少クモ「イエス」ニ存在スレドモ未ダ一切人ノ内部ニ於テ普遍的ニ生ジタルモノニモ非ザレバ又外部的ニ成就セラレタルモノニモ非ズ。「イエス」ノ努力ハ之ヲ完成セムトスルニ在リキ。故ニ彼ハ到ル處[○]神ノ國ハ近[○]ヅケリト絶叫セシガ尙神ノ國ハ存在セリトハ言ハザリキ。「神ノ國ハ來レリトモ言ハザリキ。彼ノ神ノ國ハ現在ニ在ラズシテ將來ニ在リ。所有ニ在ラズシテ期待ナリ希望ナリ。素ヨリ空シキ想像ニ非ズ自ラ其ノ現實ヲ成サシメ得ル使命ヲ有シ之ヲ到達シ得ルコトヲ確信セル希望ナリ。

基督教ハ常ニ希望ニ重キヲ置ク

希望ハ「イエス」ヲ經

テ常ニ此ノ種ノ確實ナル意 此ノ點ガ古神道及ビ汎神論ヲ以テ一貫セル佛敎ト異ナル所ナリ。佛敎トテモ實現セラルベキ希望ヲ説キ向上ヲ其ノ生命トナセドモ、靜ニ兼ネテ動ヲ認ム。各人ハ本來皆神ナリ、佛ナリ。佛國ハ既ニ業ニ内外部ニ存在シツツアリ之ヲ發揮シ、差當リニ於テ實現スルコトガ向上心ノ要求ナリ、悟者ノ希望ナリトセリ。「イエス」ノ敎ハ已ニ神人ノ合一セルコト、神ノ國ノ存スルコトヲ認メズ、吾人ノ努力ニヨリテ之ヲ創設セムコトヲ勸ムルモノナリ。靜的方面無ク一ニ動的ニシテ向上ノ外餘念ナク、佛敎ノ客觀觀念のナルニ對シテ、專ラ主觀觀念のナルヲ示スモノナリ。佛敎ニ於テモ天台ノ如キハ靜的的ナルガ故ニ、天台ヨリ「プラトーン」ノ「イデア」界ノ範圍ノ説明及ビ天台ノ一念三千ノ説ノ形式佛哲三六性修合一論華嚴十玄中ニ於ケル萬物ノ動狀關係佛哲四參照

「悔イ改メヨ」トハ「バプテスマ」ノ「ヨハネ」Johnnes der Täufer 並ビ「イエス」ノ絶エズ唱ヘシトコロナリ。過去並ビ、現在ノ状態ニ満足セズ、向上ヲ實行セシメムトスルモノナリ。人トシテハ何人モ共ニ「イエス」ニ信賴シテ内部外部ノ神ノ國

ヲ創設セザルベカラズ。之ニツキ各人ハ神ニ對シテ永遠ハ責任ヲ負フ。神即チ普遍的大生命ハ此ノ點ニツキ絶エズ、吾人ニ命令シ、各人ヲ監督シ、又其ノ責任ヲ問フモノナリ。但シ此ノ責任ニ應ズル制裁ハ、神ノ子トシテ内外ノ神ノ國ヲ創設シ、神ト合一シ得ザルマデニ止マリ、別ニ計算的ノ罰ヲ受クルコトヲ、イフモノニ非ズ。

之ヲ要スルニ「イエス」ノ神ハ、殊更ニ初メヨリ神ノ國ヲ設定セズ、人間ヲ不完全ニ作り、殊更ニ人ヲ罪惡ニ陥リ易カラシメ、而シテ後ニ「イエス」ヲ降シ、之ヲ救済シテ、恩ニカケ、誇リツツアル神ニ非ズ。寧ロ人間ヲシテ自ら苦樂ヲ嘗メシメ、自ら進んで其ノ人格ヲ完成セシメ、ムトスル神ナリ。差別ナケレバ、歸一モナク、苦樂ナケレバ、人格ノ完成モナシ。差別ヲ轉ズルコトガ歸一ニシテ、苦樂ヲ轉ズルコトガ即チ人格ノ完成ナレバナリ。故ニ「イエス」ノ神ハ、人間ノ進化ヲ欲スル神ナリ。人間ノ努力ハ皆普遍的大生命ノ實現ニ關スル神ノ永遠ナル順序ヲ表現スルモノニ外ナラズ。之ヲ主觀觀念のナル神人及ビ國ノ關係トナス。

神ガ若シ「アダム」「イヴ」ヲ罪ヲ犯ス様ニ、或ハ少クモ罪ヲ犯ス誘惑ニ陥リ易キ様ニ作りシトセ

バ意地ノ惡キ神ナリ。罪惡ニ陥ル憂ノアル人間ヲ作ラズ、初メヨリ圓滿ナル人間ノミヲ作レバヨキ管ナルニ、先ツ罪人ヲ作りテ後、イエスヲ降シテ善クスルガ如キ神ハ如何ニモ神様ブル。又神ノ奥ノアル神ナルガ如ク見ユレドモ、是ハ教ノ形式ヲ詮鑿スルトキニ起ル疑問デアリ、獨斷ノ形式ニ存スル缺點ニシテ活精神ハ然ラズ。精神ヨリイハバ、ゴットハ人間ヲシテ自ラ苦樂ヲ經驗セシムルノ神ナリ。人間ノ内部ノ根本的信仰ハ夫レ丈ケニテ役ニ立タズ、其ノ上ニ萬般ノ意識ヲ鍛練シ萬般ノ活働ヲ爲ス故價値アルモノトス。

「イエス」ハ偉大ナル活キタル精神ヲ有セシガ、其ノ言葉其ノ説法ハ猶太教ノ獨斷ノ形式ヲ用キタリ、學者ニハ非ズ。彼ノ内部ニ在ル活キタル精神ハ上述ノ通り先ツ其ノ使徒等ニヨリテ基督教トシテ産聲ヲ舉ゲタルガ此ノ精神ヲ見タルノミデ之ヲ今日ノ耶穌教ト思フベカラズ。爾後種種ニ變遷發達セシ精神及ビ形式ノ一團ヲ耶穌教トイフ。佛教モ釋迦ニツキテノミ云ヒ得ズ。印度支那日本ノ佛教アリ、特殊ノ歴史上經驗ヲ爲シタルモノガ佛教ナリ。東郷大將モ生レタル計リガ東郷大將ニハ非ズ。其ノ後、今日マデガ東郷大將ナリ。總ベテノ經歷ヲ持ツテ居ルガ耶穌教ナリ。其ノ耶穌教中ノ内部ニ於テモ教義ニ重キヲ置クアリ、軍刀直入ニ耶穌ノ言動ニ重キヲ置クアリ、新舊教アリ、中中複雜ナリ。種族ノ別ニ應ジテモ、各性質ヲ異ニスル希臘教羅馬教獨逸流ノ教英國流ノ教アルガ如シ。

第二款 基督教ノ特質

「イエス」ノ死後基督教ノ確立マデニハ永キ歲月ヲ要セリ。併シ此ノ教ノ不動

使徒無クン
バ「イエス」
在ルモ基督
教無シ

ナル特質ハ已ニ「イエス」ノ人格並ビニ其ノ活働ニヨリテ定メラレタリ。「イエス」ハ希臘人ノ如ク自然ヲモ重ンジ道理ヲモ尊ビタリ。羅馬人ノ如ク猶太人ノ如ク意思ヲ重ンジ其ノ或形式ヲ貴ビタリ。而シテ尙當時東方ヨリ襲來セル佛教思想ノ汎神の眞髓ヲ感得セリ。「イエス」ガ何人ニ就キテ修業シタルカハ何人モ之ヲ知ル者ナシ、唯彼ノ人格彼ノ活働ヲ分析スレバ、是等ノ大精神ヲ網羅シツツアルヲイヒ得ルノミ。從ツテ基督教ノ猶太教ト異ナル所ハ意思並ビニ形式ヲ重ンズレドモ之ニ執着セズテ却ツテ之ヲ打破シ、自然並ビニ理法ヲ重ンジ、特ニ汎神の活精神ニ富ミタル點ニ在リ。

何處ニ於テ修業セシカ不明ナリ。佛教ヲ學ビシモノトモイハレヌ。大人格者ガ相似アオレバトテ怪ムニ足ラヌコトナリ。佛教ヲ學ビテ猶太教ヲ改革セシトハ直チニ斷言出來ヌガ其ノ時代ノ宗教運動ノ影響ヲ受ケタルコトハ爭ハレヌ。基督教トシテハ、愈々佛教ト關係アリ、舊教ノ儀式ガ如何ニモ佛教ニ似テオルコトハ佛教ノ影響ヲ受ケシコトヲ證ス。非常ニ似テオルガ單ニ宗教タルガ故ニ似テオルノミニハ非ザルベシ。以後ノ發達モ間接ニハ佛教ノ思潮ト關聯セル如シ。地理上モ印度ト小亞細亞ト近ク、交通ノアリシコト明ラカナレバナリ。「イエス」自身ハ形式ヲ打破リシガ、尙猶太人ニシテ最小限度ノ形式ハ破ラズシテ進ミダリ、意思的ノヤリ方ナリ。喧嘩好キノ人間タリシコト明ラカナリ、弟子ヲ叱リ付ケタルコトモ多

特ニ完全ノ理想ニ歸スル故ニ論ハル

然レドモ「イエス」ハ猶太教ノ形式ヲ用キ且猶太教ノ精神ヲ棄テズシテ人心ノ根柢ヲ修養セシメムトセシ者ナレバ充分ニ此ノ方面ノ主觀的要素ヲ包含セリ。先ヅ「イエス」ハ自己ノ人格即チ我ヲ通シテ猶太教ノ超越神ヲ主觀化セシメタリ。「イエス」ノ神ハ己ニ擬ヘテ人ヲ作りシモノナレドモ尙人ガ己ニ擬ヘテ神ヲ作りシモノナリ。此ノ神ハ意思ヲ有スル人格者ニシテ之ニ對スル人ハ神ニ對スル責任ノ主體ナリ。「イエス」ノ生活ハ奮闘主義ノ安樂ニ歸ス。苦シミヲ苦シミトセズ反ツテ之ヲ以テ安樂トナスモノナリ。喧嘩好キノ教「イエス」スラ頗ル極端過激ノ言動ヲナセシコトアリ。其ノ信ズル神ニツキテモ其ノ主義其ノ行動ニツキテモ皆主觀的要素ニ富ミ彼ノ生活ハ奮戰攻撃ノ歴史ナリ。之ト同時ニ彼ハ尙汎神的精神ニ充チ其ノ主觀的精神ヲ擴張シテ之ヲ汎神的精神ト融合調和セシメタリ此ノ調和ニツキ最モ重キヲナシタルモノハ愛ナリキ。愛ハ主

西共ニ對立ノ形式ヲ採ル

日蓮宗 淨土教

其ノ主觀的觀念ト客觀的觀念ト其ノ所ニ活シメタル

觀的ノ意識ナレドモ之ニヨリ自他ノ合一主客ノ一致内外ノ歸一ヲ達シ得ルモノナリ。主觀的ノ意識ヲ擴張シツツ主觀ヲ没却セズシテ尙客觀的意識ヲ成立シ得セシムルモノナリ。自ラ捨テズ主觀ヲ脱セザル愛ニヨリ之ヲ擴張シタル結果ハ主觀的要素ガ反ツテ轉ジテ客觀的要素ト爲リ自力轉ジテ他カト爲リ自他ノ無礙ナル回向ト爲リシモノナリ。サレバ「イエス」ノ教ハ一方ニ於テハ主觀觀念のニシテ佛教各派中日本民族ノ中ニ發生シタル日蓮宗ニ酷似シ民族ハ主觀觀念的ナル日蓮ハ此又他方ニ於テハ客觀觀念的ナルニ兼ネテ他力主義ヲ採リ神ト人トノ對立ヲ説キ佛教各派中殊ニ淨土教ノ形式ニ類セリ。而シテ「イエス」ハ猶太教ノ精髓タル形式ヲ其ノ儘採用シテ其ノ二精神ヲ其ノ中ニ活躍セシメタル者ナリ。彌陀ガ宇宙ノ根本事實ヲ其ノ普慈心ニ依リ慈悲トシテ表現スルコト。佛教哲理六二四頁六二六頁參照。

日蓮宗ハ佛教中一番喧嘩好キナリ。其ノ流儀ハ「イエス」ノ流儀ニ似タリ。主觀觀念的ニ日本ニテ發達セリ。武士ノ橫領セル東國ニ起レリ。短キ題目ヲテ特殊ノ價アリ。耶穌ハ又阿彌陀教ノ如ク神人ノ双方ヲバ對立セシメナガラ尙愛ニテ結び付ケタリ。愛ハ主觀的ノモノナレドモ愛ニヨリ主客合一セルモノトナル。哲理ヨリハ慈悲トカ愛トカハ主觀的要件ニシテ宇宙ノ本體ガ愛ナリトイフニハ非ズ表現人ガ愛トシテ表現シテオルノミ。學者ハ理トシ

テ表現シ、武士ハ武ノ方即チ勇ニテ表現スルガ「イエス」ハ愛ニテ表現セリ。

「イエス」ガ猶太教ノ形式ニヨリタルコトト、其ノ主觀觀念の性格ヲ有シ主觀的主義ヲ採リタルコトトハ、彼ノ教ノ形式ヲシテ折衷的ナラシメズ獨斷的ナラシメ、分裂的ナラシメズシテ專制的ナラシメタリ。今之ヲ略評セム。

第一 基督教ノ形式ハ獨斷的ナリ。故ニ其ノ形式ヲ以テ直チニ公平ナル學問ノ基礎ト爲スコトヲ得ズ。

「イエス」ノ活キタル精神ハ前款ニ述ベタルガ如ク凝滯スルトコロナケレドモ、其ノ依リタル形式ハ殆ンド皆猶太教ノ舊型ナリ。有ラユル道理ヲ統括シテ立テタル形式ニハ非ズシテ獨斷的ノモノナリ。「イエス」ハ先ヅ人心ノ根柢ヲ救ハムガ爲ニ、宗教界ヨリ殊更ニ、財物界ヲ分離セシハ、勿論、尙政治、法律界ヲモ分離セリ。之ガ爲ニ大様左ノ二結果ヲ生ゼリ。

財物、學問、政治ノ次ギニ宗教ガ在ルニハ非ズ。故ニ宗教上立派ニナルニハ先ヅ信仰心ヲ磨クベシ。「ブラトーン」ガ「富メル者ハ善人タルコトヲ得ズ」トイヘルモ、「イエス」ガ「王ノモノハ王ノモノノ神ノモノハ神ノモノ」トシテ權力ニ關係ナシトセシモノ同一ナリ。「イエス」王ニセントシテモ斥ケテオル。初メニ是等ヲ分離シテ最小限度ノ根柢ヲ築カントセリ、是レ極メテ正當ナリ。

「イエス」ノ後其ノ精神ヲ希臘哲學ニ調和セシメ、形式ヲ應用ノ形メテ「イエス」ヲ分析シテ精神ヲ分析セリ

知識ノミナルヲ回リトナゲル

宗教ハ向上ノ理想トシテ、超脱シテ、主觀的トシテ、尙學問トシテ、至ナリテ大乗

一 知識ノ專制ヲ打破シ得タリ。知識ハモト感覺ヨリ優レリト雖モ、尙信仰ノ根據ニ立タザルヲ得ズ。知識ハ現ニ自ラ知識ノ萬能ヲ吟味シテ懷疑論ヲ生ゼシメ、更ニ何等ノ捕捉スル所ナカラシメタリ。知識ノ專制ハ知識ニヨリテ是認スルコトモ又ハ之ヲ打破スルコトモ爲シ得ズ。權力ニヨルモ亦然リ。唯根本意識タル信仰ニヨリテノミ知識ノ專制ヲ打破シ更ニ之ニ正當ナル範圍ヲ附與スルコトヲ得ベシ。「イエス」ノ教ハ斷乎不動ニシテ且精銳ナリシガ故ニ、知識ノ專制ヲ打破スル力ヲ有シタリシガ、未ダ信仰ヲ基礎トシテ知識ヲ立ツルニハ至ラザリキ。

二 學問ノ基礎トナスニハ餘リニ獨斷的ナリ。尤モ基督教ヲ基礎トシテ大規模ニ學問ヲ建立セムトセシ企圖ハ、中世ノ「スコラ」哲學ニヨリテ實行セラレタルトコロナルガ、其ノ根柢ガ餘リ獨斷的ナル形式ヲ有セシガ爲ニ失敗ニ終レリ。但シ近世ノ信仰哲學ノ如キハ、此ノ獨斷的形式ヲ離レタル信仰ヲ求メテ之ヲ學問並ビニ生活ノ根柢ト爲セシモノナリ。宗教ハ固ヨリ學問トハ異ナレドモ其ノ根本ノ精神ハ能ク萬般ノ生活ノ根柢トナリ、又學問生活ノ基礎トモ爲リ得ザ

ルベカラズ。然ルニ餘リニ嚴格ナル獨斷的形式ヲ重ンゼル基督教ハ自由ナル佛教ニ比スレバ此ノ點ニツキ大ニ制限セラレタルヲ見ル。

最小限度ノ性質トシテ宗教ニハ形式ガ入用ナリ。コノ大切ノ形式ガ極メテ獨斷的故學問上ハ大ニ困ル。宗教ハ人生ニ價值アルモノナレドモ人間ノ生活ヲ離レテ信仰ナシ人心ノ底ヲ離レテ實在ナシ。人間及ビ其ノ生活ガ飽クマデモ大切ナリ。知識モ學問モ生活ナリ學問ガ生活ノ一部ニテ活動ノ一種ナリ。學問自身ガ學ノ手段計リデナク目的ヲナスモノナリ。故ニ之ニ根據ヲ與ヘ得ザルベカラズ。即チ信仰ガ本ニナリ絶エズ其ノ淵源トナルモノナリ。基督教ニ欠ケテハオラヌガ尙不完全ノ點ヲイヘバ知識ノ專制ヲ打破スルハ善キガ積極的ニ學問ノ根柢ト爲ルニハ其ノ形式ガ獨斷ニ過ギタル點ニ在リ。後世スコラ哲學ガ骨ヲ折リシガ役ニ立タズ砂上ノ家水上ノ船ニテ常ニ動イテオル無益ノ苦心ナリキ。

第二 基督教ノ形式ハ信仰的ナリ。故ニ専ラ活キタル信仰非宗教ニ及ビ之ニヨリ活キツツアル人格ヲ養フコトガ主眼ナリ。

「イエス」ハ少數ノ智者ノミヲ目的トセズ寧ロ自立スルコト能ハザル多數一般ノ人民ヲ眼中ニ置キ其ノ人格ヲ完成セムトセシモノナリ。信仰心ヲ理法ノ知識權力ノ方面經濟上ノ生活ト分離セシメ先ヅ直チニ入りテ専ラ純潔ナル信仰心ヲ實修セシメ心靈ヲ救ヒ得ベキ最モ單純平易ナル形式ヲ選擇シ之ヲ猶太教

耶蘇教ハ耶
改善スベシテ

自身ノ形式中ニ發見シタリシナリ。猶太教ノ形式ハ猶太人ヲシテ依ラシメ易カリシノミナラズ簡單ナル獨斷ナルヲ以テ一般人ヲシテ理窟ヲ言フヲ許サズ専ラ信仰ノ鍊修ヲ爲サシムルニ過シタリ。自力教ト雖モ宗教トシテハ理窟ガ主ニ非ズシテ信仰ガ主ナリ信仰ノ練習ガ眼目ナリ。殊ニ他力教ニ在リテハ他力回向ノ關係ヲ重ンズルガ故ニ自ラ考フル理窟ノ深淺當否之ト信仰トノ矛盾ノ有無ニ關ハラズ信仰サヘ堅ケレバ神及ビ一切人ノ他力ニ信賴シテ疑ハザルコトヲ得ルモノナリ。理窟ハ從ニシテ信仰心及ビ其ノ修養鍛鍊ガ主ナルモノナリ。「イエス」自身モ學理ノ達人ニハ非ズシテ實際上活キタル信仰自身ヲ有セシ者ナリ。サレバ單純ナル神ノ信仰ト神及ビ一切人ニ對スル愛トヲ説キ其ノ希望ヲ捨テシメズ。實地ニ其ノ鍊修ヲ爲サシムルノミニシテ殆ンド又他ヲ語ルノ必要ナキ基督教ガ普ク人心賢人タル希臘人、武士タル羅馬人、悉皆ヲ收攬シ得タリシ所以ナリ。馬太一五二 基督教ガ迷信打破ノ爲ニ絶大ノ效力アル教タルコトハ基督教當初ノ歴史ヨリ之ヲ證明シツツ在リ。信仰ハ歸スル所信仰ヲ以テ確實ニ之ヲ改廢シ得ベシ。迷信及ビ劣惡ノ宗教ヲ驅除スルニ適シタルモノハ精

小供ニハハ
仰アリノハ
リニハ女子
リニハ女子
ア

自己ノ形式
ニヨリ世界
ヲ自ラナ
リ化スルナ
ズコトヲ非
化スルコト
太人ノ氣風
シテ又基督
教ニ傳ハレ
之ニ反シテ
モ起リタル
モノナレド

佛敎ニテハ
釋迦モ忘レ
テ其ノ淨
土教ニテハ
法藏モ忘レ
テ其ノ基
督敎ニテハ
我ガ中心點
ヲナス

以下ハ極メ
テ大畧ヲ掲
グルニ止ム

銳圓滿ニ猛烈ニシテ一步ダモ假藉セザル基督教ナリシナリ。

第三 基督教ノ形式ハ獨占的排他的ナリ。

客觀觀念のナル佛教ノ廣量ニシテ伸縮性ヲ有シ、從ツテ雜駁ナルニ反シ、主觀的ナル基督教ハ一筋ニシテ精銳ナリ。凝然トシテ斷ジテ動クコトナシ。從ツテ狹隘ナリ。客觀觀念のナル佛教ハ忍容的ニシテ濫ニ各人ノ信念ヲ破碎スルコトナク、之ヲ是認シ次第ニ之ヲ擴張セシムルノミナラズ、結局ノ終リニ達スレバ又各自ノ好ム所ニ從フテ、其ノ好ム所ノ方面ヲ分擔セシム。故ニ佛教ハ根本ニ於テ自性無ク、獨斷無キノミナラズ、當初ヨリ共存の寬容的ナリ。主觀觀念のナル基督教ハ排他的ニシテ先ヅ各人在來ノ信念ヲ打破セズンバ止マズ。各人ノ信ズル形式ヲ一掃シテ後自己ノ形式ヲ注入セシメ、何人ト雖モ決シテ其ノ形式以外ニ出ヅルコトヲ許サズ。故ニ基督教ハ全ク佛教ト異ナリ、動カスベカラザル自性アリ、獨斷アリ、當初ヨリ獨占的排他的ナリシナリ。

排他敎ハ兎角愛情ニ超越スル能ハズ、故ニ其ノ主義トスル博愛モ自然ヲ主義トスルモノニ非ズシテ、人爲的押賣のトナル。

第四 基督教ハ積極的主義ヲ採ル。

主觀觀念のナル基督教ハ、其ノ獨占的排他的ナルコトト相待テ積極主義ヲ採リ、汎神のナル諸敎ニ比スレバ自我ヲ否定セズシテ寧ろ自我ヲ重ンジ。其ノ愛ヲ擴張セシメ、其ノ信仰ト希望トヲ中心トシテ之ヨリ離レシメズ。又干渉的強迫的ナリ。自己ノ敎以外ノ形式ヲ通シテ信仰シツアルモノヲ見之ヲ憐ムハ情禁ズルコト能ハザルナリ。而シテ此ノ信仰ヲ動カザラシムル爲ニハ、他ノ厭苦ト自己ノ災難トハ願ミルトコロニ非ズ。是等ハ皆イエスノ主觀觀念的精神ト其ノ自信ノ大ナルトヨリ來リタル此ノ敎ノ特質ナリ。

現今歐洲ニテハ宗教上ノ積極主義專制主義ヲ利用シ、教會ヲ先驅トシテ自己ノ文明ノ下ニ他人ヲ支配同化セントスルナリ。

第三款 敎理ノ結成並ビニ發達

第一項 總說

信仰心ノミヲ根據トシ、活キ活キセル信仰ノ鍊磨ノミヲ目的トセル單純ナル

此ノ獨斷教ハ「イエス」ガ信仰ノ爲ニ其ノ身ヲ殺シタル事實ニヨリテ人ノ耳目ヲ牽キ其ノ使徒等ノ奮闘ニ必要ナル事實的根據ヲ附與シタリ。使徒等ハ「イエス」ニ於テ其ノ眞ニ貫徹セル信仰心ノ活キタル模範ヲ見直接ニ其ノ不屈進取ノ態度ヲ學ビタリ。而シテ彼等自身ハ「理窟」モナク「イエス」ノ人格其ノ信仰ニヨリテ支配セラレ相互ノ間ニ於テハ「理論的根據」ナク直チニ相互ノ信念ニヨリテ交通スルコトヲ得タレドモ。異教ニ對抗シ新ニ信徒ヲ造リ廣ク布教セムトスルニ及ンデハ「イエス」ノ事蹟ヲ靈妙ノモノトシ「イエス」ノ信仰ニ理論的根據ヲ與ヘ且次第ニ團體ノ外部的組成ノ必要ヲモ感ジタリ。此ノ要求ハ猶太人ノ奇蹟其ノ他ノ信仰ヲ満足セシメ希臘人ノ理智ニ融合シ羅馬人ノ法律思想ト調和スル爲ニ殊更ニ切ナルヲ致セリ。然モ基督教ハ一概ニ是等ノ猶太人ノ信仰心希臘人ノ究理心及ビ羅馬人ノ制度心ヲ排斥スルコトナク其ノ自己ノ信仰ヲ根據トシツツ其ノ形式ト調和シ得ルモノハ一切之ヲ吸收スルコトニ勉メ之ト融合シ得ザルモノハ理不盡ヲ問ハズ一切之ヲ排斥シ終ニ宏大ナル教會及ビ「スコラ」哲學ヲ發生セシメ其ノ神ノ信仰ヲ以テ世界ヲ風靡スルニ至レリ。今茲ニハ暫ク「イ

エス」ノ復活其ノ他ノ事蹟及ビ教會ノ外部的組成ノ方面ヲ省キ專ラ哲理ノ方面ニツキテ討究セム。

直接ニ隨ヒシ使徒等ハ夫自身「イエス」ニ敬服シテ理窟ハナク信仰ノ練修ニテ悟ガ通ゼリ。然ルニ「イエス」ノ死後ハ教ヲ弘メル爲ニ理窟ヲイハネバナラス。理窟モ亦生活上ノ必要ノ方面ナレバナリ。又「イエス」ノ有難味ヤ勿體ヲツケネバナラス。虚ヲイヘヌ故妙味ヲ付ケルニ骨ガ折レル。又弟子ヤ信者ガ殖エレバ外部的組成ニテ形式的ニ統一スルコトガ入用ニナリ。裏面ニハ大ニ形式的ノ弊害ヲ生ズルニ至レリ。尤モ基督教ノ今日在ルヲ得ルノハ教會ノ爲ノミナラズ教會ニ反對セシ修道僧 Monachus 等ノ力モ亦大ナリ。中世ニ於テハ修道僧ガ精神上ニテハ重要ノ地位ニ居リ教會ハ寧ロ形式ノモノトナリタリ。

第二項 基督教ノ結成

基督教ハ「イエス」ノ教ナレドモ其ノ口傳セシ教訓ニハ非ズシテ彼ノ活歴史ノ教ナリ。故ニ「イエス」自ラガ猶太教ニ對シテ基督教ヲ結成セシメタルモノニ非ズ。之ヲ一種ノ獨立セル教ト爲シタル者ハ彼ノ徒弟ナリ。「イエス」ガ一個ニテ不滅ナルニ非ズ。彼ノ光明ヲ輝カシムル端緒ヲ開キシ者ハ彼ニ會心セシ徒弟ナリ。宛カモ「プラトーン」「アリストテレイス」等アリシニヨリテ吾人ノ所謂「ソグ



ローラ以テ教會ノ祖ト看做セリ。

第三項 基督教ノ發達

第一目 概要

「パウルス」Paulusノ自由主義竝ビニ外國傳道ハ、「アンチオーケ」Antiochノ教會ハ固ヨリ「イェルサレム」Jerusalemノ教會ヲモ争闘ニ捲キ込ミタリ。此ノ矛盾ニヨリテ「パウルス」Paulusノ立場モ内外ニ於テ明確ニ分析意識セラレ、又外部ニ對シテ基督教ノ獨立ガ完成セラレタルナリ。以後希臘羅馬ニ於ケル基督教ノ歴史ハ矛盾衝突ノ歴史ナルガ「コンスタンチヌス」Constantinus大帝ニ至ルマデハ特ニ甚ダシク殉教者ヲ以テ充タサレタリ。矛盾ニ於ケル奮闘力ハ基督教徒ノ本質ニシテ波ナキ處ニモ殊更ニ矛盾ヲ作り出ダセシガ其ノ相手ヲ統括スルニ足ル牽平タル根本的信仰ヲ有セシコトハ、矛盾セル毎ニ益、此ノ教ノ活力ヲ増進セシムル所以タリシナリ。

基督教ハ博愛ヲ標榜スレドモ其ノ喧嘩、好キノコトハ福音書ニ在ル文句

青年ノ熱心
ト主觀ノ念
的ナルガ上
シニモ勞ヒ良

一切ノ我意ヲ捨テテ
「イエス」ニ
信賴シテ
唯「イエス」
ノ根ヲ
求メシメ
急ナルヲ
急ナルナリ
一家族ハ第
二ノ私ナリ

ニテモ分カル。馬太傳ノ第十章ニハ地ニ泰平ヲ出サン爲ニ我來レリト意
フ勿レ泰平ヲ出サントニ非ズ刃ヲ出サン爲ニ來レリ。夫ワガ來ルハ人ヲ
其ノ父ニ背カセ女ヲ其ノ母ニ背カセ媳ヲ其ノ姑ニ背カセンガ爲ナリ。人
ノ敵ハ其ノ家ノ者ナルベシ我ヨリモ父母ヲ愛ム者ハ我ニ協ハザル者ナリ
我ヨリモ子女ヲ愛ム者ハ我ニ協ハザル者ナリ其ノ十字架ヲ任テ我ニ從ハ
ザル者モ我ニ協ハザル者ナリ。其ノ生命ヲ得ル者ハ之ヲ失ヒ我爲ニ生命
ヲ失フ者ハ之ヲ得ベシトイフテアル。此ノ言葉ノ心持ハ身ヲ捨テ家ヲ捨
テ親族ヲ捨テバナリ私ヲ捨テ一切ノ私ヲ没シ無我トナツテ表現人ニ歸セヨト
イフコトデアアルガ夫ニシテモ如何ニモ荒荒シイ殺伐ノ言ヒ方デアアル。其
ノ平地ニ波ヲ起ス方面ノ批評ハサテ措キ如何ニ身ヲ投ゲ捨テテ喧嘩腰ニ
ナリ奮闘スル覺悟テ仕事ニ從事シテ居ルカガ分カル。没我トイフモ尋常
ノ平穩ニシテ在ルカ無キカ見エモセネバ聞エモセヌ没我デハナク惡戰苦
闘ヲ厭ハザル奮闘スル爲ノ没我デアアル。殊ニ「イエス」ハ三十歳前後ニ於テ
爲シタル行動デアアルカラ何程偉聖デアアルトシタ所デ若者ハ若者ニ相違ナ

イカラ八十歳ニテ涅槃ニ入ツタ釋迦ノ平靜ナルコトトハ異ナルハ當リ前
ノコトナリ。此ノエライ勢ニ感化セラレタ弟子共ガ「イエス」ノ教ヲ奉ジテ
外國傳道ヲ始メタカラ死ヲ以テ何ヨリノ樂シミトシテ猛進シタノハ分カ
リキツタ話デアアル。

基督教徒ノ此ノ猛進ニ伴フテ起ツタコトハ彼等ノ教難デアリ殉教ノ事
實デアアル。佛教ニ於テモ其ノ信仰ノ爲ニ迫害ヲ受ケタ者モ皆無デハナイ
ガ基督教トハ比較ニナラヌ程少ナイ。又佛教ニ於テハ法ガ大切デアアルガ
基督教ニ於テハ法デナクシテ教デアアル故ニ殉法ニ非ズ殉教ナリ護法ニ非
ズ護教ナリ法難ニ非ズシテ教難ナリ。基督教ハ「ギリシヤ」哲學ト接觸シ「ロ
ゴスト」其ノ教トノ關係モ説カレタガ遂ニ冷靜ノ理法デハナク熱烈ナル感
得ヲ言ヒ表ハシタル斷定的ノ教條デアアル。基督教徒ガ其ノ信仰ニヨリ此
教條ヲ固守シ之ヲ人ニ押シ賣リスル爲ニ死スルコトハ生キテ居ルヨリモ
遙カニ望ム所デアアル。然ルニ其ノ當時主トシテ其ノ對手トナツタ「ローマ」
人ハドウカ。「ローマ」人ハ信仰ノ趣味ニ乏シク武斷的デ聞カン氣デアリ且

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立ニ結成並ビニ發達 六〇〇
自己ニ征服セラレタル亡國ノ民ナドハ輕蔑シテ居ル。其ノ亡國民ニ屬スル名モ知レヌ一人ノ血氣ノ青ニ才然モ死罪ニ行ハレタ者ヲ擔ギマツツテ、其ノ信仰ヲ人ニ強ヒ不思議ニモ人人ヲ籠絡スルコトヲ慨嘆シ其ノ徒ヲ絶滅セント考ヘタ。斯ク「ローマ」人ハ基督教徒ヲ殺シテヤリタイト思ヒ、基督教徒ハ教ノ爲ニ殺サレテ天國ニ行キタイト思フ。ソコデ「ローマ」ニ於テ仆サレタ基督教徒ノ數ハ夥シイ。「パウルス」モ卒先シテ「ネロ」帝ニ殺サレタ一人デアアル。此ノ傾向ハ此ノ教ガ「ローマ」ニ滯留スルコト久シキニ及ブ程益著シクナツタ。夫モ其ノ管「イエス」ノ活精神ト「ローマ」人ノ氣質トストア主義ト此ノ點ニツキ見事ニ結合シタカラデアアル。

此ノ種ノ自由觀念の氣質ハ皇國人ノ長所ナリ故ニ東西ノ此ノ精神ヲ結合セシメシ天草一

斯様ニシテ基督教徒ガ莫大ニ殺サレタ結果其ノ徒ガ滅シタカトイフト否其ノ正反對デ熱心ナル信者ガ益殖エテ來タノミナラズ「イエス」一人ニ止マリシ宗教的事實及ビ宗教的經驗ガ無數人ニ擴張セラレタ。宗教ノ教義

ヨリモ哲理ヨリモ實修ノ形式ヨリモ何ヨリモ一番大切ナル宗教的事實及ビ之ニ伴フ宗教的經驗ガ限リモナク擴ゲラレタ。是ニ於テ基督教ハ永久ニ亘リ不動ノ生命ヲ獲得シ間モナク羅馬帝國ノ國教トマデ成リ上ツタ次第デアアル。奮闘ヲ主義トスル基督教ハ其ノ根柢タル信仰ノ確實ナルト共ニ奮闘ニヨリ其ノ光ヲ發揚スルニ至ツタ次第デアアル。

使徒及ビ其ノ直弟子ハ此ノ奮闘力ヲ以テ人ノ注意ヲ惹起シ博愛ヲ標榜シテ有ラユル階級ニ其ノ單純精銳ナル深キ信仰ヲ叩キ込ミタリ。此ノ後「ユスティヌス」Justinus 一六五年頃「マルクス」Marcus Aurelius 帝ノ朝ニ殉教ス。「ストテイ」Stey 改心スルコトヲ得タル者ナリ。元「パレス」Palestinaニ居リシ外國人ノ子ナリ。初メトシテ教理ヲ組織シ異教徒ニ對抗シタル所謂護教家 Apologetenノ多數ヲ出ダセリ。「タチアヌス」Tatianus 紀二世紀「シリヤ」Syria人ナリ「ユスティヌス」ノ弟子ニ「ミヌチウス」Minucius Felix 紀二世紀「シリア」シテ希臘ノ神話哲學美術ヲ照例セリ。其ノ弟子「ヒッポリッテ」Hippolytus 二世紀ノ後半ニ生レ240年頃殉教セリ。東「テルトリアヌス」Tertullianus 150-160頃「カルター」Carthagoニ生レ230-245年頃殉教ス。法理「キブ

リアヌス「Cyprianus」二世紀ノ末カ三世紀ノ始ニ北部亞弗利加ニ生マテテ又殉教者ナリ。等ニシテ、是等ノ人人ノ中ニ希臘哲學及ビ異端ノ臭味ヲ帶ビタル「グノーシス」「Gnosticism」派ノ教理ニ反對シタル者多ク、何レモ基督教ノ教理ヲ以テ神ノ啓示ニシテ、且眞正ノ哲學ナリトスルニ一致セリ。此ノ發達ハ先ヅ二ツノ方向ヲ取レリ。一ハ希臘語ノ行ハルル地方ニ於ケル發達ニシテ、他ハ羅旬語ノ行ハルル地方ニ於ケル發達ナリ。

第一 希臘語地方ニ於ケル發達

是等ノ地方ハ「アレクサンドリア」ヲ中心トシテ希臘哲學ノ素養ヲ以テ或ハ希臘哲學ヲ攻撃シ、或ハ希臘哲學以上ノ神ヲ成立セシメムトセシモノナリ。「パンテウス」「Pantäus」「ストア」「Stoa」「クレメンテス」「Titus Flavius Clemens」「オリゲネイス」「Origenes」等ニシテ、及ビ「ストア」ヲ利用スル希臘哲學ノ根柢ニ於テハ皆神ノ智慧ノ顯現ナリトセシ者アリ。「オリゲネイス」「Origenes」 185年生於テハ永遠ニ且根本的ニ希臘教會ヲ支配シテ、西方羅馬教會ノ影響シタル點モ亦少ナラズ。「アウグスティヌス」「Augustinus」ヲ佛敎ノ龍樹ニ比スレバ、オリゲネイスハ之ヲ馬鳴又ハ無着世親ニハ此ノ傾向ヲ大成セシ者ナリ。彼ハ若年ニシテ已ニ信仰ノ問答教育ニヨリ人ヲ教ヘタリシガ、異教者ニ對抗スルノ必要

Platonが彼の骨髄ナリ

哲學的倫理的基督教

ハ希臘哲學ヲ修メザルヲ得ザルコトナリ、殊ニ當時名聲盛シナラムトセシ「アムモニウス」「Ammonius Sakkas」ニ就キ、新「プラトーン」學派ノ哲學ヲ修メ「フロイン」「Flouin」「アムモニウス」「Ammonius Sakkas」「ユスティヌス」「Justinus」等ノ說ヲ折衷シ、神靈其ノ發出及ビ「ロベス」「Lobes」ヲ説キ、哲學モ亦「コス」ノ顯現ナレドモ、其ノ最モ根本的ナルモノハ聖書ノ眞理ナリ。聖書ハ最高神聖ノ知識ナレバ、哲學ハ之ニ根據セザルベカラザルコトヲ説キタリ。其ノ著作ハ甚ダ多ク、其ノ哲學的ナルコトハ人ノ争ヒ難キ所ナリキ。サレバ彼ノ說ハ古代ノ終リニ於テ至大ノ影響ヲ與ヘタレドモ、基督教ノ性質トシテ、猶木ニ竹ヲ接ギシ傾向アルヲ免レズ。羅馬教會ハ之ヲ異端ト宣告シ、引續キテ之ヲ禁ゼリ。從ツテ僅カニ希臘教會ノ教義ノ根據ト爲リテ、其ハ生命ヲ保チタルハミ。「オリゲネイス」「Origenes」ノ弟子ニ大「デオニジウス」「Dionisius der Grosse」アリ。彼ニ次ギ問答教育ノ事業ニ從ヒ、觀念的哲學ヲ助ケトシテ希臘教ノ正當ナルヲ證明シ、テルトリアヌス系統ノ實在主義並ビニ機械的世界觀ニ反對セリ。併シ信仰的獨斷的ナル基督教ガ尙ホ哲學ト調和スル必要ヲ有セシコトハ、是等ノ試ミニテモ知ラレドモ、元來信仰的獨斷的ナル教ナレバ、

全クハ希臘哲學ト調和シ得ザリシコトモ亦之ヲ想像スルニ難カラザルベシ。

第二 羅旬語地方ニ於ケル發達

希臘語地方ニ於ケルト異ナリ羅馬語ノ世界ニ於テハ「ストア」及ビ「羅馬固有」ノ思想ガ至大ノ影響ヲ與ヘ「キケロ」Ciceroノ學說ノ如キハ基督教教理發達ノ主ナル滋養分トナレリ、一言ニシテ曰ヘバ知識的ニ非ズシテ信仰的・道德的ナリ、意思的ナリ、獨斷的ナリ。而シテ羅馬ノ統治ノ意識ハ一方ニハ羅馬教會ノ外部的組成ヲ完成セシメ、他方ニハ基督教ニヨリテ現ハサレタル神ノ信仰ヲ總攬スル者ノ性質ヲ明確ニ爲サシメタリ。前掲セシ「ミヌチウス・フェリクス」Minucius Felix「テルトリウス」Tertullianus「キケロ」ノ自由心・責任心・正義心・良心・神又ハ靈魂不滅等ノ意識、即チ人類ノ共通意識 consensus gentium ト稱セシモノ又ハ羅馬「ストア」ノ義務心・人格完成ノ意識ヲバ永遠又ハ絶對ノ域ニ擴張シテ、基督教ノ教理ヲ組成シ殉教ノ喜ビヲ讚歌セリ、就中「テルトリウス」ノ如キハ西方教會ノ神學ノ祖ト稱セラル。降ツテ三四世紀ノ交ニハ「ラクタンティウス」Lactantiusアリ「アムブロジウス」Ambrosius336-397 事ヨリ轉ジテ「ミラノ」Milanoノ法律學ニ通ジ、知アリ。「アムブロジウ

實際的基督
教ノ發達
政治的宗教

ス」ハ四世紀ニ於テ専ラ羅旬基督教徒ノ間ヲ支配シ居リシ「ストア」キケロノ道德思想ヲ、原始ノ基督教主義ト融合セシメムトスル當時ノ思潮ヲ完成シテ、更ニ西方神學希臘ニ對シテイフニ發達ノ根據ヲ附與セリ。而シテ「ヌミディア」Numidiaヨリ出デ是等基督教神學ノ根據ヲ大成セシノミナラズ、西洋古代ノ思想ヲ統一シテ之ヲ不動ノ意識トナシ、近世ニ至ルマデ永ク思潮ノ根柢トナリ、近世ニ至リテ再ビ歐洲ニ其ノ華ヲ咲カシメタル偉人ハ「アウレリウス・アウグスティヌス」Aurelius Augustinus ナリ。
「ルイテル」ハ此ノ人ノ思想ヲ活カシタル者ナリ。又近世學問ノ出發點ヲ與ヘシ「デカルト」ノ如キモ「アウグスティヌス」ヨリ出發セシ者ナリ。

第二目 「アウグスティヌス」ノ說

「アウレリウス・アウグスティヌス」Aurelius Augustinus 354 - ハ「キケロ」及ビ「ヴォルテール」Voltaireト共ニ西洋時文家ノ第一ト稱セラル。彼ハ神學者ニシテ隱遁主義ノ生活ヲモ營ミ終ニビシヨッフ監督ノ職ニ就ケリ。其ノ哲學說ハ「デカルト」ヲ經テ歐洲近世

哲學ノ出發點ト爲リ其ノ神學說ハ中世羅馬教會確立ノ根據ト爲リ其ノ神國論ハ永ク國家ト教會トノ關係ニ影響ヲ及ボシヤガテ近代ノ立憲國ヲ生ジ出ダサシムル一因トナリタリ。「アウグスティヌス」ノ基督教ニ於ケル地位ニ於ケル地位ニ似タリ。

第一支 哲學說

第一 彼「グノーシス」Gnosisノ一派ニ歸セシガ次ギテ「アカデミー」派ノ懷疑說ヲ採リ更ニ轉ジテ新「プラトーン」派ニ屬セシガ終ニ基督教ニ立チ返リテ其ノ內心ノ要求ヲ満足シ得安心立命ノ動カザル根柢ヲ發見セリ。

「アウグスティヌス」ハ古代ノ哲學ガ矛盾反對セルニ對シ就中懷疑派ガ人心ニ起サシメタル不安ノ念慮ニ對シ人心ノ根柢ト離ルベカラザル信仰コソ生活活動並ビニ學問ノ不動ノ出發點タルコトヲ證得セリ。宗教時代ノ思潮ハ「アウグスティヌス」ニ至リテ明ラカナル自覺トシテ結晶セラレタルモノナリ。「オリゲネー」Origenesハ彼ニ先チ溫柔ニ知識ヲ主トシテ基督教ノ信仰ヲ潤飾セシガ尙剛毅不屈ノ羅馬人信仰三昧ハ基督教信者ヲ満足セシメ得ザリキ。然ルニ「アウグス

ティヌス」ハ知識ノミナラズ有ラユル方面ノ心理作用ヲ統括スル活キタル心ノ底ヲ以テ信仰ガ最高ノ實在タルヲ悟ラシメ又此ノ信仰ガ萬般ノ生活並ビニ實在ノ知識ノ根元タルコトヲ猛烈ニ證明シタル者ナリ。彼ハ惟ハラク外界並ビニ宇宙ナルモノハ決シテ吾人ノ意識ヲ離レテ存在セズ。是等ノモノハ皆意識ノ現象ニシテ漠トシテ其ノ實在自身ヲ明確ニシ得ベカラズ。此ノ點ニツキテハ懷疑派ノ說モ亦之ヲ排斥シ難シ。是等ノ外物ハ皆吾人ノ根本的精神生活ニ利用シ得ラレ向上ノ具ト爲ルノ點ニ於テ存在シ之ニ役立ツ程度ニ於テ價值アルハミ、吾人ノ精神ガ不明ナル外界ノ從物ニハ非ズシテ精神ガ精神ノ爲ニ精神ヲ通ジテ精神ノ中ニ外物ヲ現ハシツアルノミト。此ノ「アウグスティヌス」ノ意識ハ知識ニヨリテモ言ヒ現ハサレ得レドモ彼ガ斯ノ如ク唱ヘタルハ思惟ノ結果ニハ非ズシテ精神ノ深キ所ヲ修養シタル結果トシテ絶エズ感ジタル全人格ニ治ネキ偉大ナル信仰夫自身ナリ。

「アウグスティヌス」ハ生活經驗ヨリ證得シタルモノニテ後ニ知識ニ依リテ言ヒ現ハシタルノミ。知識ガ後レテ信仰ガ先キナリ。

第三 自我アリ其ノ深キ内の經驗アルガ故ニ之ニヨリテ人間ヲ認メ得ルヲ認ムルコトヲ得ルモノナリ。

自我ヲ離レテ神在ルヲ證明シ得ズ。自我ヲ透シテ神ヲ見得ルナリ。自我無ク内的經驗無クンバ神モアルコトナク、淺薄ナル經驗ニヨリテハ眞ノ神ヲ感ズルコト能ハザルベシ。此ノ神ハ「イエス」及ビ聖靈ト一體ヲナシテ存在スレドモ、「イエス」ヲ透シテ感ゼラレ「イエス」内ニ畫カレタル「イエス」ト同質ナル神ナリ。
神ト「イエス」トハ本末ノ差ナク、聖靈又ハ天父ト聖子トハ双方ヨリ出ツトナス。三者ハ相待ツテ始メテ完全ニ存在スルコトヲ得レドモ、相待テル根據ノ上ニハ各、獨立シ、各、完全圓滿永久不滅ノ存在ヲナス。然レドモ三ツノ相異レル萬能者アルニ非ズ。同時同處同等ニシテ唯一ナル神ナリ。三位一體タル唯一ノ神ガ萬物ヲ創造シ人間ヲ愛護救済スルナリ。「イエス」ヨリ離レタル神ガ一己ニテ爲スニ非ズ、「イエス」一己ガ之ヲ爲スニモ非ズ、勿論聖靈ノミガ之ヲ爲スニモ非ザルナリ。(最小限度ノ國家表現人竝ビニ國法ノ前後ナキコト參照 佛教哲理 二九九頁)

代理代表ニ非ズシテ表ニ現ナリ

サレバ神ヲ信ズルコトハ「イエス」ト離レザル神ヲ信ズルノ謂ヒナリ。神ノ存在スルハ吾人ノ深キ内の經驗ニヨリ「イエス」ト離レザル神ヲ感ジ得ルガ故ニ神ガ存スルナリ。
「アウグスティヌス」ハ「イエス」ノ説キタル博愛ナル神ヨリ。而シテ「イエス」ハ神ト合一シツツアル人間ナリ。但シ人間タルコトヲ脱却シテ神ト爲リシ者ニ非ズ。「イエス」ハ神竝ビニ人間ノ表現者ナリ。

第四 「アウグスティヌス」ハ自己及ビ神ヲ感ゼシノミナラズ、又普遍我タル人間ヲ感ズルコト切ナリ。

神ニヨリテ救ハルベキ者ハ一般ニ人間トイフ者ナリ。各個人トシテハ神ノ自由ナル選擇豫定ニ從ヒ、特ニ神恩ヲ受ケ又ハ受ケザルコトヲ妨グズ。各個人ハ人間トシテ皆一體ナリ。故ニ一人ガ善ヲ爲スコトアラバ猶人間ノ善ト爲リ、一人ガ惡ヲ爲スコトアラバ猶人間ノ惡ト爲ル。「アダム」Adamガ神ノ命ニ背キシハ、彼一己ノ惡ニシテ又人間ノ惡ナリ。
「彼ハ人間ノ悉皆ガ既ニ「アダム」中ニ存在セルヲ認ム。其ノ責任ヲ負擔スベキ者ハ、彼一己ニ止マラズシテ悉皆ノ人間ナリ。各個人ハ「アダム」受クベキモノナリ。「イエス」ガ一己トシテハ罪無キニ拘ハラズ。其ノ身ヲ殺

自ラ後始末ヲ引受ク

「イエス」ハ一方ニハ神ノ表現者ナレバ其ノ死ハ神ノ愛ノ表現ナレドモ「イエス」ハ又他方ニ於テ人間ノ表現人ナリ故ニ其ノ惑ヲ斷ジ其ノ罪ヲ轉ジテ向上トナスコトヲ表現ス

セシモ人間トシテ人間ノ受クベキ刑罰ヲ引受ケシモノノミ。神ノ豫定ニ依リ人間ヲ救フベキ天職ヲ有スル神ノ子トシテ生レ來リシ「イエス」ガ此ノ豫定ニ依リ信仰ニ非ズ「アウグスティヌス」個人トシテハ何等ノ罪科ナキニ尙他ノ一切人ノ罪ヲ引受ケシモ此ノ意味ニ於テ神聖ナリ。個人ガ過失ナクシテ人間ノ病ヲ「ストア」ノ良心竝ビニ責任心ハ「イエス」ノ實行及ビ「アウグスティヌス」ノ感想ニ因リ、更ニ美事ナル果實ヲ結ビタルモノトイフベシ。

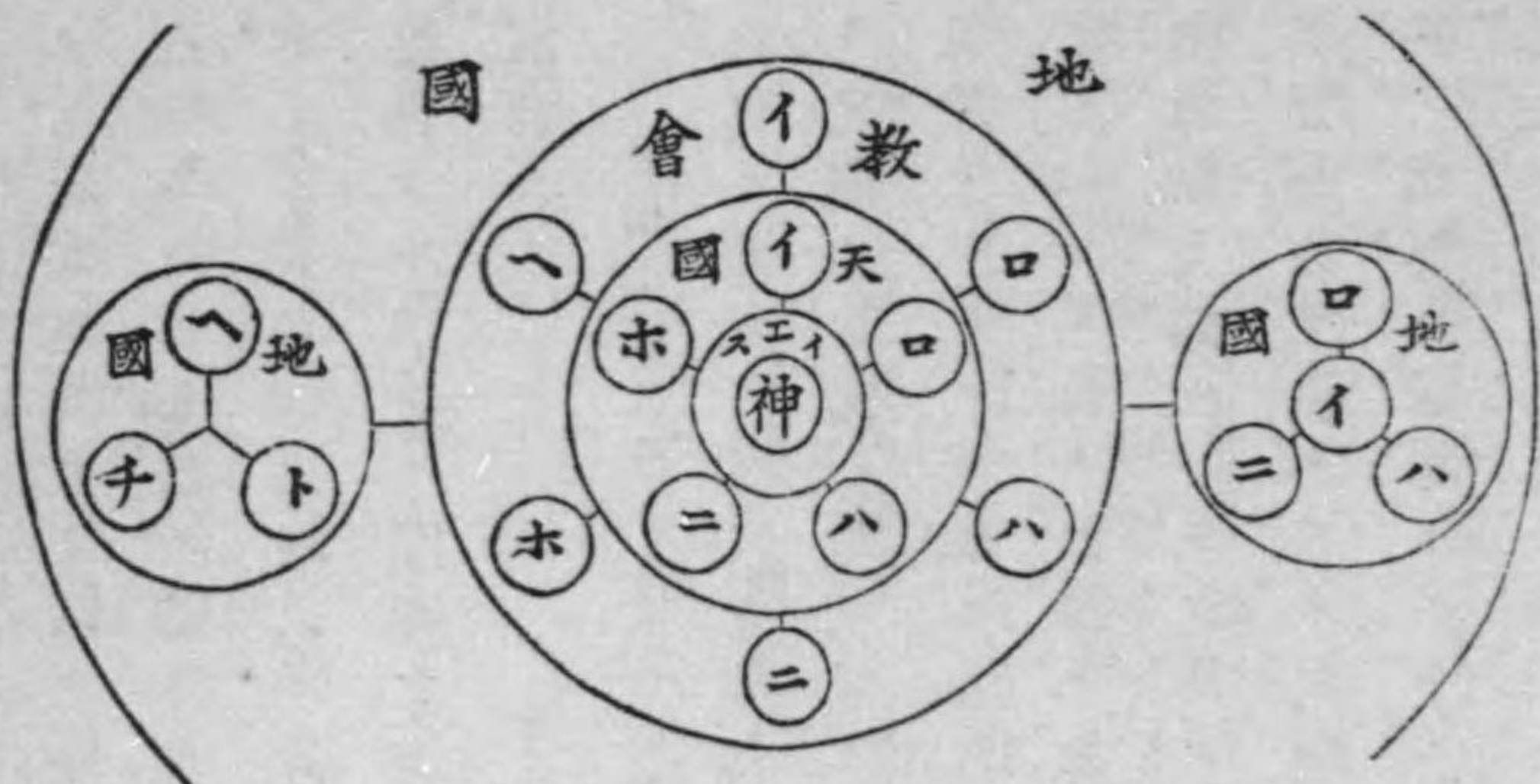
吾人ハ平生人ノ爲セシ苦ヲ引受ケテ居ル者ナリ。人ノ迷惑モ善キ事モ廻リ來ルモノナリ。自分獨リ仕テ事ノミヲ自分ニ引受ケルノデナク自己ノ事ニツキテノミ責任アリト思フハ狭キ考ナリ。只一人存在スルノデナク「アダム」「イブ」ヨリ一體ナリ。「イエス」ノ表現セシ人間ノ仲間ニ入レバ宜シ「イエス」ヲ信ゼバ「イエス」ト一體タル人間トナリ、從ツテ「イエス」ノ行動ニヨリ「アダム」以來ノ罪惡ヲ贖ハレ得ベシ。各個人ノ罪ハ「イエス」ガ救ヒ得ルトカ何トカノ議論アルモ大體ノ人間トイフ上ニテ存スルナリ。普通ヲ意識セシハ「アウグスティヌス」ノ大ナル所ナリ。「アウグスティヌス」ハ一體タル人間ノ存在ヲ經驗スルコト切ナリキ。「イエス」ガ有セシ博愛ニヨリ自己ノ行動ヲ一切人ニ回向セシメムトスル意識ハ「アウグスティヌス」ニヨリ人間各個人相互ノ間ニ擴張セラレタリ。「アウグスティヌス」

スノ經驗ニヨレバ各人ハ決シテ自力ノミニヨリ完全ナルコトヲ得ルモノニ非ズ。皆他カト相待チテ存在ス、一人ノ善惡ハ他人ノ善惡ト爲リ、一人ノ責任ハ他人ノ責任ト爲ルトイヒシモ即チ是ナリ。各人ハ相互ニ他人ヲ構成シ又他人ニヨリテ構成セラルトイフモ是ト同義ナリ。各人内部ノ品質ハ數量ニヨリテ之ヲ保障スルヲ要スルモ、又是等ノ意義ト離レテ認メラルモノニ非ズ。偶然ナル一個人ノ中ニ於テ全く具備セラレ、又他人ノ保障ヲ待ツヲ要セズ、他力ニ信賴スルノ必要ナキモノハ各自ノ慾性ナリ。併シ此ノ他ノ高尚ナル性質ハ高尚ナルモノホド益、數量ニヨリ外部ヨリ之ヲ保障スルコトヲ要シ、他力ニ信賴シテ之ヲ完成スルコトヲ要スルモノナリ。而シテ其ノ極點ハ神ノ信仰ナリ。神ハ己ノ内部ヲ通シテ觀ザレバ存在セザレドモ唯偶然ナルノ一己ノミヲ通シテ其ノ内部ニノミ存スルモノニ非ズ。一切人ヲ通シテ唯一ノ存在トシテ其ノ内ニ現ハルモノナリ。タダ取止メナク一切人ヲ通シテ其ノ中ニ存スルモノニ非ズ。總攬者タル「イエス」ヲ通シテ其ノ中ニ現ハレタル神ナリ。「イエス」ト前後本末ナク存在スル神ナリ。勿論神ノ實在ヲ否定スルニ非ズ。

第二支 教會並ビニ國家論(神國論)

「アウグスティヌス」ハ自我ヲ以テ「アルキメデウス」ノ點ト爲シタルガ、其ノ結果ハ所謂個人主義ニ終ラズシテ、反ツテ「イエス」ト離レズニ認メ得ベキ神ヲ是認シ、多數自我ノ相互ニ回向スル所以ヲ説キ、各人ノ間ニ於テモ自力ノミニヨル救済ヲ排斥シテ他力主義ヲ唱ヘタリ。此ノ他力ハ理論的ノモノニ非ズシテ實行的ノモノナルベク、無數ノ他力ヲ包括シテ普遍力タル他力ヲ發揚スルモノハ、使徒ト特別ノ關係ヲ有スル宗教團體ナラザルベカラズ。此ノ種ノ團體ヲ通シテ、個個ノ力ガ普遍力トシテ治ク一切人ニ及ブコトヲ得、各人ハ此ノ種ノ團體ノ力ヲ通シテ、廣ク一切人ノ他力ヲ受クルコトヲ得ルモノナリ。團體ヲ通シテ博愛ガ其ノ眞ノ働ヲ發揚シ得ルモノナリ。(立憲國ノ法理ガ獨立單純人間ノ相互ノ歸一又ハ構成關係ヲ認メズシテ、團體ノ單純人トノ間ノ歸一構成ノ關係ヲ認ムルコトヲ本則トナスハ、此ノ精神ト同一ナリ、立憲國ノ制度ハ博愛主義ガ制度上ニ實現セラレタルモノナリ) 是ニ於テカ彼ノ教會國家論ヲ略説セザルベカラ

第八十五圖 「アウグスティヌス」ノ三界ノ説



「アウグスティヌス」ハ其ノ神國論 *de civitate Dei* ニ於テ相對立シ相待ツテ離レザル國ノ三階級ヲ論ゼリ。其一ハ天國 *civitas caelestis* ニシテ三位一體タル神ガ自ラ愛ト自由トヲ以テ、各人内部ノ心其ノ深キ信仰ヲ支配シツツアリ。各人ハ各異ナレドモ、其ノ心靈ハ「イエス」ノ總攬ノ下ニ無差別平等ノ一體ト爲リ、國ヲ成シ、相互ニ圓融シツツアリ。其二ハ地國 *civitas terrena* ニ

此ノ三階級
ガ人類史
ノ證明スル
所ナルノ點
ニ照スル

シテ人間ガ強制力ヲ以テ外部ニ現ハルル各人ノ行動ヲ支配シツツアリ。人爲ノ法^{認定}及ビ人爲ノ正義ガ其ノ支配者並ビニ各人ノ行動ノ標準ナリ。其三ハ教會 ecclesia ニシテ地上ニ於ケル正當ナル神ノ信仰ヲ擴メ信仰ヲ修養セシムルノ要件タル信者ノ團體ナリ。使徒ノ後繼者タル羅馬法王ガ神命ヲ受ケテ其ノ支配者タリ。

天國地國教會ノ對立ヲ必要ト認メシハ人類ノ歴史上モ亦證明セラル。

教會ハ天國ニ非ズ不完全ナル地上ノ團體ナリ。尙形式ヨリ離脱シ得ズ過誤ナキヲ期スル能ハザレドモ各人ノ信仰ハ教會ノ他力ニヨリ指導セラレ是ニヨリ保障セララルルガ故ニ各自ノ偶然獨斷ニ陥ルコトナク始メテ正當ナル信仰タルヲ得ベシ。此ノ根據ノ上ニ各自ノ活動ガ始メテ人間一般ニ回向シ得ベキ博愛的活動ト爲ルコトヲ得ルモノナリ。故ニ此ノ教會ニ屬セザル者 地上ノ國家モ強制力ヲ以テ其ノ生命ト爲シ罪惡ニヨリ成立セシモノナレバ教會ニ歸服シ其ノ指導ト保障トノ下ニ立ツニ及ンデ其ノ強力ノ支配並ビニ活動ガ始メテ博愛ノ實現ト爲リ神國ト矛盾セズシテ存在スルコトヲ得ルモノナリ。國家

ハ各分子タル個人ヲ率キ一括シテ教會ノ下ニ立タシムルガ爲ニ正當ナリ。必要ナリ。各個人一般ヲシテ汎ク教會ノ命令ヲ奉ゼシメ博愛ヲ實行セシメテ天國ニ入ラシムルニハ國家ニ依リテ爲スヨリ有效ナルモノ在ラズ。是レ各個人ニ不完全ノ附着スル間ハ天國教會及ビ地國ノ三者ガ相竝ンデ缺クベカラザル所以ナリ。其ノ結果國家ヲシテ強カクテ異教徒ヲ嚴禁シ人民ヲ統率シ基督教信者タラシムルコトニ盡瘁セシメタリ。

「アウグスティヌス」ノ神國論ハ夫ノ中世ニ於ケル羅馬法王專制ノ旗幟ト爲リタルガ同時ニ近世諸國ヲシテ人類發達ノ爲ニ各自ノ範圍ノ特色ヲ分擔セシメ人道博愛ノ根據ニ立チテ其ノ分子ヲ統帥シ民族相互ヲシテ競争セシムルニ至レリ。近世各國相互ノ競争交際及ビ援助モ國內ノ一切人ヲ率キテ地上ノ平和人類ノ博愛及ビ融通並ビニ切磋琢磨ヲ實行シツツアルモノナリ。國家アルニヨリ各個人ノ行動ヲ表現人ノ行動トシテ容易ニ先ヅ團體内ノ一切人ニ回向セシメ次ギテ尙人類一般ニ回向セシメ得ルコトナリ各個人ガ國家ヲ通シテ國內ハ一切人及ビ世界ノ一切人ノ他力ノ下ニ生活活動シ得ル所以ト爲ルモノナリ。從ツテ人類ノ救濟發達ヲ目的トシ宇宙ノ研究ヲ目的トスル國內ニ於ケル個人

宇宙又ハ人
類ハ外ニ在
ラズ、日本
カ即チ、日
即チ人ノ
表現ナリ

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 教理ノ結成並ニ發達 六一八
ハ行動ハ國家ハ目的ト矛盾反對スルコトナシ、國家ハ目的モ終局スルトコロ、
人類普遍我ノ發達及ビ其ノ表現ニ注ルモノナレバナリ。 外國トイフ意味ニ非
ズ。 二六頁參照。

附錄

新歐羅巴人ノ思潮略說

目次

- 第一章 中世思潮ノ概要
- 第二章 中世後期ノ思潮
- 第三章 第十六世紀ノ思潮(過渡時代)
- 第四章 第十七世紀第十八世紀ノ思潮(自然法全盛時代)
- 第五章 第十九世紀思潮(歴史的分析時代)
- 第六章 結論

第一章 中世思想ノ概要

歐羅巴本部ノ新民族ヲ支配スルニ至リタル基督教ハ西方教會「ラテン」教會又

附錄 新歐羅巴人ノ思潮略說 第一章 中世思潮ノ概要

「スコラ」哲
學ノ形式ハ
ナルハ羅馬
的思想ノ形
的ナリシコ
トノ遺風ナ
リト本ノ獨
ガ動カザル
コト必要ナル
リキ

各個人ノ專
馬制ノ其
支制ノ其
ノ中心ヲ
ヲ主各獨立
メテ各人
是ヨリ各
服ハ事トス
ルニ至ル

ノ教ナリ。「イエス」及ビ其ノ後繼者ノ奮闘的主觀的精神ヲ繼承シ、羅馬古來ノ主觀主義トストアノ主觀主義トニヨリテ鍛鍊セラレタル氣風ヲ有シ、羅馬ノ法律制度ヲ學ビテ建テタル外部的組成ヲ有スル教會ガ、アウグスティヌスノ教會及ビ國家論ヲ其ノ旗幟トナシ、其ノ專制力ニヨリ、獨斷ヲ以テ、治ク世界ヲ統一セムトセシハ、中世ナリ。當ニ心靈界ヲ統一セムトセシニ止マラズ、アウグスティヌスノ希望セシガ如ク、基督教ノ信仰ノ上ニ之ト調和シ得ベキ古代ノ思想竝ビニ文明ヲ探リテ學問、法律、政治、經濟界ヲ統一セムトセシモノナリ。其ノ計畫ノ大ナルコト、其ノ主義ハ一貫セルコト、容易ニ他ニ求メ得ベカラズ。今日ノ歐羅巴人竝ビニ其ノ國家ハ實ニ此ノ教會ノ後見ノ下ニ成長シ、近世ニ至リ、其ノ成年時代ニ達シタルモノナリ。教會ノ力ニヨリ、各國各人ハ宛ガテ教會ノ化身ト爲リテ、新世界ニ雄飛スルニ至レリ。

今日歐洲人ノ氣質ハ羅馬教會ノ氣質ナリ。故ニ表面計リ見テモ西人ノ本質ハ解シ難シ、基督教ヲ通シテ觀察セザルベカラズ。

然レドモ或時代或場所ニ於テ、信仰修養ノ爲ニ用キラルル獨斷的教義竝ビニ

偶然ナル形式ハ、決シテ其ノ儘他ノ時代他ノ國ニ用キルコトヲ得ズ。況ヤ信仰ノ練習ノミニ屬セザル學問、法律、政治又ハ經濟ノ世界ニ用キントスルニ於テオヤ。中世ノ羅馬教會ハ其ノ專制力ヲ振フテ其ノ獨斷ヲ土臺トナシ、其ノ上ニ此ノ種ノ無理ナル企ヲ完成セムトセリ。從ツテ活キタル信仰ト是等ノ各方面トガ眞ニ調和スルニ至ラズ、徒ラニ基督教臭キノミニシテ、宗教上ノ獨斷及ビ偶然ナル私ノ形式ト相混同シ、互ニ妨害シ、其ノ悉皆ノ自由ナル進歩ヲ妨ゲタリ。此ノ時代ニ於テ不成功ヲ轉ジテ成功トナシ、專制的教會ヲ破リテ各國各人ノ自由ナル獨立ヲ計リ、宗教的專制ヲ排除シテ學問、政治、法律、經濟ノ真正ナル獨立ヲ企テタルハ近世ノ曙光ヲナスモノナリ。

第二章 中世後期ノ思想

歐洲中世ノ文明ハ新歐羅巴人ノ文明ナリ。之ハ宏大ナル外部的組成ヲ有スル寺院ノ監督ノ下ニ於テ其ノ取捨選擇スル所ニ從ヒ、古代ノ文明ヲ其ノ儘繼承セシモノニシテ、其ノ雄大ナリシト共ニ、全然基督教ノ獨斷ノ臭味ヲ脱スルコト

能ハズ。其ノ思想ノ特色ハ全ク神學的、基督教的、羅馬教會的ニシテ、且形而上學的ナルニ在リ。

中世ノ後半ニ至リテハ、教會ノ制度並ビニ獨斷ガ次第ニ發達シ、僧門統括制モ確定シ、古代ノ哲學ヲ利用シテ教會哲學ヲ興シ、自然ノ知識ト神學トノ連絡モ亦著シクナレリ。概念又ハ普遍ノミヲ以テ客觀的ノ實在トナシ、個物ノ實在ヲ否定シタル中世ノ實念論Realismus 名ハ實在論トイヘドモ内容ハモ亦學說ノ體裁ヲ備フルニ至レリ。一、普通ハ個物ニ先チテ存在スルノ實在ナリトスル。二、普通ハ個物ノ中ニ存在スル實在ナリトスル。三、實在ナリトスルノ實在論トナス。Universalia sunt realia in rebus. (此ノ外ニ個體外ニ普遍存在スルコレトナス) 的實念論トイフモノハ唯概念ナリト然ルニ充實及ビ普遍ヲ名トセル專制主義ニ飽キタルコトハ、ゲルマン人中ニ存セシ差別思想ト結合シ、希臘古代ノ思想ヲ採用シ、唯名論又ハ名目論Nominalismus ヲ發達セシメタリキ。(キニコス學派及ビ「ストア學派ノ知識論參照) 唯名論ハ普遍ハ個物ノ後ニ存在スル名稱ナリトスルモノ Universalia sunt nomina post rem. ニシテ實念論ニ對シテ勝利ヲ占メ。中世ノ教會哲學、其ノ長所ト短所トヲ問ハズ、唯名論ノ主義ヲ奉ズル、近世哲學ノ爲ニ打破セラ

信者タル民
衆が自ら信
仰團體ヲ作
レリ。例
々 Francis-
caner Order

レタリ。

唯名論ハ第十一世紀ノ後半ニ當リ佛ノ「ロスケリーマス」Roscelinus ニヨリ主張セラレ、英人「ロージヤー・ヤーロン」Roger Bacon 1214-1291 及「ドゥンズ・スコート」Duns Scotus 1265-1308 ヲ經「スコート」ハ英ニ生レ「フランチヌス」講社ニ入り「パリス」ニテ教ヘ「コルン」ニ於テ死ス「スコート」ノ弟子英人「ウキリアム、オッカム」William Occam + 1317 ニヨリ大成セラレ、同氏ニヨリ實念論ニ對スル最後ノ勝利ヲ得タリ。
英國故ニ近世ノ始メハ機械觀ノ方ガ勝ヲ制セシハ明ラカナリ。Universalia sunt realia. テナリ、Universalia sunt nomina ナリキ。

羅馬教會ハ在來普遍主義ヲ以テ獨斷維持ノ利器ト爲シ、アウグスティヌスノ自力方面ヲ棚ニ上ゲ置キ、專ラ其ノ他力方面特ニ教會論ヲ道具トナシ、各人ノ獨立個人ノ自由證得ヲ認メズ、全然普遍ナル教會ノミヲ是認シ、一ニ教會ノ教義並ビニ認定法ニ從ハシメタリ。唯名論ノ勝利ハ之ヲ打破シ、各個人ヲシテ其ノ所ヲ得セシメ、其ノ自然ノ本性ヲ發揮シ、其ノ内部ノ命令ニ從フテ活動セシムルコトヲ主義トセリ。却ツテ「イエス」其ノ重ンズル所ハ獨斷ノ形式的遵奉ニ在ラズシテ、自然ノ公平ナル研究ニ在リ。死シタル獨斷不完全ナル形而上學ノ產物タ

表現ト離レ
ザル普遍ニ
非ズ、偏執
セル普遍ナ

ル、誤リタル概念ヲ以テ實在トセズ、事實上生活活働シ、矛盾シ變遷スル個人個物ヲ以テ實在ノ唯一ナル根源トセシモノナリ。此ノ主義ハ古文復興並ビニ宗教改革ニヨリ近世ノ思潮ヲ開始セシメ、新鮮ナル活力ヲ以テ人類及ビ國民ノ共同生活ヲ改良シ、個人生活ヲ神聖ナラシメタリ。(以下佛教哲理中西洋思潮ノ大要以下九頁參照)

「アリストテレス」ヲ歸納法ハ、ヒドク中世ノ哲學ヲ鑄型ニ入ラシメ、又「イデア」論ヲ應用セリ。

第三章 第十六世紀ノ思想(過渡時代)

目次

- 第一節 古文復興
- 第二節 宗教改革
- 第三節 世間生活ノ獨立

近世思潮ノ幕明ケハ古文復興 Renaissance 宗教改革 Reformation 及ビ俗生活ノ獨立 Secularisation ヲ以テ著シキモノトシ、自然ノ尊重ハ其ノ總ベテヲ貫通セリ。近世

初期ノ著シキ事實ニハ活字ノ發明アリ、亞米利加ノ發見アリ。

第一節 古文復興

羅馬教會ガ約千年ニ亙リ、新歐羅巴人ニ高等ナル共同生活ヲ教ヘ、現實ノ思想ニ偏執セル野蠻人ニ無差別普遍ノ思想ヲ練修セシメタル結果ハ、人民一般ノ道德經濟法律政治其ノ他一切ノ社會狀態ニ著シキ進歩ヲナサシメタリ。中世ノ終リニ及ンデハ、最早ヤ專制的獨斷的形式的ナル教會ノ媒介ヲ待タズ、自ラ精銳ハカ進取ノ氣象ヲ以テ直接ニ古代文明ノ跡ヲ踏ミ、其ノ研究方法ヲ襲用シ、外物界及ビ社會ノ自然並ビニ歴史ヲ研究シ得ルニ至ラシメタリ。就中此ノ活キタル氣風ハ、眞面目ナル心靈ノ修養、事實上經驗シタル普遍ノ根據ノ上ニ、精神ニ富ミ調和ヲ失ハザル美術ヲ創設セシメ、調和セル自然界ノ研究ニモ種種ノ著シキ發見ヲナサシメタリ。獨逸人「ニコラウス・コペルニクス」(Nicolaus Kopernicus 1473-1543)ガ天體ニ關スル發見ヲナシ、今日ノ天文學ノ基礎ヲ作りシモ亦此ノ時期ニ在リ。古文復興ハ相爭フテ歸スル所ナカリシ古學ノ復活ナリ。古學ノ復活ト共ニ

數多ノ矛盾反對セル學說アリテ其ノ適歸スルトコロヲ知ラザラシメタリ。然
 モ斯ノ如キハ却ツテ益々其ノ偶然ヲ去リ、獨斷ヲ排シ、自然ノ眞面目ヲ研究シ得セ
 シメ、學問ノ進歩ヲ促ガサシメタリ。但シ此ノ複雑ナル思想場裏ニ在リテ悉皆
 ノ學者ニ通ジ、一切ノ人民ニ行キ互リテ動カスベカラザル意識ハ、各個人ノ自
 ナリ。各自ガ其ノ内部ニ信賴セムトスルノ意識ニ在リ。各個人ノ有スル知識
 ノ正當ナルコトヲ信ズルト共ニ懷疑論ノ全然屏息セルコトニ在リキ。中世ハ
 「アウグステイヌス」ノ他力説ノ實現ニシテ、近世ハ同ジ「アウグステイヌス」ノ自力説ヲ
 以テ開始シタルモノトイヒ得ベシ。而シテ神學ヲ離脱シ哲學上之ヲ自覺ニ上
 セタル者ハ、第十七世紀ノ「ルネ、デカルト」René Descartes (Cartesius) 1596-1650 ナリ。マ
 タ「神聖ナル自我ノ確證」ニヨリ自己ノ所説ヲ確守シテ異端罪ニ問ハレ焚殺セラ
 レタル者ハ、伊國ノ哲學者「ジヨルダノ、ブルノ」Giordano Bruno 1548-1600 ナリ。「ブルノ」
 「ハ基督教ノ獨斷ヲ離レテ古代並ビニ基督教中ニ藏セラルル汎神論ノ精神ヲ
 結晶セシメ、歐洲近世ノ汎神論ノ先祖ト爲リタル者ナリ。彼ハ元「下」ニカ
 「デカルト」及「ジヨルダノ、ブルノ」ハ大切ノ人也。基督教ヨリ得タル精神ニシテ、死シテモ掃

ハマ氣象ハ近世ニ至ルマデ存ス。古代ノ終リニ殺サレテ喜ビシハ傳道者ノミナリシガ、中世
 以降ハ學問技術發見ニ志ス人人ニマデ推シ擴メラレタリ。

第二節 宗教改革

古文復興ニヨル各個人ノ自意識ノ發達ハ、實際上腐敗シ又形式化シタル教會
 ノ專制ヲ脱シ、其ノ獨斷ノ羈絆ヲ離レ、各自ノ自由證得ヲ重ンズル新教ヲ樹立セ
 シムルニ至レリ。其ノ結果ハ宗教生活ノミナラズ國家生活並ビニ學問美術ノ
 生活ニ自由主義ヲ認メ、且舊羅馬教會ヲモ刺激シテ新生活ヲ爲サシムルコトト
 ナレリ。今宗教改革ノ主要ナル影響ヲ述ベム。

第一 宗教改革ハ古文復興ト相待チテ著シク宗教生活ト世間生活トノ間ヲ
 調和シ、此ノ世ニ於テ神國ヲ實現セシムルヲ以テ主タル目的ト爲セリ。此ノ點
 ハ新教ニ於テ殊ニ顯著ナリトス。

例ヘバ「ルター」Luther自身ハ率先シテ家族生活ヲ營メルガ如シ。是レ中世ニ於テ頭ヲ擧
 ゲテハ神ヲ望ミ、頭ヲ垂レテハ罪惡ヲ回想スルノ外餘念無カリシト、大ニ趣ヲ異ニスル所ナリ。

第二 中世ニ於テハ神ニ事フルニハ各自敬神ノ念ノ厚キヲ要求シタルノミ

Martin Lu-
ther (geb.
1483)
Johannes
Calvin (geb.
1509)
Ulrich Zwi-
ngli (geb.
1484)

ナラズ、必ズ教會僧侶ノ媒介ニヨルヲ要シ、人間間ニ存スル他力ニ信賴スルヲ以テ信仰ノ要件トナセリ。之ニ反シテ改革以後ハ全然各自ノ自力ニヨリテ「イエス」ト離レザル神ニ事フルコトヲ得、神ノ愛ニ接スルコトハ、一ニ各個人ノ自由事業タルニ至レリ。

第三 宗教改革ハ國家ヲシテ、全然羅馬教會ノ教權ヨリ獨立セシメ。國家ヲ以テ決シテ教會ノ下ニ立チ其ノ用ヲ爲スベキモノニ非ズト認メシメ。同時ニ國家ヲシテ教會ノ教理ヲ奪取シテ、自家ノ法理ト爲シ、教會ノ制度ヲ持チ來リテ自家ノ制度ト爲サシメタリ。即チ寺院ノ權力ハ神授ノモノナリト主張セラレタル中世ノ教會說ニ模倣シテ、國家コソ王國ヨリ侯國ニ至ルマデ悉ク神意ニ基ヅキ存スルモノナリト説明セラレ、國君ハ皆神授ノ權力ヲ有スル者ト信ゼラレタリ。神ヨリ授ケラレタル「神ノ權力」ナリトマデハ「行カズ、神ヨリ得タ」ル君主ノ特權ナリト考ヘ、君主ヲ國權ノ主體ト見ル傾向ナリキ。其ノ上獨立シタル國家ハ僧門統括制ヲ採用シテ自己内部ノ意志組織ヲ完成シ、教會法ヲ奪フテ國法ノ一部ト爲シ、羅馬教會ノ專制的侵略主義專制的統一主義ヲ學ビテ國內ヲ統一シ外國ニ干涉スルニ至レリ。出世間ノ法理並ビニ政策ガ

宗教改革ト共ニ一轉シテ世間ノ法理並ビニ政策ニ化シタルモノニ外ナラズ。

近世ニナレバ教會、寺院基督教ト離レテ國家ヲ研究シ得ベシト考フルハ大ナル間違ナリ。中世ノ形式精神ヲ其ノ儘俗世間生活ニ採納セシモノナレバナリ。

第三節 世間生活ノ獨立

近世ハ出世間的ナル教會ノ普遍主義ノ打破ト共ニ始マレリ。然レドモ實際上永ク養成セラレタル信仰ハ、近世初期ニ在リテハ尙深ク人心ニ浸潤シ、普遍主義モ亦等シク生活ヲ支配セリ。故ニ近世ノ主義ハ個人主義ノ是認ニ始マリシガ、同時ニ國民生活ノ是認人類生活ノ是認ヨリ起レリ。國民主義 Nationalism 人道主義 Humanism ハ即チ個人主義 Individualism ト共ニ近世ノ題目ナリ。而シテ實行上之ヲ調和セムト試ミテ成功セシモノハ、教會ニハ非ズシテ國家ナリ、君主ハ其ノ權勢ヲ中心トシテ國民ヲ範圍ト爲ス統一的ノ團體ヲ作り、一方ニハ其ノ内部ニ於ケル不自然ナル小團體及ビ階級ヲ排除シ、直接ニ各人民ヲ保護シ、他方ニハ外國ト競争シテ優勝ヲ得ムト期待セリ。之ヲ近世ノ專制君權國トナ

ス。地上ノ國家ハ最早ヤ獨斷的形式的ナル教會ヲ離レ獨立シテ神國ヲ實現セシメ得ルノ時期ニ達シタリシナリ。

第一 近世ノ社會生活ハ國家專制主義殊ニ君權專制主義ヲ以テ始マレリ。當時ノ君主大諸侯ハ專制ノ方針ヲ採リテ其ノ國家ヲ確立セリ。而シテ學者トシテ之ヲ是認シ獎勵シタル者ニハ、伊太利ノ「ニコロ・マキアヴェッリ」Nicolo Machiavelli 1469-1527 アリ、佛國ノ「ジャン・ボイダン」Jean Bodin 1530-1596 アリ、夫ノ「ルイテル」ノ如キモ君權神授ヲ是認セリ。

第二 然レドモ之ト相竝ビテ制限君權主義及ビ民權主義ニヨリ、個人性ヲ發揮セムト圖リタルコトモ、亦已ニ第十六世紀ニ見得ル所ナリ。「カルヴン」Jean Calvin 教徒即チ改革教會ノ全部及ビ「ルイテル」派ノ一部分ハ君權ノ制限ヲ必要トナシ、尙民權主義及ビ共產主義ヲ唱導スル者ヲモ輩出セシメタリ。英國ノ「トーマス・モールズ」Thomas Mor's 1480-1535 ハ一五二六年ニ「ウイトピア」Utopiaヲ著ハシ共同所有ヲ唱ヘ、遂ニ死刑ニ處セラレ、佛國人「ユーベアラング」Hubert Langnet 1518-1581 英國人「ジョージ・ブチナン」George Buchanan 1506-1582 「リチャード・フーカー」Richard Hooker 1535-1600 ハ民

約論者ニシテ、君民ノ契約ニ重キヲ置ク者ナリ。就中羅馬教會ノ革新ト共ニ起リ、其ノ忠僕タル「イエズイート」Jesuit 講社ハ舉ツテ君權主義ニ反對セリ。其ノ中學者トシテ掲グベキ者ニハ「ジャン・マリアーナ」Juan Mariana 1536-1624 アリ、彼ハ第十六世紀ノ終リニ君主論ヲ著ハシ、自然状態ヲ基礎トセル民約論殊ニ社會契約論ヲ唱ヘタリ。伊太利ノ「イエズイート」ナル「ロベルト・ベラルミン」Robert Bellarmine 1542-1621 モ民權論者トシテ知ラルル者ナリ。

宗教改革者中ニ於テモ其ノ俗權ニ對スル見解ハ一様ナラズ。「ルイテル」ハ諸侯ノ後援ヲ得テ其ノ改革ノ目的ヲ達シ、其ノ所説ニ於テモ、王侯ハ神命ヲ受ケテ神ノ民ヲ統治スルモノタルコトヲ認メ、其ノ有スル權力ニ裏書シタリ。故ニ其ノ教ハ君權國ニ於テ歡迎セラレツツアリ。然ルニ「カルヴン」ハ「ジエネヴァ」市民ノ贊同ヲ得、自ラ神權政治ヲ行ヒ、王侯ハ有スル俗權ノ制限並ニ之ニ對スル信者ノ自由ヲ主張セリ。(教權ヲ有セシ彼自身ハ專制的ナリ、其ノ教會ノ組織モ長老主義ヲ執レリ) 其ノ教ハ夫故、其ノ當時君權專制確定時代ナリシ佛國ニ於テ繁榮スル能ハズ、此ノ國ヲ超エテ個人ノ自由ト獨立獨歩ヲ主義トスル和蘭地方ニ根ヲ張リ、移ツテ「スコットランド」ニ入レリ。「イングラント」ニ於テハ、英國王ヲ戴ク自己在來ノ教會(英國國立教會ナリ)ヲ有シタレバ、主トシテ其ノ專制ト弊害トニ不服ナリシ「スコットランド」人ヲ動カシ、遂ニ所謂清教徒 Puritans ヲ生ゼシメタルナリ。是等ノ人人ハヤガテ本國ノ抑壓ニ堪ヘカネテ「アメリカ」ニ

移住シ、此ノ所ニ於テ、信仰ノ自由ヲ樂シメシガ、遂ニ此ノ信仰ニ根據シ當時西洋人ノ理想ト信
ジ正義ト考ヘタル國家契約説ヲ實行シ、純粹ノ民權國ヲ設立シタリ。(信仰無キ建國ニ非ズ、清
教徒ノ信仰ガ基礎トナリ、民約説ヲ理想トシテナセル建國ナリ)此ノ北米合衆國ノ建國ハ著シ
ク、先進國民ヲ以テ自ラ許セシ佛蘭西人ヲ刺激シ、彼等ヲシテ革命ニ向ツテ急進セシメタリ。
「ジエネヴ」市ノ「カルヴキン」ハ歐米人ニ大ナル影響ヲ與ヘタリ。

第四章 第十七世紀第十八世紀ノ思潮

(自然法全盛時代)

目次

- 第一節 概論
- 第二節 第十七世紀(立系時代)
- 第三節 第十八世紀(啓蒙時代)

第一節 概論

近世ノ文明ハ信仰ヲ鍊修シタル中世ノ基礎ノ上ニ發達スルコトヲ得タレド

モ中世ガ餘リニ專制的干涉的獨斷的ニシテ、極端ニ自然人事ヲ輕蔑シタル反動
トシテ、中世ノ形式並ビニ思想及ビ信仰ニ反對シツツ建設セラレムトシタルモ
ノナリ。羅馬教及ビ中世の出世間ノ專制ヲ破碎シテ、基督教各宗派ノ獨立及ビ
世間生活並ビニ學問ノ獨立ヲ企テタルモノナリ。新歐羅巴人ガ永キ間教會ノ
訓練ヲ受ケタルダケ、一層急速ニ選俗シ、教會ノ專制ガ極端且、不道理ナリシホド、
愈々旺盛ナル勢ヲ以テ舊式ヲ打破セリ。第十六世紀ニ存セシ全部並ビニ獨斷的
宗教ノ思想ハ第十七世紀ノ識者間ニハ最早ヤ片影ダモ止メズ、第十八世紀ニ跨
リ、單純明瞭ナル個人主義トナリ、知識主義トナリ、自然主義トナリ、所謂自然法説
ノ全盛時代トナリシモノナリ。

俗事ニ關スル嗜好ハ急進シ、何事ニ關セズ苟クモ俗ノ字ヲ以テ形容セラルル
事項ハ大小トナク社會ヲ支配スルニ至レリ。俗事ノ中心點ハ佛國ナリ。俗世界
ヲ研究スル近世ノ法律學及ビ國家學モ皆第十六、第十七世紀ノ間ニ生誕セリ。
是等ノ學者ハ已ニ羅馬教ノ獨斷的神學ニ根據シテ其ノ敷衍ヲ事トセズ、各人ノ
内部ニ存スル悟性 Verstand 理性 Vernunft 根據シ、論理ニヨリテ之ヲ排列セリ。

附錄 新歐羅巴人ノ思潮略說 第四章 第十七世紀第十八世紀ノ思潮 第一節 概論 六三四

神意ハ認定法ヲ説明スルノ根據ト爲ラズ。自然人生及ビ是等ノ認識ヲ根據トシテ論述シタルガ外物ノ認識ニツキテ次第ニ實驗ノ價值ガ認めラレ終ニ精神現象ノ講究ニモ推シ及ボサルルノ地盤ヲ作り第十七世紀ノ終リニハ認識論ノ基礎ヲ立テシメ第十八世紀ノ後半ニ至リテハ「カント」ノ認識論ヲ大成セシメタリ。

「デカルト」ヨリ「ロク」Locke「ライブ」Leibnitz「バークレー」Berkeley「ヒューム」Humeヲ經テ「カント」ニ至ルニカント「エチカ」Ethic在リ。

然レドモ社會生活ノ研究ニツキテハ尙ホ實驗ニ重キヲ置クコトナク思辨的ニシテ第十八世紀ノ終リマデハ獨斷的ナル自然法學說流行ノ時代ナリ。社會及ビ君民ノ契約說ハ國家法律學ノ獨斷的基礎ト爲リ之ヲ不動ノ正理ト看做シテ一切ヲ論議セリ。此ノ獨斷的契約說ノ根本タル意識ハ個人主義ノ是認ニ在リ。各人ハ本來國家ノ一分子ニハ非ズシテ夫レ夫レ獨立全部者ナリ。國家ハ各個人ノ目的ノ爲ニ其ノ自由ニ作ラレタルモノニシテ各個人ニ後レテ存在スルニ至リシモノナリ。國家ガ本ニ非ズシテ個人ガ本ナリ。自我在ルガ故ニ國家アリ自我ノ爲ニ國家ガ存在ストナセリ。

宗教上ノ獨斷ニ換フルニ知識上ノ獨斷ヲ以テセリ。「カント」ノ如キスラ民約論ヲ唱ヘテ居

レドモ其ノ基礎ガ正當ナラズ。

西洋近世ノ文明特ニ今日ノ文化ハ元町人ノ氣風ニヨリ改造セラレタルモノナリ。商人ハ勝利ト共ニ人ハ商人化セラレ法制ハ悉ク商法化セラレタリ。此ノ影響ヲ受ケツツアル皇國モ日本古武士ノ氣風ハ消失シ町人等ノ嗜好風習ガ自然ナリトシテ一般ニ歡迎セラレ。私利欲私ノ目的ヲ中心トスル根性ガ普及シツツアリ。公法ノ領域ニ於テサヘモ私法流ニ議論ヲ立テザレバ法律的議論ニ非ズト思惟スルガ如キハ其ノ基ク所技ニ在リ。

當時ノ自然法說ノ思潮中ニハ二種ノ元素ヲ包含ス。一ハ消極的の元素ニシテ他ハ積極的の元素ナリ。消極的の元素トハ基督教ノ神學的世界觀ヲ離レ獨立シテ自由ニ思索セシコトニシテ積極的の元素トハ契約ヲ獨斷シ各自偶然ノ想ヒツキヲ出發點トシテ國家法律ノ一切ヲ説明セムトセシコトナリ。各個人ハ自己自由ノ意思ニヨリ國家ニ服從スルコトヲ明示的又ハ默示的ニ承認セルガ故ニ國權ニ服從スルノ義務ヲ生ゼシモノナリトセリ。此ノ時代ノ各個人ハ教會ノ專制ヲ脱シタルト共ニ一ト先ヅ小個人ノ獨斷及ビ個人專制ヲ神聖ナルモノト信ジタルナリ。自然法說ノ前驅ノ第十六世紀「ランゲ」Languet 1519-1521 等ナリ。

ヲ、異ニシ、其ノ何レニ據ルベキカヲ知ラザラシメタリ。

第二款 各學說

此ノ世紀ニ一般哲理ヲ討究シタル學者ニシテ特ニ注意スベキ人ニハ、英ノ「フランシス・ベーコン」Francis Bacon 1561-1626 及ビ佛國ノ「レネ・デカルト」René Descartes (Renatus Cartesius) 1596-1650 アリ。「ベーコン」ハ論理學ノ泰斗ニシテ、現今ニ至ルマデ近世ヲ貫キテ、彼ノ實利主義論理主義ノ下ニアリ。「デカルト」ハ分析ニヨリ自明ナル根據ヲ「自我ノ意識」ニ求メ(Cogito ergo sum) 純理論ヲ唱へ、外界ノ機械論ヲ説キ、近世哲學ノ系統ヲ組織シ、其ノ祖ト爲レリ。形而上學的ニ認識論ノ基礎ヲリシモノナリ。其他英ノ「トーマス・ホブズ」Thomas Hobbes 「ジョン・ロック」John Locke 和ノ「バルック・デスピノザ」Baruch Despinosa 獨ノ「ゴットフリート・ライブニッツ」Gottfried Leibnitz 等ハ法學上ノミナラス、一般哲理ノ變遷發達ニ重要ナル地位ヲ占ム。今次ギニハ當時ノ國家法律論ニ關シテ有名ナル學者竝ビニ其ノ意向ノ大要ヲ略記スルニ止メム。

兩者ノ人格ノ比較「デカルト」ハ心物ノ相対立ヲ論ズルニ相

又 Bacon

「ベーコン」ト「デカルト」トハ兩大關ナリ。後者ハ派手デナク「スウェーデン」Sweden 王ノ處ニテ客

死セルガ前者ハ派手ニシテ賄賂ナドヲ取リシタメ失策セリ。考モ相對立シテ今日ニ及ブ。

第一 「ヨハネス・アルトワージウス」Johannes Althusius (獨) 1557-1639

「アルトワージウス」ハ法學神學及ビ哲學ヲ修メテ、遂ニ人道主義 Humanismus ノ精神ヲ體得セシ者ナリ。其ノ法學ニツキテハ差別的ナル羅馬法ニ歸シ、神學ニツキテハ「カルヴァン」Calvin 宗ニ屬シ、哲學ニツキテハ希臘古代殊ニ「アリストテレス」ニ據レリ。人道主義ヲ重ンズルト共ニ、獨斷專制ナル羅馬教會及ビ其ノ普遍主義ヲ否認シ、專ラ論理及ビ主理的論理ヲ所依トセリ。其ノ思想ニハ深ミハ無ケレドモ、論理的透明ナル頭腦ハ能ク民權的民約說ニ巧妙ナル體裁ヲ與ヘタリ。民約ヲ分析シテ社會契約ヲ主トシ、統治契約ヲ從トセシモ、彼ニ始マレリ。

人民ガ共ニ社會ヲナストノ契約ト、君主ヲ戴クノ契約トハ別ナリトセリ。統治契約ノ方ハ第二段ノモノニテ破リ得ルトセリ。

第二 「フリーゴロ・グロテウス」Hugo Grotius

Aristoteles Calvin

(de Groot) (和) 1645-

Hippinus
Aristoteles
Oloero
Cantvin

希臘啓蒙時代ノ詭辯論者「ヒッピナス」及「アリストテレイリス」並ビ「ストア」哲學ノ影響ヲ受ケ、且「キケロン」哲學、羅馬法學ノ研究ニヨリ、又前世紀ニ「ジネツァ」 Geyner (Genf) ヲ起リ和蘭ヲ動カシタル「カルヴン」宗ノ思想ノ下ニ民權主義、自然法說殊ニ人性法說ヲ唱ヘ、人性法說ハ「ヒッピナス」ヨリテモ唱ヘラレタリ。人道主義ト共ニ國際的生活ヲ要求セリ。彼ノ法理論ハ人民契約ヨリ始マレリ。民約說ハ既ニ「グロテ」ウス以前ニ存セシガ、彼ノ論ハ穩健ニシテ且精神ノ活キタル點ニ於テ大ナル勢カヲ得、其ノ國家說倫理觀ハ近世ヲ通ジテ永ク其ノ生命ヲ持續セリ。其ノ說ニ曰ク、人ハ共同生活ヲ爲スベキ性質ヲ有ス。此ハ内部ノ要求ガ相互ヲシテ契約ヲ結ビシメ、國家法ヲ設定セシメタルモノナリ。故ニ國家ハ權利ノ共有ト一般ノ利益トヲ目的トスル個人ノ自由團結ナリト。

第三 「トーマス・ホッブス」 Thomas Hobbes (英) 1588-

Ephkuros

「ホッブス」ハ近世ノ原子論唯物論ノ祖ニシテ、又實證論 Positivismus ノ遠祖ナリ。力學トシテ、國家學法律學ヲ解決セムトセシコトハ、彼ノ活眼ヲ具ヘタルヲ證スルモノナリ。彼ハ古代詭辯論者ノ自然法學說ヲ採リ、且「エビクイロス」及ビ其ノ快樂說ノ影響ヲモ受ケタリ。曰ク、人性素ト惡、利己心アルノミ、故ニ自然ノ狀態ニ於テハ、各人ニ對スル各人ハ、爭鬪 Bellum omnium contra omnes アルノミ。此ノ苦患ヲ脱セムガ爲ニ相約シテ、國家狀態ヲ開始セリ。併シ民約ノ結果ハ、各個人天賦ノ權利ヲ絶對ニ君主ニ讓渡シタルモノナリト。サレバ、彼ハ國權萬能主義即チ國家專制主義ヲ主張シ、君主ノ權力ノ犯スベカラザルコトヲ認メ (Hobbesianismus) 「君主即チ國家」ガ唯自ラ反省シテ合理的政策ヲ採ルノ外ナキモノトシ、之ニヨリ合理主義ニ歸著スベキモノナルコトヲ要求セリ。曰ク、認定法ハ此ノ君主即チ國家ノ命令ナルガ故ニ絶對ノ效力ヲ有スルモノナリ、唯理法タルガ故ニ強制力ヲ有スルモノニアラズト。認定法命「ホッブス」ノ說ハ當時隆盛ヲ極メタル民權論ト相並ビテ永ク歸依者ヲ有シ、殊ニ立憲國ノ制度ニ於テ兩極端ノ說ガ融合スルコトヲ得タリシナリ。

其ノ當時ニテハ極メテ正當ノ說ナリ。民權論ノ大ニ盛ンナルトキニ言ヘルモノニテ、第二
十世紀ノ時代ヲ以テ考ヘテハナラヌ。獨乙帝國ヤ亞米利加合衆國ノ約束ニテ出來タルガ如
シ。約束シテ出來タレドモ各州ノ最高立法權ヲ拋棄シタルモノナリ。

第四 「バルク、デスピノザ」Baruch Despinoza

(和) 1632-1677 「アムステルダム」Amsterdamニ生ル、西班牙
猶太人ナリ、異端者トシテ猶太教會ヲ逐ハル。
Baruchハ「アブラハム」語ナリ、「ラテン」語ニ譯
シテ Benedictus トイヒ、Benedict 略稱ス。

Benedictus
de Spinoza
又ハ Baruch
Despinoza

情緒慾性ハ
哲理的認
之ヲ大規模
ニ法制上是
認センハ第
十四世紀ナ
リ

「スピノザ」Spinozaハ「ストア」及ビ「ゾルダノ、ブルノ」ノ思想ヲ繼ギ汎神論ヲ唱導
シ同一哲學 Identitätsphilosophieヲ主張セリ。心ト物トハ唯一ナル本體ノ兩方面ナ
ルコトヲイフモノナリ。從ツテ彼ハ外界ノ機械觀ヲ採リテ精神界ニ應用セム
トセリ。其ノ國家論ニツキテハ又民約說ヲ唱ヘ「ホッブス」ニ反對シテ自由主義ヲ
以テ結論トナシ、其ノ生活モ亦著シク異ナレリ。唯不屈不撓ノ覺信ヲ以テ自己
ノ學說ヲ任ゲザリシ點ニ至リテハ共通ナリ。

皆偶然ヲ本トスル故ニ正反對トナル。「ホッブス」ハ政府ニ用キラレ、「スピノザ」ハ眼鏡屋ナリ。
猶太人ナルニ關ハラズ「ハイデルベルヒ」ノ大學ヨリ聘セラレシガ頑トシテ赴カザリキ。

第五 「ザムエル、プファン、プーフエンドルフ」

Samuel von Pufendorf (獨) 1632-1694

「プーフエンドルフ」ハ「グロタイウス」及ビ「ホッブス」ノ說ヲ巧ミニ折衷シテ民約說ヲ立
テ、國權統一、權力集中ノ必要ヲ是認セシ獨逸ノ官學者ナリ。

第六 「ジョン、ロック」John Locke (英) 1632-1704

「ロック」ハ個人ノ認識能力ヲ研究シ、知識ノ凡テ後天的 a posterioriナルコトヲ論ジ、
實驗ガ悉皆ノ知識ノ唯一ノ淵源ナルコトヲ主張セリ。從ツテ其ノ國家法律論
ニ於テ採用シタル民約說ヲ辯護シテ民約ヲ以テ歷史上ノ事實ナリトセリ。而
シテ英國ノ現狀ヲ標準トシテ述べタル國家制度論ガ、後日佛國人「モンテスキュー」
Montesquien ノ三權分立論ノ基礎ヲ爲シタルコトハ人ノ知ルトコロナリ。

第七 「ゴットフリード、ウエルヘルム、フアン、ライ」

獨逸哲學ノ祖ト稱シ得ベシ

Platon
Aristoteles
Melancthon

三台ノ一念
千嚴ノ多
華嚴ノ一
相融ノ多
種與ノ多
唯識ノ多

「ライプニッツ」Gottfried W. von Leibnitz (獨) 1646-1716

「ライプニッツ」ハ殊ニ哲學及ビ數學ニ於テ有名ナレドモ近世ニ於ケル最モ多方面ノ學者ノ一人トシテ學問ノ總ベテノ領域ニ亘リテ功績ヲ立テタリ先ヅ法律學ヨリ入り政治家及ビ外交家トシテモ活働セシ人ナリ。彼ハ實際家トシテ法律家外政治家ハタリ。學者トシテハ言語學、數學、物理學、法學、政治學、哲學及ビ神學ニ通達セリ。就中神學ハ新舊兩教ヲ兼ネ、新教ニツキテハ「ルター」カルゲン」兩宗ニ通達セリ。彼ハ外界ノ機械觀ト「ブラトーン」及ビ「アリストテレウス」ノ目的論ヲ結合セシメ、又新教ノ神學ト舊教ノ神學ト哲學トヲ合一セシメタル者ナリ。「メランヒトーン」Melancthonノ研究ハ此ノ點ニツキテ彼ニ影響セリ。彼ハ唯心論者ニシテ「ブルノ」ニ次ギ單子論 Monadologieノ主唱者ナリ。「スピノザ」ノ一元論ニ反シ「モノイド」Monade 活動的の原子ナリ故ニ自動的の自發的の力ナリトハ獨立自存ノ主體タル單一的的精神ヲイフ。即チ精神の單子ナリ。佛敎唯識論ノ種子(佛智)三六七頁以下(華嚴ノ多相)容不同ノ理同上「モノイド」ハ無數アリ豫定調和 Præstabilite Harmonieニヨリ四三八頁以下參照「モノイド」ハ無數アリ豫定調和 Præstabilite Harmonieニヨリ融合調和ス。各個人モ亦小宇宙ニシテ各獨立シ自存スル自主體ナリ。此ノ自

Sidon
Diplannus
Grotius

Monkes-
quien

存ニ基ヅキ有スル眞正ナル權利ノ主張ヲ調和スルモノガ認定法ナリ。故ニ法律學ハ權利ノ學問ナリ。茲ニ於テカ法律學ハ正義ノ學「ストア」ウルピアス」グロテウス」參照ヨリ權利ノ學トナリ在來ノ義務本位ノ學ハ轉ジテ權利本位ノ學問トナレリ。之ト同時ニ各個人ハ獨立自存ノ主體ナレドモ其ノ權利ノ主張ニハ豫メ存スル調和ノ法則アリ。唯物論者ノ「ホブス」ハ國家法律ヲ力學ニヨリ專制的ニ説キタルガ唯心論者タル「ライプニッツ」ハ「モノイド」各自ガ己ノ内部ニ具備スル豫定調和ニヨル力ノ關係ニ基ヅキテ國家法律ヲ説明セムトセシ者ナリ。「ルソー」殊ニ「カント」參照)而シテ彼ハ極力「ロック」ガ主張セシ當時ノ純經驗論ニ反對シテ主理論 Rationalismus 純理論ト呼ブヲ唱ヘタルガ「カント」ノ道德論參照法學研究ノ方法ニツキテモ始メテ歴史的比較的研究ノ必要ヲ論ジタリ。「モンテスキエ」參照)彼ガ獨斷偏見ニ甘ンジタル者ニ非ザルコト其ノ包容的ナルコト推シテ知ルベシ。

以上諸學者ノ外ニ自然現象ノ研究ニツキテハ伊國ニ「ガリレオ」ガリレイ「Galileo Galilei」1564-1642 自然ヲ眞面目ニ分析研究ス。爲ニ教在リ。埃國ニ「ヨゼフ、ケイ

「スピノザ」
ノ情緒是認
ニ對ス

附錄 新歐羅巴人ノ思潮略説 第四章 第十七世紀第十 第三節 第十八世紀 概説 六五〇
道徳ヲ是認シツツ其ノ範圍内ニ於ケル各個人ノ利益即チ利己ノ主張ヲ正當トシ之ヲ中心トスル各自ノ自由競争ヲ以テ社會國家ノ富ノ發達竝ビニ一般ノ幸福ヲ到達セシムベキモノナリト主張セリ。

此ノ利慾ノ是認ハ「スピノザ」ガ人間ノ情緒ハ神聖ノモノナレバ善キ方ニ利用スベシトセシト同一ナリ。「トーマス・リード」Thomas Reid ガ「スコットランド」Scotlandニ於テ信仰ヲ元トシテ出セシト同時代ナリ。

而シテ政治法律ノ方面ニ於テモ個人ノ自由並ビニ自治ノ精神ハ或ハ「モンテスキュー」ノ三權分立論ニヨリ或ハ「ルソー」ノ民權的ノ民約論ニヨリ益々完成セラレカントシテ國家目的ニ關スル法律説ヲモ出ダサシメタリ。法治國竝ビニ自治制度ノ差別的方面ノ基礎ハ殆ンド此ノ世紀ニ築キ上ゲラレタルモノナリ。而シテ國家ト社會トノ相對立スル意識モ亦漸ク著シキニ至レリ。

此ノ世紀ノ思想界ハ斯ノ如ク二元的ナレドモ其ノ大體ヲ見レバ各個人ガ統一セラレタル政治組織ノ下ニ國民トシテ著シク發達シ漸ク散文ハ自國語ヲ以テ著述スルコトトナリ且平易簡單ノ著作ガ最モ流行スルニ至レリ。此ノ時代

國家、社會、
教會

第十六世紀
以後ノ自然
說モ皆實行
シテモナラ
シ研究ナリ

ハ哲學者ハ他人ノ教ニ從ヒ前人ノ經驗竝ビニ研究ニ信賴スルコトヲ屑シトセズ、此ノ點ハ中世ニ往々自己偶然ノ見解ヲ立テ信仰ヲ惡ムコト蛇蝎ノ如クシテ反ツテ自己ノ狭小ナル獨斷迷信ニ陷レリ。其ノ他或ハ人智ノ過當ニ深遠ナルコトヲ認メナガラ外部的實驗ノミニヨリテ之ヲ獲得シ得ベキモノナリト獨斷シ或ハ人智ヲ以テ正確トシナガラ知識ノ效力ヲ疑ヒ或ハ知識ノ制限限界ヲ見出サムガ爲ニ專ラ知識ノミヲ用キテ之ヲ判斷セムト苦心シタリ。

要スルニ此ノ時代ノ學說ハ其ノ研究ニツキ如何ナル方針ヲ採レル者ニテモ一般ニ個人ノ自由獨立ヲ主旨トシ主理的根據ノ上ニ立チ概シテ功利的道徳説ヲ旨トセリ。宗教道徳ヲ始メ法律政治經濟ノ學モ亦此ノ支配ヲ脱セルモノニ非ズ。然シ當時ノ平易ナル學說モ單純ナル道樂仕事ニ非ズシテ之ニヨリテ皆互ニ先ヲ爭フテ學問及ビ社會ノ改造ヲ企圖シタルモノナリ。哲學ハ率先セル大改革者ナリ。社會改造ノ最モ根本的ナル動力ナリ。其ノ所説ガ後代ニ影響セシ所誠ニ大ナリ。而シテ政治法律ノ世界ニ大變化ヲ與ヘタル原因トナリシ者ハ佛人「モンテスキュー」及ビ「ルソー」ナリ。「モンテスキュー」ハ尙比較研究ノ必

附錄 新歐羅巴人ノ思潮略説 第四章 第十七世紀第十 第三節 第十八世紀 概説 六五一

要ヲ唱ヘ「ルソー」ハ又知識主義ノ打破ヲ試ミ、此ノ點ニ於テモ亦時代思潮變遷ノ前驅ヲナセシ者ナリ。而シテ近世初期以來ノ認識論ニ決論ヲ與ヘ、哲學思想ヲ統一大成シ、哲學上宏大ナル系統ヲ立テ根本ヨリ思潮ヲ轉ゼシメ、後世哲學研究者ノ必ズ通過セザルベカラザル關門トナリシ者ハ「イムマヌエル・カント」Immanuel Kantナリ。

第二款 各學說

此ノ時代ノ有名ナル學者トシテ列舉スベキ者ハ左ノ如シ。

- 一 英國 「スコットランド」ノ哲學者ニハ「シェンツブリー」Shafesbury (A.A. Cooper) 1671-1713 Deist 即チ自然神論者(世界ヲ創造セシ神ハ一旦世界ヲ作りシ以上最早見物者タルニ過ギズシテ、世界ハ自己ノ力ニ從ヒ自ラ動クトスル論者。此ノ點ニ於テ Theist 然シ神ハ宇宙世界ノ外部ニ超然存在ナリ。論者「ヘイタレー」Berkeley (George) 1685-1753 認識論上主觀觀念論者ニアリ。「ユーム」Hume (David) 1711-1776 懷疑論者アリ。「リード」Reid (Thomas) 1710-1796 「スコットランド」アリ。「ベンサム」Bentham (Jeremy) 1748-1832 主義ノ泰斗アリ。政治家ニハ「バーク」Bur-

ke (Edmund) 1730-1797 歴史アリ。經濟學者ニハ「スミス」Smith (Adam) 1723-1790 「ド」ニアリ。經濟學ヲ分析シテ個人ノ利益主張ヲ是認シ、之ヲ中心トシテ佛國ノ重農主義ニ鑑ミ經濟學ヲ完成セリ。利益ヲ是認スレドモ其ノ範圍ヲ自由ナル利己ノ發展ト其ノ競争トニヨリ社會及ビ國家又法律家ニハ「ブラタストーン」Blackston (William) 1723-1780 アリ。

二 佛國 ニハ「モンテスキエ」Montesquien (Charles de Sécondat, Baron de Brède et de) 1689-1755 法律アリ。「ヴォルテール」Voltaire (François Marie) 1694-1778 文士アリ。「ディドロ」Diderot (Denis) 1713-1784 文士ニシテ自然論者ナリシアリ。「ルソー」Rousseau (Jean Jacques) 1712-1778 文士アリ。「コンデヤヤン」Condillac (Etienne Bonnot de Mably) 1715-1780 重農主義ノ實證論者ナリアリ。「コンドルセ」Condorcet (Marie Jean Antoine Nicolas Caritat) 1743-1794 實證論者、政治家ニシアリ。

併シ當時佛國ノ哲學者ハ概シテ自然哲學ノ研究者ナリ。即チ「ラメトリ」Lametrie (Julien Offoy de) 1709-1751 醫者アリ。「ユマンタン」Buffon (George Louis de) 1707-1788 植物學アリ。「ランブーア」D'Alembert (Jean de Rond) 1717-1783 有名ナル數學者、實證者、神論者。

論者アリ。「ラグランシ」Lagrange (Joseph Louis) 1736-1813 機械的地理天文數學者ニアリ。
「ラブラーム」Laplace (Pierre Simon) 1749-1827 機械的自然科学者ニシテアリ。「テュルゴ」
Turgot (Anne Robert Jacques) 1727-1781 シテ實證論者ナリ。又經濟學者ニハ「ケ
ネー」Quesnay (Francois) 1694-1774 科學的經濟學ノ元祖ナリ。主義ノ重農主義論者ニシテ
セラルル法則ヲ見出ダサントセリ。分配アリ。老「ミラボ」Mirabeau 1715-1789 重
在リ。

三 獨逸ノ哲學者ニハ「トーマシウス」Thomasius (Christian) 1655-1728 獨逸ヲ先

改新ニ盡ス。アリ。「ウツマン」Wolf (Christian) 1679-1754 數學的主義論者ニシテ探ル。國
リ。「フリードリヒ」大王 Friedrich der Grosse 1712-1786 Antimacchiaveli ナリ。「ニコライ」
Nicolai (Christoph Friedrich) 1733-1811 ナリ。「ハムケン」Lessing (Gothold Ephraim) 1728-
アリ。「ヘルデン」Herder (Johann Gottfried) 1744-1803 ナリ。「ズスタロッチ」Pestalozzi
(Johann Heinrich) 1746-1827 ナリ。「カント」Kant (Immanuel) 1724-1804 ナリ。
四 尙當時伊國ノ哲學者ニハ「ウキナー」Vico (Giovanni Battista) 1668-1743 ナリ。「ギ
カリア」Beccari (Cesare Bonesano) 1735-1794 死刑廢止論ノ先驅ニシテアリ。

五 米國ニハ「フランクリン」Franklin (Benjamin) 1706-1790 ナリ。

是ニ由リテ觀ルモ第十八世紀ニ於テ最モ自然論實證論ノ傾向ヲ帶ビ人間内
部ノ意識ヲ輕視セシ者ハ佛人ニ多ク、主理的觀念的ノ傾向ハ獨逸人ニ多シ而シ
テ思想ノ有ラユル方面ヲ包容スレドモ尙急進ニ陥ラズ且常ニ信仰ノ根柢ヲ保
持シタリシ國民ハ英國人ニ之ヲ見ル。今其ノ主要ナル學說ヲ左ニ述ベム。

第一 「ウツルフ」Christian Wolff (獨) 1679-1754

「ウツルフ」ハ自然法ノ潮流ノ進ムニ伴ヒ生ジタル獨乙啓蒙時代ノ學說ノ中心點
ト爲リシ人ニシテ其ノ思辨的學說ハ其ノ頃ノ獨逸ニ於テ公ノ教科的哲學トナ
リタリ。彼ハ「ライブニッツ」ノ哲學系統的ニ彼ハ「アリストテレース」ニ遵ヒ善
トハ各個人ノ體力及ビ意思ノ充分ナル發達ニ在リ道德ハ個人ノ發達ヲナスコ
トヲ意味スルモノトナス。各自ノ理性ノ發揚ヲ神ニ近故ニ各個人ハ自己ノ發
達ヲナスベキ義務ヲ有シ夫ニツキ他人ヨリ妨ゲラレザル權利ヲ有セザルベカ
ラズ。此ノ各個人ノ權利ヲ確保シ其ノ義務ヲ行ハシメ各個人ノ充實發達ニ機

何處マデモ
個人本位ナ
ナリ人民本
ナリ

個人本位
集合ノ
レバセズ
未ダ健全
セル普遍
セズ

附錄 新歐羅巴人 第四章 第十七世紀第十 第三節 第十八世紀 各學說

會ヲ與ヘ且之ヲ助成スル者ハ國家ナリ。斯ノ如キハ國家ヲシテ人民ノ善福ヲ
圖ル爲ニ行政權カスル必要ノ存スル所以ニシテ、助長行政ヲナスハ國家ノ權利
ニシテ又義務ナリ。國政ハ總ベテ君主又ハ官吏ノ私利ノ爲ニスルモノニ非ズ。
人民各個人ノ利益ノ爲ニ集合的の道理 Kollektive Vernunft ニ依リテナスベキモノ
ナリト。

要スルニ此ノ思想ハ人民各個人ノ發達ノ爲ニ集合的の道理ニ依ル國權ノ全能ト、
人民發達ノ方便手段トシテ國家ガ權カヲ行フ權利義務ヲ有スルコトヲ主張ス
ルモノナリ。彼ハ「グロテウス」Grociusノ人性說「スピノザ」Spinozaノ自由主義ト
「ホッブス」ノ國家萬能主義トヲ調和シテ之ヲ實行シ易カラシメムトセシ者ナルガ、
此ノ主義ノ忠實ナル實行者トシテ著名ナルハ所謂開明專制ノ君主タル普國ノ
「フリードリッヒ・ヴェルヘルム」一世 Friedrich Wilhelm I 「フリードリッヒ」二世 Friedrich II
及ビ奧國ノ「マリア・テレジア」Maria Theresia「ヨゼフ」二世 Joseph II ナリ。
佛國ニハ
明專制君主ナシ。他位ニ當ル。
「ヨゼフ」一世ハ略々其ノ他位ニ當ル。

佛國ニハ
純粹ノ開

第二 「フリードリッヒ」大王 Friedrich II oder der

Grosse (獨) 1713-1786

君主ヲ以テ
國家ノ機關
トナス、所
謂君主機關
相表裏ナリ
遠シルコト

機關ハ種
ノニテ此
キヲ用
所ニテハ
的有セザ
モルノ義
リ

「フリードリッヒ」大王ハ當時ノ開明的專制君主中最モ模範的ナルモノナリ。王ハ
「マキアヴェリ」主義 Machiavellismus ニ反對シ、國權ヲ強固ニスルコト夫自身ガ最
高ノ目的ニ非ズシテ、善福ノ實現、人格ノ完成、其ノ安寧ヲ圖ルノ手段タリト
ナス。民ノ富ハ國ノ富ナリ、民ノ發達ハ國ノ發達ナリ、民ハ本ニシテ國ハ其ノ結
果ナリ。故ニ君主ノ權力モ其ノ基礎ヲ人民ニ對スル義務ニ存ス。君主ハ原始
契約ニ基ヅキ人民ヨリ公ノ政權ヲ掌握シ政治ヲ行フコトヲ委託セラレタル者
ナリ。君主ハ役人ナリ、國家ニ於ケル第一ノ役人ナレドモ、國權ノ主體ニハ非ズ。
役人ハ私ノ生活ヲ爲スベキ者ニ非ズシテ、國家ノ爲ニ奉公スベキ者ナリ。奉公
ノ點ニツキテハ君主モ其ノ以下ノ官吏モ同一ナリトス。

此ノ精神ニヨリ、王ハ國家ノ外部的組成ヲ改善シ、之ト共ニ開明的專制主義ヲ
シテ法制上ノ主義トシテ確定セシメタリ。而シテ普國等ノ開明專制 Aufgeklär-

附錄 新歐羅巴人 第四章 第十七世紀第十 第三節 第十八世紀 各學說

ter Despotismus ニ先チ制度上遙カニ進歩シツツアリシモノハ英國ニシテ、英人トシテ其ハ制度法理ヲ分析セシ者ニハ、既ニ「ロック」Locke等アリ。佛人トシテ英國ノ政治主義及ビ制度ノ美ヲ讚嘆シ、人民各個ノ發達ト其ノ自由行動ノ保障セラレツツアルコト、英國ノ國家組成ガ能ク國王及ビ教會ヲシテ國民全部ノ爲ニ行動セシムルニ適シ、其ノ權勢ヲ私シ得ザルコトヲ説キタル者ニハ、詩人ニ「ヴォルテール」Voltaire 在リ、法律學者ニ「モンテスキュー」Montesquien 在リ。

第三 「ヴォルテール」 Francois Marie Voltaire (佛) 1694-1778

「ヴォルテール」ハ佛國ノ文豪ナレドモ、思想ハ著實ニモ深遠ニモ宏大ニモ非ズシテ、啓蒙時代ノ標本ナリ。追放セラレテ英國ニ至リ「ニュートン」Newton 「ロック」Locke等ノ影響ヲ受ケ自由主義ヲ主張シ、佛國ノ啓蒙思潮ヲ誘致セリ。後普國王「フリードリッヒ」大王ノ友トシテ彼ノ開明專制ヲ助ケタリ。世界ノ一人ト呼バル。

第四 「モンテスキュー」 Montesquien (佛) 1689-1755

Aristoteles
Ishmitz
既ニ比較研
究ノ必要ヲ
唱ヘタリ

「モンテスキュー」モ「ニュートン」「ロック」等ノ影響ヲ受ケ、自然法説ヲ採リ、事物自然ノ性質ヲ研究シテ認定法ヲ説カムトセシ者ナリ。其ノ方法ニ至リテハ各國ヲ旅行シテ材料ヲ蒐メ、比較ニ重キヲ置キタレバ、比較法學ノ祖ニ推サル。「アリストテレス」羅馬「ストア」羅馬法學參照。英國ノ自由主義ニ敬服シ、國家教會ノ專制ニ反對シ、英國ノ制度ヲ理想化シ之ヲ讚嘆シテ三權分立論ヲ唱ヘ、特ニ米國及ビ獨逸諸國ニ至大ノ影響ヲ與ヘタリ。然モ佛國革命ニ採用セラレタルモノハ「モンテスキュー」ノ冷靜ナル理論ニハ非ズシテ「ルソー」ノ燃ユルガ如キ感情論ナリ。萬法精理 De l'esprit de la 1748、ハ彼ノ最大ナル著述ナリ。其ノ爲ニ彼ハ二十年ノ歲月ヲ費セリトイフ。

第五 「ジャン・ジャック・ルソー」 Jean Jacques Rousseau (佛) 1712-1778

「ルソー」ハ民約論者ナリ。極端ナル民權主義ノ論者ナレドモ、彼ノ總意説ハ個人主義ヨリ特ニ團體説又ハ全部説ニ轉化セムトスル懸橋ナリト見ルコトヲ得ベク、個人ノ自由獨立ヲ重ンズルト共ニ大ニ之ヲ統括スル全部ニ留意スルモ

「ルソー」ハ其ノ人格ニ依リテハ其ノ偉大ナル影響ヲ世界ノ偉人ト爲レリ。

ニ民約論ノ理窟ヲ始メテ歐洲ニ於テ而モ其ノ中心ニ大規模ニ實現セシメタル者ハ、活キタル感ジト靈筆トヲ有セシ「ルソー」ナリシナリ。之ニヨリテ彼ハ世界ノ偉人ト爲レリ。

「ルソー」ノ論ハ理想的ナリ、其ノ強ミハ空理ニ非ズシテ、内部ノ感ジヲ主トセル點ニ在リ。「モンテスキュー」ノ論モ尙理想ヲ缺ケルモノニ非ズ、其ノ強ミハ空理ナラズシテ、比較研究ヲナシ英國ノ事實ヲ分析記載シタルコトニ在リ。感得ヲ主トナセシ「ルソー」ノ說ハ佛國革命ノ旗標トナリ、事實ノ分析ヲ主トセシ「モンテスキュー」ノ結論ハ第十九世紀前半ノ立憲運動ニ穩健ナル調和ノ標準ヲ指示セリ。前者ハ熱情ニヨリ形式的ナル空理並ビニ不都合ニ固定セル制度ヲ一掃シテ、感ジノ思潮ニ移ラシメ、後者ハ冷靜ナル憲法ノ制定ニ貢獻セリ。而シテ是等兩氏ノ理想ヲ躊躇スルコトナク、實行セシ先達ハ歴史ヲ有セザル米國ナリシナリ。

第六 「イマヌエル、カント」Immanuel Kant (獨)

1724-1804「スコットランド」ヨリノ移住民ノ子孫トイフ。

「カント」ハ「ライブニッツ」Leibnitzト共ニ宏學ニシテ神學哲學、倫理學、教育學、論理學、人類學、數學、物理學、地文學、金石學及ビ法理學等ヲ研究セリ、而シテ彼ノ哲學ハ近世哲學上最モ樞要ナル地位ヲ占ム。彼ノ法律論、ハイフマデ、モナク、彼ノ哲學

ノ基礎ト雖ル、ベカラズ故ニ先ヅ極メテ簡單ニ彼ノ哲理論ヲ紹介シ、次ギテ法律論ニ及バム。

第一 哲理論。「カント」ハ近世ニ入りテ發達シタル「ロック」「Locke」等ノ分析的經驗論ト之ト對立シテ降ラザリシ「ライブニッツ」等ノ思辨的合理論トヲ調和シタリ。彼ハ遠クハ「プラトーン」及ビ「アリストテレス」ニ得ル所多ク、近クハ「ニュウトン」Newtonノ物理學ヲモ修メ、又「ロック」以下「バークレー」「Berkeley」「フーム」「Hume」等ノ分析的經驗論唯象論 Phenomenalism 並ビニ懷疑論ヲ發達セシメ、其ノ長所ヲ採納シテ認識ノ要件ヲ明ラカニスルト同時ニ、又「ライブニッツ」「ウルフ」「Wolf」等ノ合理論、主理ノ精神ニ會シ「リイド」「Reid」及ビ「ルソー」「Rousseau」ノ影響ヲ受ケ、認識ノ限界要件原理並ビニ吾人ノ意識中ニ於ケル知識ノ地位ヲ明ラカニシ、人類ノ理性ヲ神聖視シタリ。彼ハ在來ノ合理論的形而上學即チ獨斷哲學 dogmatische Philosophieノ所說ニ盲從スルコトナク、其ノ唱ヘタル實在論 Realismusヲ是認セザリシガ、殊ニ個人内部ノ道德的意識ヲ根據トシテ理性ヲ是認シ、實利的ナル啓蒙思想ヲ擊退シタル者ナリ。

「アウグス」テイヌスノ深キ感ジ

哲學ノ研究ハ先ヅ認識力ノ批判ヨリ始ムベシトスルコトガ「カント」ノ意見ナリ。認識力ノ批判トハ、認識ノ可能不可能及可能ナリトセバ其ノ程度範圍其ノ條件ノ吟味ナリ。此ノ吟味ヲナサザル哲學ハ獨斷哲學ニシテ此吟味ヲ出發點トスル哲學ハ批判哲學 Kritische Philosophie ナリト。然モ此批判ハ徒ラニ外部及其經驗ヲ分析スルモノニ非ズシテ吾人ガ先天的ニ具備スル理性及ビ其ノ作用ヲ分析シ精査スルコトニ歸着スルガ故ニ又超絶哲學 transcendentaler Philosophie ト稱セラル。

彼ハ「純粹理性ノ批判」Kritik der reinen Vernunft 1781ニ於テ認識ノ範圍條件及ビ之ヲ支配スル原理ヲ討究シタリ。其ノ說ニ從ヘバ、認識ハ感覺ニヨリテ其ノ材料ヲ獲得スレドモ其ノ材料ガ其ノ儘知識トナルニ非ズ是等ヲ綜合シテ知識トナシ學識トナスモノハ吾人純粹理性ノ先天的作用ニ外ナラズ。故ニ吾人ノ認識スル外界ハ現象ニシテ「外物自體」Ding an sichタル實在ニ非ズ換言スレバ認識ノ對象ハ現象 Erscheinung ニシテ吾人ノ先天的作用ノ所産ニ外ナラズ。現象ニ對スル眞ノ實在ハ「外物自體」トシテ其ノ背後ニ存スレドモ純粹理性ヲ以テシテハ

外物自體ヲ
認ムル點ガ
「カント」後
ノ大問題ト
ナレリ

到底之ヲ窺知スベキニ非ズ、知識ハ最早之ニ向ツテ一步ヲモ進ムル能ハズ。是ニ於テカ純粹理性ヲ以テ満足スルヲ得ズ實踐理性ヲ以テ此ノ「外物自體」ト交渉セザルベカラズ。

「カント」ハ「外物自體」トイフ認識ヲ縁ズル或存在ヲ認ムルガ故ニ自ら經驗的實在論 empirischer Realismus ヲ唱フル者ナリトイヘリ。

吾人ノ世界ハ吾人ノ主觀ヲ通シタ世界ナリ。然レドモ何故ニソウイフコトヲ描カシムルカ分ラヌ。「カント」ハ「外物自體」ガアリテ吾人ヲ刺激シテ吾人ノ世界ヲ作ラシムルモノナリトイヘリ。人間ヲ離レテ此ノ世界アルモノニ非ズ、吾人ノ意識ニヨリテ存スレドモ先ヅ刺激スル外物自體ガ無クテハナラヌ。然シ外物自體ノ何タルカハ人間ニハ到底認識シ得ラレヌモノトセリ。此ノ外物自體ノ縁ニ應ジテ吾人ガ經驗シテ所謂此ノ外界ヲ意識シ認識ストセリ。故ニ經驗的實在論トイヒタルナリ。

然シ之ト同時ニ彼ハ吾人ガ「外物自體」ノ縁ズル所ニヨリ認識シツツアル世界並ビニ外物ヲ以テ外物自體ニ非ズシテ吾人主觀ノ所産ニ外ナラズトナシ、自ら呼ンデ批判的觀念論 kritischer Idealismus 又ハ先天的觀念論或ハ超絶的觀念論 transzendentaler Idealismus ナリトイヘリ。彼ハ又自ら其ノ說ヲ呼

稱シテ形式的觀念論。Formaler Idealismus トイヘリ。蓋シ所謂自然界ハ主觀先
天作用ノ所作ナレドモ、其ノ原料ハ不明ナル物自體ニシテ、其ノ刺激ニヨリ
之ヲ細工スルモノガ主觀ナルノミ、故ニ觀念ハ唯物自體ヲ形式的ニ組ミ立
ツルニ止マルモノナレバナリ。

我以外ニ物ガ實在ストイフ故實在論ナリ。但シ外界トシテ認識セラルル世界ハ人間ノ
Praxisニ持ツテオトル作用ニヨリ觀念スルモノニ外ナラズ。サレバ吾人ノ所謂世界ハ觀念ニ過
ギザル故觀念論ナリ。獨斷デナク吟味セラレタル根據ノ上ニ立ツ故批判的觀念論ナリ。材
料ヲ組成セシモノ故形式的觀念論ナリ。

彼ハ次ギデ其ノ「實踐理性ノ批判」Kritik der praktischen Vernunft 1788ニ於テ意思
ヲ主トスル實踐理性ガ道德宗教ノ要件トシテ知識ノ要件タル純粹理性ノ上位
ニ在ルコトヲ論ジ、道德學及ビ道德的神學ヲシテ知識ノ羈絆ヲ脱セシメ、是等ニ
獨立不可侵ナル根柢ヲ附與シタリ。Primat der Willen 及
性ハ直チニ入ツテ外物自體ト交通シ得ル超經驗的ノモノナレバ純經驗的ナル
利益幸福ノ上ニ在リ福利ト一致スルト否トニ拘ハラズ、夫自身獨立シテ神聖ナ
リ。啓蒙時代ニ於テ旺盛ヲ極メシ道德ニ關スル幸福說功利說ハ彼ニヨリテ打

各人ノ根柢
ハ即チ外物
自體其ノ儘
ナリ
Platon
「イデア」論
参照

活精神ヲ省
ミズ、議論
形式ノミ
ニ拘泥スル
ハ近來ノ法
學ノ弊風ナ
リ

破セラレタリ。而シテ彼ハ尙終リニ判斷力ノ批判、Kritik der Urteilskraft 1790ニ
於テ美ノ判斷ヲ論ジ、實踐理性ト純粹理性トヲ調和スルモノハ美ニ在リトナシ
タリ。此ノ美ノ判斷論モ「Schiller」Schiller「シェリング」Schelling 以下「ゾーグネ
ル」Wagner等ノ美ニ關スル思想ニ影響シタルモノナリ。然モ「カント」ガ其ノ後代
ニ遺シタル問題ハ、彼ガ劃然ト分離シタル實踐理性ト純粹理性トヲ更ニ合一セ
シメ得ル方法ナキカ否カ、並ビニ「外物自體」ノ何物タルカトイフコトナリ。

第二 法律論。「カント」ノ國家法律論ハ、其ノ哲學論ニ於テ充分鍛鍊セラレタ
ル深キ根據ヲ有スル實踐理性說ノ上ニ建設セラレタリ、從ツテ其ノ説明ノ形式
ノ完全タルト否トヲ問ハズ活精神ヲ以テ充タサル。説明ノ形式ハ尙民約ニヨ
レドモ、彼ハ「ロック」其ノ他ノ民約論者ト異ナリ、事實上人民ガ契約シタリト主張ス
ル者ニ非ズシテ、斯ノ如キ形式ニヨリ説明スルコトガ理性ノ要求ニ協フトスル
ニ止マル。「カント」後ノ民約論者ハ最早「カント」ノ設ケタル範圍ヲ超エテ歷史上
ノ事實タル民約ヲ主張スル者ナシ。例ヘバ「フキヒテ」Fichte「シェー
「カント」ハ各個人ガ理性ノ主體タルコトヲ前提セリ。(vernünftiges Wesen)各人ハ

Rousseau
Hemkeleios
Jesus
Augustinus

此ノ精神ハ
普遍我ノ表
現者トシテ
有スル各自
ノ規律心自
ノ要スルタ
メニ合スル
義ニ合スル

深キ内心ノ
命令ナルガ

附錄 新歐羅巴人 第四章 第十七世紀第十 八世紀ノ思潮 第三節 第十八世紀 各學說

皆實踐理性 praktische Vernunftヲ具有シ其ノ命令ニヨリ自己ノ意思發動ニ對スル自己ノ規律力ヲ設定ス即チ我ガ意思ノ格率 Maxim ナリ換言スレバ各人ハ自己ノ實踐理性ニ基ヅキ自己ニ對シ自由ニ立法スベキ者ナリ。ルイツトト同精神ナルコトハ外部ノ神國「アウト」内外ノ差アルコト、其他「イエス」ノ内部ノ神ナルコトトハ各自ガ或特定ノ場合ニ限リテ自己ニ有效ナル格率ヲ設定スルノミニテハ不足ナリ各自一人ハミニ都合ヨキ規律心ヲ設定スルコトヲ以テ充分トセズ必ズ一切人ニ通ジテ有效ナルベキ規律心タルベキコトヲ要求スルナリ。「カント」ハ汝ノ意思ノ格率ガ常ニ普遍的立法トシテ何人ニモ妥當スルガ如ク行動セヨトイヘリ。換言スレバ自ラ個人ノ地位ニ立ツモ他人ガ自己ノ地位ニ立ツモ共ニ有效ナルベキ規律心ナラザルベカラズ又自己ノ規律心トシテモ他人ノ規律心トシテモ自己並ビニ他人ガ一樣ニ準據シ得ベキ性質ノモノナラザルベカラズ規律心格率ノハタダ一己人ニ對シテモ存シ得ベシ然シ一切人ノ意思發動ニ有效ナル規律心即チ普遍的格率ガ命令ナリ。此ハ命令ニシテ福利等ヨリ獨立シ何等ノ條件モ理由モナク唯實踐理性ノ命令ナルガ故ニ之ヲ守ラザルベカ

故ニ理由ハ
有益無益ハ
如何ヲ問フ
ズ之ヲ遵守
ス「ストア」
「ストア」ノ
精神ナリ

責任心ハ外
物自得ル可
想シ性格ヲ
我的内面ニ
ル我ノ内面
ル眞實ナリ
理窟ニ非ズ

ラズトスルモノアリ即チ無上命令 命又直言 kategorischer Imperativ ナリ。此ノ無上命令ハ道德律ノ根源ニシテ又認定法ノ實質的根柢ナリ。「ストア」主義參照)

在來ハ契約ノ事實ヲ根據トシテ各人ガ各人ニ對シテ拘束セラルル所以トナシタル「カント」ハ之ヲ轉倒シテ實踐理性ニ基キ道德律ニ服從スベキ要求ニヨリ各人ノ各人ニ對スル義務ヲ生ズルモノトシ契約ハ之ヲ説明スルノ必要ニ外ナラズトセリ。「ヘーラクライトス」トイヒ方ガ異ナレリ「ヘーラクライトス」ニヨレバ自然ノ大法ハ立派ノ人間ヲ通シテ現ハレテ來ルトセリ。賢人ノ大精神中ニ大法ガ顯現ストイフナリ。

「カント」ハ各人ノ實踐理性トシテ共有スル責任心ヲ以テ各自ノ意思ノ自由ノ認識的根據ナリトシ是ニヨリ人格ノ自由 Ioh als intelligitoler Charakter 我Dis ヲ認メシモノニシテ先ヅ知識ニヨリ自由在ルコトヲ論證シテ後ニ責任心ノ合理的ナルコトヲ論述セシ者ニ非ズ。合理不合理ニ拘ラズ神聖ニシテ何人ニモ遍通スル責任心在リ自己ノ行為ヲ是非シ自己ノ行動ヲ規律スル自己ノ命令ニ從フベキモノトスル感ジ在リ。故ニ自由在リ自由ナル我在ルヲ許サザルヲ得ザルナリ。國家法律ハ各個人ガ一樣ニ有スル此ノ責任心此ノ自由ニ基ヅキ普遍的ニ有效ナルガ如クニ自由ニ自己ヲ規律セムトスル要求ヲ助成保障セムガ爲ニ設定セラ

附錄 新歐羅巴人 第四章 第十七世紀第十 八世紀ノ思潮 第三節 第十八世紀 各學說

何人格者ハ
人於テモ道
具於テモ合
任心其ノ有
ノ爲ニ由ラ
ベキ自由ヲ
阻キ自由ヲ
ルキ自由ヲ
サザラズ

各自内部ノ
本來自心
同テ見ズ
ニシテ外
人於テ思
合ニ見ル
ガ故ニ契
ル形式ニ
ルナリテ
佛三寶論

ルモノナリ。故ニ樂天的自由 無上命令ニ從フ自己ノ規律ハ自己一人ノミ
ナラズ萬人ニ通ジテ一樣ニ有效ナルベキ規律力タラザルベカラズ故ニ萬人ノ
力ヲ合成シテ之ヲ確定シ之ヲ遂行セシムル必要アリ。是實ニ自由ナル獨立人
ガ手段ニ非ズシテ夫自身目的タル人格者ナルニモ拘ハラズ國家ノ權力及ビ其
ノ認定法ノ下ニ立ツ所以ナリ。而シテ本來不羈獨立自由ナル各國人ガ他ノ拘
束ノ下ニ立チ其ノ自由ヲ制限セラレ獨立ナラザルニ至ルコトハ本來各個人ノ
意思ノ合致在ルモノトナサザルベカラズ。自ラ己ヲ制限シ之ニヨリ反ツテ眞
ノ自由ナル我ヲ發揚セムガ爲ニ元元一般ノ民約在ルモノト説明セザルヲ得
ルベシ。「カント」ガ自我ヲ見テ普遍我ヲ見ズ獨立單純我ノミヲ認メテ出發シタ
ル結果ハ其ノ活キタル無上命令ヲ貫徹スル爲ニ如何ニ苦心セシカヲ察スルヲ
得ベシ。各個我ガ本來ノ一心同體トシテ數ニヨリ相互ノ内部ニ在ル品質ノ發
揚ヲ保障セラルベキモノタルコト及各個我ガ其ノ内部ノ品質ヲ外部ノ數トシ
テ實現スベキ性質ヲ以テ生マレタルコト即チ普遍我ノ表現人タル方面ヲ達觀
スルトキハ「カント」其ノ他ノ契約說論者ノ言ハムト欲シテ言ヒ得ザリシ根柢ヲ

容易ニ明ラカニナシ得ベシ。(佛敎三寶論「イエス」ノ神國「アウグステイヌス」ノ他力
論參照)

「カント」ハ個人ニ重キヲ置キテ出發セリ、普通我ヲ個人ト同時ニ認メザリキ。各個人ガ本
來一體タルコトヲ知レバ契約說ヲ持チ來ルノ要ナシ。然ラザル故ニ各人ヲ離メルニ契約ア
リト曰ハネバナラヌノデアル。各人ハ本來合一スル者ナルコトヲ言ハント欲スルナレド當
初ヨリ個個ニ獨立シテ居ルト思ヒ込シ居ルカヲ契約在リトイハネバナラヌ譯トナル。

此ノ論法當然ノ結果トシテ彼ハ各個人ノ團結ヲ擴張シ各國ヲ統括セル一大
國ヲ作り永久ノ平和ヲ計ラムト主張セシガ。又國家ヲ以テ認定法ヲ確定シ之
ヲ維持發達セシムルノ任務ヲ有スルニ止マルモノトナシ。此ノ範圍ヲ超エテ人
民各個ノ自由ヲ拘束シ其ノ精神狀態ニ立チ入ラムトスルハ國家ノ目的以外ノ
行動ナリト論ゼリ。「ヴァルフ」等ノ說 即チ國家ノ目的ニツキテハ法律說ニシテ
夜番說ノ渾名ヲ得タルモノナリ。義ヲ唱ヘシ最初ノ重ナル學者ナリ。主

人民ヲ形式的權力ヤ強力ニテ外部ヨリ教育スベキモノニ非ズトノ說ナリ。「ヴァルフ」ハ人民
ノ爲ニスルノナラ何デモカデモ國家ノ權力ヲ以テヤレトイフ人民ノ爲ニ人民ノ力ニテ人民
ガ爲スノデナク、國家ヲ通シテ人民ノ爲ニ爲セトイフガ開明專制時代ノ幸福說ナリ。「カント」
ノハ國家ハ人民ヲシテ自力ニテ爲サシメヨトイフニ在リ。

第三 結論。要スルニ「カント」ハ近世ニ入りテ益々發達シタル個人ノ自意識、其ノ自信ノ限界ヲ明ラカニセシト共ニ。哲學上個人ノ真正ナル價值ヲ確定シ、其ノ認識論ニヨリ在來ノ客觀的自然界ヲ轉ジテ主觀的觀念界トナサシメ。希臘時代ニハ外ニ在ルト。其ノ道德論ニヨリ機械的因果的ノ世界ヲ轉ジテ責任心ヲ中心トスル自由生活ト爲サシメ。「ストア」又在來契約ノ事實ヲ根據トシテ、各人ノ各人ニ對スル拘束及ビ責任ヲ説キタルコトヲ顛倒シテ、無上命令及ビ責任心ヲ本ト爲サシメ。其ノ法律論ニヨリ外部的他動的ノ世界ヲ轉ジテ内部的自動的ノ世界ト爲シタル者ナリ。第十八世紀第十九世紀ノ界ニアル彼ノ感得ハ、古代中世ノ界ニ於ケル「アウグスティヌス」ガ汎神論者ニ非ズシテ尙超越神論ヲ信シタルガ如ク、「カント」ハ尙各個人ヲ中心トシテ決シテ普遍我或ハ其ノ上ノ絕對我ヲ中心トスル者ニ非ズ。又心識一元論ニモ非ズ。心識ト外物自體トヲ相對立セシムル二元論ナリシナリ。

「アウグスティヌス」モ其ノ出發點ノ嚴格ニ哲學的ナルニ似ズ、遂ニハ外部ニ神等ノ超在ヲ是認セリ。

「ストア」ノ人生觀道德

「カント」ハ深キヨリモ廣シトイフ

龍樹ハ矛盾反對スル各方面ノ思想ヲ其ノ偉大ナル精神ニヨリテ統一シ、中道論ヲ主唱シ、空ヲ達觀シテ、大乘佛教中興ノ祖トナレリ。「アウグスティヌス」ハ其ノ深キ心持ニヨリ古代ニ於ケル基督教ノ神學並ニ信仰ヲ統一大成シテ、後代基督教ノ開門トナレリ。之ト等シク「カント」ハ近來唱道セラレタル一切ノ哲理ヲ其ノ緻密ナル頭腦ニヨリ、廣大ナル系統中ニ取り纏メテ之ヲ第十九世紀以後ニ引キ渡シタリ。彼ノ後、哲理ヲ談ゼントスル者ハ必ず先づ彼ノ思想ニ入ラザルベカラズシテ、少クモ第十九世紀ノ獨逸哲學者ハ一人トシテ彼ノ影響ノ下ニ立タザル者ナシ。タダ彼ヲ推感スルノ範圍程度方向ニ至ツテハ、各々異ルコト言ヲ待タズ。

「カント」以後哲學上ノ一疑題トナリタルハ、外物自體ノ有無及ビ其ノ性質ナリ。外物自體ノ存在スルトカ存在セストカイフコトモ、孰モ吾人ノ意識ニヨリテイフコトナレバ、吾人ノ意識ノ作用ヲ離レテ果シテ外物自體ナルモノガ存スルヲ斷言シ得ベキカ。嚴格ニ知識ノ形式ノ範圍内ニ止マレバ、其ノ存在ヲ認メタクナル。然シ人格全體ノ根柢ヲ以テ外界ヲ思惟シ、意思及ビ感情ノ各方面ノ要求ヲ統括シテ考フルトキハ、到底主客觀ノ合一ニ重キヲ置ク觀念論ニ歸着セネバナラヌ。觀念論中ニテモ意志ノ經驗ニ重キヲ置ケバ自由觀念論ニ傾キ、感情ノ經驗ニ深ケレバ客觀觀念論ニ近ヅクガ、實ハ此ノ雙方ヲ統括スル表現汎神論又ハ主客觀觀念論ヲ分析セントスレバ實證論ニ陥ルベシ。實證論ハ狭少ニシテ觀念論ヲ容ルルノ餘地無ケレドモ、觀念論ハ決シテ實證論ヲ排斥セズ、タダ實證論主義ガ偏狭ニシテ要領ヲ盡サザルコトヲ破スルノミ。

第五章 第十九世紀ノ思潮(歴史的分析時代)

目次

- 第一節 概論
- 第二節 學說ノ系統

第一節 概論

目次

- 第一款 第十九世紀ノ前半
 - 第一 歴史的研究
 - 第二 感想的研究
 - 第三 全部的研究
 - 第四 神學及ビ教會ノ復興
 - 第五 立憲制度ノ確定

第二款 第十九世紀ノ後半

- 第一 實證論ノ全盛及ビ進化論ノ普及
- 第二 社會學ノ興起及ビ社會ノ要求
- 第三 國內公法學ノ發達
- 第四 國際關係國際法學ノ發達及ビ國民主義ノ興隆

第一款 第十九世紀ノ前半

第十八世紀ノ後半ニ於テ次第二兆シツツアリシ感想的思潮ハ主理的思潮ノ反動トシテ第十九世紀ノ初葉ヲ支配セリ。之ト同時ニ獨リ人智ニ依頼セムトシテ爲シタル大失敗ハ認識論ノ發達ニ伴フ經驗ノ價值ノ確定ト共ニ歴史的研究ヲ勃興セシメ個人主義ニヨル社會ノ組成ビニ研究ノ蹉跌ハ全部主義團體主義ニ傾カシムルコトトナリ又各自ノ獨斷ガ相互ニ衝突シ不成功ニ終リタルコトハ一方ニ於テハ吟味セラレタル根據アル意識ヲ基礎トシテ學問ヲ建設スルコトトナリ他方ニ於テハ他力及ビ宗教ノ再興ヲ促ガサシメタリ。是等ノ新

思潮ハ希臘ノ哲學美術ヲ更ニ新ナル眼光ヲ以テ盛ンニ研究セシメ希臘以前及
ビ印度哲學ニモ留意セシムルコトナリ東洋流ノ神秘主義ヲ帶ビタル新「アラ
ト」ン學派竝ビニ信仰ト普遍トヲ生命トスル中世教會主義ハ第十七八世紀ノ
淺薄輕浮ナル思潮ニ對シテ更ニ重要ナルモノト看做サレタリ。此ノ思潮ハ殊
盛ンナ

第十九世紀ノ前半ニ當リテハ近世ノ初メニ於テ地球竝ビニ自然界ノ研究ニ
忙殺セラレシト全ク趣ヲ異ニシ人間個人ノ内部ノ分析ヲ主トセリ。近世ノ初
メハ個人ノ自意識ヲ中心トシテ出發シタルガ尙外界タル自然ノ對立ヲ認め、不
可解ナル個人ヲ各人ノ勝手次第ニ明瞭ノモノト獨斷シテ其ノ明智ニヨリ自然
法ヲ看破シ其ノ明鏡ニ自然法ソノママヲ映出セシメムトセリ。第一ノ佛國革
命ヲ以テ終リ「カント」ヲ經テ始マリタル第十九世紀ノ前半ハ全然主觀的ノ世界
ニシテ此ノ神妙神秘ナル小宇宙ヲ社會ノ歷史竝ビニ大宇宙ニ照シテ分析セ
ムトセシモノナリ。古代ノ神秘說汎神論ノ再興セラレ更ニ自信ヲ以テ大成セ
ラレタルハ深キ理由ヲ存ス。此ノ點ニ付キ最も重要ナル地位ヲ占ムル者ハ「フキヒテ」
「Enlightenment」及ビ「ヘーゲル」Hegel等ナリ。

近世ハ個人個人ト駭クガ個人ノ何タルカノ研究ハ尙出來テ居ラザリキ。「カント」ノ考ニヨ
ルモ外物自體ト吾人ノ作用トハ對立シテ居ル。「ロック」ヲ如キハ人ノ智トハ外物ガ鏡ニ映ルガ
如キモノト考ヘタリ。今日ハ古キ考ナレドモ尙日本ニ此ノ種ノ考ヲ有スル人多シ。第十九
世紀ニ至リテ外界モ皆我ニ入りテ居ルトイフニ至リタリ「フキヒテ」ノ觀念論ニヨレバ絕對我ガ
我ニ在ルトセリ。第十九世紀ノ汎神論ハ「カント」ヲ認識論ヲ通リテ其ノ上ニ出デントセシモ
ノナリ。

是等ノ思潮ト近世初期以來ノ思潮トガ融合シテ結ビタル世間的果實ハ、即チ
統一セラレタル國權ヲ有スレドモ專制主義ニ依ラザル立憲的國家ナリ。又個
人ノ自由獨立ヲ尊重スレドモ專制的個人ヲ認めザル立憲的國家ナリ。曩ニ絶
エズ矛盾反對シツツ終ニ革命ヲモ生ゼシメタル二個ノ專制ガ更ニ一段高キ憲
法政治ニヨリテ統括セラルルニ至リ其他自然必至ト人間精神ノ自由ト主觀的
要求ト歴史的事實トノ到ル處調和シ難ク見エタル矛盾ハ發達ノ事實竝ビニ自
覺ニヨリテ解決セラレタリ。此ノ大ナル自覺ハ特ニ「ヘーゲル」ニ於テ著シ。以
後ノ社會個人竝ビニ自然ヲ研究スル者ハ一人トシテ發達ヲ主トセザル者ナク
有機的研究歴史的研究分析的研究內在的研究ハ、即チ之ト離ルベカラザル所ノ

第十九世紀ニ入レバ經驗ヲ離レテ仕事ヲ爲ス者ナク、歴史的分析的ニ研究セザル者ナシ、之ヲ離レタルガ如ク見ユル研究ニテモ皆之ト連絡シテ離ルルコトナシ。始メニハ形式的外部ヲ歴史的分析セシガ次第ニ精神ノ内部ヲ歴史的分析スルニ至レリ。

第一 歴史的研究

第十九世紀ト共ニ復古運動 Restantion 運動開始セラレ、啓蒙思想ノ理窟ニヨリ、一概ニ排斥セラレタル歴史的事實、既往ノ思想及ビ歴史的制度ノ再建竝ビニ研究ヲ事トセリ。第十八世紀ノ末ニ起リタル革命 Revolution ハ時ト處トニ於ケル第一事實 die erste Thatsache ヲ反省セズ、第一事實正當ノ原理 Princip der Legitimität der ersten Thatsache ニ氣附カズ、濫リニ歴史ヲ離レ、單純ナル小理窟ニ依リ之ヲ實行セムトセシモノナリ。革命ハ小智慧ヲ振フテ早速ノ論結ヲ得ルト共ニ之ヲ自然法 Naturrecht ト認定シ、直チニ之ヲ學問ハミナラズ、國家社會ニ移サムトセリ。即チ小智慧ノ專制ナリ。然ルニ革命ハ終ニ失敗ニ歸シ、其ノ結果第一事實ノ力

維新運動

Aristoteles
ノ革命論參照

的沉碑的內在

Arceilaos
ノ Wahr-
scheinlich-
keitsheorie
參照

ハ人間ノ小智慧ヨリモ遙カニ強大ナル根據ヲ以テ存在シツツアルコトヲ悟ラシメ、其ノ第一事實ヲ包容スル一層高等ナル大智ニ依ルノ必要ヲ感ゼシメ、サレバ法制風俗ヨリ文學美術ニ至ルマデ革命ニヨリテ破壊セラレタル所ヲ再興シ、復古セムトスル維新運動ト爲リ、何レモ歴史ヲ研究シテ之ト離レズニ、且其ノ内ニ存在スル理法ニヨリテノミ發達セシメラルベキモノトセリ。真理ニ永久不易ノモノナシ。真理ハ皆歴史ニヨリテ支配セラレ、其ノ内ニ存在スル關係的真理ナリ。學問ノ職分トスルトコロハ、歴史ニヨリテ與ヘラレタル事實自身ヲ研究シ、其ノ意義ヲ明ラカニスルニ在ルノミ。第十九世紀以後ノ重大ナル研究ハ、其ノ如何ナル學派ニ屬スルヲ問ハズ、人類ノ歴史及ビ經驗ヨリ離レテ絶對ニ之ニ超越スル理法ヲ求めムトスル者ナシ。是レ殊ニ注意スベキトコロナリ。故ニ觀念論ト實驗派ト又ハ歴史派ト相對立セシメテ相容レザルモノハ、如ク分類スルコトハ少クモ第十九世紀以後ニハ適用シ難シ。

第二 感性的研究

又 Ekstasis
Éκστασις

附録 新歐羅巴人 第五章 第十九世紀ノ思潮 第一節 概論 第十九世紀ノ前半 六八〇

第十九世紀ノ前半ニハ、特ニ獨逸ノ小理窟ニ非ザル人心ノ根柢ニ潜メル有ラユル感想ヲ完成シ之ヲ感想ノ形ニ於テ相交換セムトセシ思潮アリ。故ニ全ク廢レ居タル新「フランドン」派ノ心身忘脱 Ekstase ノ價值ハ漸ク認めラレ「フランドン」ノ理想觀念 Idea ノ精神モ初メテ價值アルモノトナレリ。是ニ於テカ人格ノ價ハ論理的頭腦理窟ニ達シタルコトニ非ズシテ感想ニ在リ思想ノ根柢的ナルコトニ在リトセラレ、總ジテ文學ガ哲理ヨリモ先導者トナリ、皆社會ノ制度風俗思想ノ改造ヲ以テ其ノ任務トナセリ。此ノ傾向ノ最モ著シカリシ獨逸中ニ於テ其ノ中心ト爲リシ者ハ「フヘーテ」Goethe 1748-1832 及「シムル」Schiller 1759-1805 等ナリ。「フヘーテ」ハ汎神論者ニシテ「シルレル」ハ寧ロ自由觀念論者ナリ。

此ノ方向ハ所謂「ロマン主義 Romanticismus (Romantik)」ヲ興サシメタリ。潮ニモ飽キ足ラズ寧ロ中世ノ基督趣味ニ安立セムトスル「シュレーゲル」Fr. von Schlegel 1772-「ノヴァリス」Novalis 1772- 等ノ一派ノ奉ゼシ所ナリ。

第三 全部部分ノ研究

第十九世紀ノ前半ニ於テハ第十七世紀第十八世紀ニ於テ機械觀及ビ原子論ヲ主トセシニ反シテ有機的觀察生物的研究方法ヲ用キ全部的統一的有機的觀察ヲ爲セリ。歴史的世界ニ於ケル總ベテノ事物ハ生物及ビ其ノ部分ニ類ス。故ニ自然ニ客觀的ニ統一的全部ヲ成スモノニシテ、各個人ガ其ノ目的ニ從ツテ人爲ニ作りタルモノニ非ズ。又神ガ目的ヲ以テ自然法ニ準ジテ外部ヨリ機械的ニ作りシモノニ非ズ。事物ハ皆自己ノ内部ニ備ハレル自然ニヨリテ自ら發達成長變遷スベキモノナリ。事物自身ガ神ナリ。神自身ハ自然ナリ。自然ハ神ノ顯現ナリ、即チ汎神論ナリ。

Theismus ヨリ Deismus ヲ生ジ遂ニ Pantheismus 及チ Panentheismus トナル。

サレバ美術家及ビ詩人ハ素ヨリ學者モ政治家モ法律家モ皆事物ノ外部ニ眞理ヲ求メムトスルコトナク、一方ニ於テハ自己ノ内心ニ立チ歸リテ靜慮熟考スルヲ要スルト共ニ他方ニ於テハ必ず外部ノ自然事物中ニ具ハレル理法ヲ慮

自然ガ有機體
自己ニ非
ズルニマ
スルヲ非
通シテマ
實現セシ
メタルガ
ナリ

附録 新歐羅巴人 第五章 第十九世紀ノ思潮 第一節 概論 第十九世紀ノ前半 六八一

心平氣ニ研究シ其ノ事物ヲシテ自ラ己ヲ發揚セシメザルベカラズ。美術文學モ法律制度モ共ニ作ラレルモノニ非ズ考へ出ダサルモノニ非ズ成長スルモノナリ。發達スルモノナリ。是等ノモノハ之ニ預ル人ノ才能ニヨルモノナリ。其ノ能力ガ或ハ文學、美術、法制等ト爲リテ外部ニ現ハルルニ外ナラズ。併シ社會ニ於ケル各個人ノ能力ハ外部ヨリ人爲的ニ作ラレタルモノニ非ズ。其ノ内部ノ要求ニヨリテ發達スルモノナリ。從ツテ以上各種ノ事物モ各個人ノ發達ト共ニ自ラ成長スルモノナリ。例ヘバ言語ハ發明セラレタル結果存在スルモノニ非ズシテ自ラ社會ニ於テ發達スルモノナリ。宗教モ然リ、社會、國家、法律、モ皆然リ、憲法モ亦然ルベシ。神聖ナル憲法モ皆自然ニ成長シタルモノナラザルベカラズ。カントニ由リ自覺セラレタル主觀的世界ハ益其ノ内部ニ統括スル客觀的方面ノ客觀的研究ノ必要ヲ意識セシメタルモノトイフベシ。而シテ自己ヲ通シテ所謂自己ニ對スル自然界ヲ存在セシメツアル以上ハ自己ガ統一體タル所トナサザルベカラズ。是等汎神論者トシテ著名ナル者ハ「ヘーゲル」Hegel 1770-1831 「シリング」Schelling 1775-1854 「クラウゼ」Krause 1781-1832 等ニシテ「ヘーゲル」アラウゼ」ハ又法理學ヲ研究セシ者ナリ。又此ノ頃ノ歴史法學者トシテ掲グベキ者ニハ「ザウキニー」Savigny 1779-1861 「アイロホルン」Eichhorn 1781-1846 等アリ。

宇宙ハ統一の力有機的カ分ラマカ統一の吾人ヲ通シテ存スル限り、宇宙ヲ統一のモノト見ルコトハ正シ。

第四 神學及ビ教會ノ復興

各個人ハ元自カニ依リテ生活シ思惟スルモノニ非ズ。各人ハ皆相待ツテ人間ノ專業ヲ分擔スルガ故ニ自己ノ事業以外ノコトニツキテハ專門家ニ信賴セザルベカラズ。教會ハ歷史上動カザル信仰ノ指導者ナリ。國家及ビ其ノ認定法ハ神ノ定ムルトコロニヨリ成立存在發達スルモノニシテ意思生活ノ先導者ナリ。國法及ビ國家ハ各個人ノ自カニ基ヅキ其ノ小理窟ニヨリ契約シテ生ゼシメラレタル製作物ニ非ズ。意思生活ニツキ各個人ヲ完成セシムルガ爲ニ缺クベカラザル意思上ノ他カヲ供給スル爲ニ神ノ創設セルトコロナリ。

斯ノ如ク汎神論ノ興起ト竝ビテ獨斷教モ亦其ノ信用ヲ恢復シ。就中羅馬教會ハ勃然トシテ興リ俗界ニ對シテモ大ナル勢力ヲ振フコトナリタリ。即チ「ザクトルクローザン」Victor Cousin 1792-ハ中世ノ哲學ヲ研究シ「ドメートル」Jos. de Meistre 1754-「レボナール」Le Bonald 1754-「シャトブリアン」Chateaubriand 1768-「ラムネー」Lamennais 1793-等ハ哲學說ガ各矛盾反對シ又變遷シテ信賴シ難ク雄大ナル生活ヲ築クベキ鞏固ナル土臺ト爲スニ足ラザルベキヲ述ベ之ニ信賴セシ結果ハ皆失敗ニ終リタルヲ證明シ永久不變不易ナル鍛鍊セラレタル唯一ハ羅馬舊教ハ獨斷コソ眞ニ人生ノ安立スベキ所ナルヲ唱ヘタリ。

新教ノ學者モ亦同一ノ運動ヲ開始シタルガ神學者トシテ有名ナル哲學者ニハ「シテライエル」F. Schleiermacher 1768-在リ。「カルル」F. von Haller 1768-等ハ舊教ニ改宗セリ。尙「ユリウス」Julius Stahl 1802-ノ如キハ歴史的眼光ヲ以テ國家君主ノ説明ト第一事實トハ相離ルベカラザル所以ヲ洞察シ君主ノ權力ハ神授ノモノナリ多數ガ必ズシモ權威アルモノニ非ズト主張セリ。Das Königtum von Gottes Gnade.

第五 立憲制度ノ確定

第十九世紀ノ前半ニ於テハ國家國法ハ人爲ニ非ズシテ自然ナルコトヲ唱ヘ、國家ハ本來自然の全部ナリ國法ハ全部ノ意思ナリト認ムルコトヲ一般ノ思想トシ哲學上ヨリ神學上ヨリ之ヲ論證セリ。然レドモ人類タル各個ノ自我自由平等博愛ヲ主義トスルコトモ亦自然ナリト認メラレ世界ニ於ケル個人ノ尊重モ亦進歩シテ息マザリキ。サレバ第十九世紀ハ決シテ第十八世紀マデニ發達シタル自由思想團體思想平等思想ヲ打破セシモノニ非ズ。之ヲ國家世界ノ全部思想ト調和セシメ益適當健全ナル方面ニ發展セシメ終ニ認定法上歐洲大陸諸國ノ立憲主義立憲制度 Constitutionalism, Constitutionヲ確立セシメタリ。國英ニハ約二百年前 故ニ立憲制度ノ研究ハ少クモ第十六七世紀以後ノ差別的な自然法ノ思想ト第十九世紀ノ無差別的な全部思想ト人道主義及並ビニ歴史の自覺トニ分析シテ精細ニ之ヲ吟味セザルベカラズ。(目前ニ現ハレタル政争ノ事實ノ如キハ此ノ根本的思想ノ一表徵タルニ過ギズ)。

附録 新歐羅巴人 第五章 第十九世紀ノ思潮 第一節 概論 第十九世紀ノ後半 六八六

歴史モ自然法モ全部的思想モ考ヘザルベカラズ、全部相對ト歸一トヲ見ザルベカラズ。然シ第十九世紀ニハ無差別方面ハ尙充分ニハ自覺モサレズ、況ヤ發揚セラレズ、差別無差別ノ完全ナル調和ハ第二十世紀ノ仕事ナリ。

第二款 第十九世紀ノ後半

各個人博愛ノ實行ハ統一團體ノ確立ニヨリテ全キヲ得、各個人ノ自由ハ何人モ國家ノ活動ニ與カリ得。官吏議員ト爲リ得又兵役ノミナラズ、國家ノ自治表現人ト認メラルルコトニヨリテ國家普遍意思ノ確定ト調和シ得、各個人ノ平等ハ武力權力信仰ノ階級ノ廢止ト共ニ、國家社會ノ表現人タル根據ヲ均フシ得ルコトトナリ、其ノ獨立人トシテ有スル本來ノ價值ヲ等フスルコトトナレリ。

然レドモ國法及ビ國家組成ハ意思生活ヲ主トシテ存在スルモノナリ。故ニ國家國法ハ一應整頓スルモ社會生活ノ各方面ノ事實ハ之ニヨリ整頓シ終リタルモノニ非ズ。殊ニ各種ノ社會的事情ノ下ニ成立シタル憲法ハ、必ズシモ理想及ビ理法ヲ満足セシムルヲ得ズ。設定シタル憲法生活ニ慣レシメ、益々之ヲ根

個人ヨリ其
ノ集合ニ移
ル、集合本
位ナリ

立憲制度ハ
私認個性
及ビ自由
制人ナリ
各人ノ保
獨立ノ考
リトナ

據トシテ法律生活ヲ發達セシムルト共ニ是非、社會ノ事實的研究ニヨリ、社會國家國法ヲ改善セシメザルベカラズ。是ニ於テカーニハ社會學ノ發達ヲ誘起シ、二ニハ國內公法ノ學問ヲ確定セシメ、三ニハ國際法ヲ發達セシメタリ。然モ此ノ研究方法ハ第十九世紀前半ノ主義ヨリ一轉シテ差別的集合的トナリ、自然論的實證論的トナレリ。而シテ此ノ傾向ヲ助ケタルハ憲法ノ確定、一般人民ノ發達ト共ニ多數ノ淺薄小智ナル者ガ思潮ノ變遷ノ大動力トナリシコトニ在リ。漸ク第十八世紀ノ學風思想ニ感染シ了リタル一般人民ガ此ノ思想ヲ以テ満足シ得ル研究ヲ歡迎シタルコトニアリ。故ニ研究者ノ多數ナルコト多方面ニ互リテ存在スルコトハ未ダ嘗テ其ノ類ヲ見ザル所ナレドモ、多クハ卑近ニシテ入り易キ實證論實利論ノミニ偏執セリ。獨逸ノ第十九世紀前半ノ觀念論ガ寧ロ古キ制度ヲ有スル英國ニ於テ其ノ後繼者ヲ有スルモ亦奇觀トイフベシ。

第一 實證論ノ全盛及ビ進化論ノ普及

第一 實證論ノ全盛

附録 新歐羅巴人 第五章 第十九世紀ノ思潮 第一節 概論 第十九世紀ノ後半 六八七

故ニ法律哲學ヲモ認メ

四料棟ノ奪人不奪境ノ奪說明參照

自然科學ノ發達及ビ成功ト共ニ自由ヲ否定シ內的經驗ヲ度外視シ外的經驗ハミテ有效トシ原因結果ノミハ獨リ用キラレ得ベキコトヲ獨斷シ此ノ方法ヲ用キテ精神及ビ社會現象ヲ説明セムトセシ者ハ第十八世紀ノ終リニ急ニ民衆本位トナリタル佛國ノ「オーギニスト、コムト」Auguste Comte 1798-ナリ。數學、星學、物理學、化學、生物學、及ビ社會學ノ六科以外ニハ哲學モ亦存セザルモノトスルハ彼ノ意見ナリ。此ノ說ハ佛英獨共ニ其ノ信仰者ヲ有ス。佛ノ「ラフキット」Lafitte「ロビネー」Robinet等ハ純粹ナル後繼者ニシテ稍緩和セラレタル「ルナン」J. Ernest Renan 1823- 及ビ「テーニン」Hippolyte Taine 1828-1893モ亦其ノ系統ニ屬ス。獨逸ニハ「デーリッ」Eugen Dühring 1829-「フーバ」F. Feuerbach 1804-1872「アウグナリウス」Avenarius 1815-「リスト」Liszt 1818-等在リ「リール」Riehlモ亦實證論ト新「カント」派トノ界ニ在ル者ナリ。英國ニ於テ「ミル」J.S. Mill 1806-ハ固ヨリ「ブーン」Alexander Bain 1818-「シドウィック」Sidgwick 1838-「ハクスレー」Huxley 1825-等皆多少此ノ方面ノ趣味ヲ帶ビ「スペンサー」Spencer 1820-モ亦此ノ方面ノ著シキ者ナリ。「スペンサー」ガ我が國ニ影響セシコトノ大ナルハ人ノ許ス所ナリ。(臨濟四料棟ノ奪人不奪境 佛哲初版參照)

Charles Darwin

進化ノ研究ハ當時ノ要
求ナリキ
Hegelノ發
達ノ論理
Goethe
進化發展ノ
研究

Struggle for
existence
生存スル爲
ノ奮闘

Heraclitus
及ヒ Hegel
ノ矛盾

第二 進化論ノ普及

進化論ハ「ダーウキン」Darwinニヨリ大成セラレ唱道セラル。彼ハ生物學的觀察ヲナシ其ノ間ニ存スル進化ノ理法ヲ研究セリ。而シテ社會國家法制ノ觀察モ亦此ノ影響ノ下ニ立ツニ至レリ。人間ハ本來靈妙ノ性質ヲ有スル生物ニ非ズシテ元ハ下等動物ノ漸次發達シタルモノニ過ギズ。此ノ人間間ニ存在スル風俗習慣法律モ亦動物的生活ト離ルベカラザル關係ヲ有シ皆其ノ種族保存ノ必要ニ基ヅキ存在スルモノナリ。家族生活ノ始マリハ元動物タル雌雄兩性ノ性愛性慾ニヨル結合ノ結果ナリ。此ノ生物的結合ガ團體殊ニ國家ヲ作ラシムルノ根本的要素ナリト。彼ノ影響ヲ受ケタル學徒ハ此ノ種ノ精神ニ基ヅキ人類ヲ他ノ生物ト比較シ又ハ人類相互ヲ生物トシテ比較シ國家法制ヲ研究シ之ヲ説明セムトセリ。

尙彼ハ生物ノ間ヲ支配スル生存競争「Kampf ums Dasein」ニヨル優勝劣敗適者生存ノ理ヲ説明セシガ之ヲ用キテ人類テフ生物間ニ存スル社會現象ヲモ説明セムトセリ。(Darwinismus) 國民ノ間ニモ絶エズ生存競争ガ行ハルルモノニシテ一

ニ其ノ結果トシテ國民ノ發達ヲナサシムルモノナリ、國民ノ發達ハ此ノ競争ノ程度ト相消長ス。蓋シ生物間ノ差別心及ビ卑近ナル情慾其ノ他ノ心理ノミヲ基礎トシテ實證論的ニ研究スルモノニシテ、唯精神現象社會生活ノ一方面ノミヲ説明シ得ルニ過ギザルモノトス。(アリストテレスノ國家概念參照)

Aristoteles

義ニBel-
Shenハ最
大多數ノ最
大幸福ヲ唱
ヘタリ

集合本位

第二 社會學ノ興起及ビ社會ノ要求

第十九世紀ノ哲學ハ人生哲學ヲ以テ始マリシガ其ノ後半ニ至リテハ社會學ガ殆ンド哲學ニ代ルガ如キ勢力トナレリ。永キ争點タリシ國家根本組成ノ結末ヲ得タルト共ニ注目點ハ一ニ社會ニ集マリ自然科學的實證論的差別的ニ社會ヲ研究シ改革シ國家ニ對抗セムトスルコトトナレリ。併シ大略第十八世紀ニ於ケルガ如キ極端ナル個人本位ニハ非ズシテ寧ロ多數ノ個人ト離レザル個人又ハ個人ノ集合ヲ以テ本位トナス。故ニ此ノ時代ノ社會學ハ何レモ個人集合ノ研究ニシテ人格者ノ歸一同體即チ普遍我ノ研究ニハ非ズ。且專ラ國家國權ヲ以テ社會ト相並ビテ外部的ニ對立スルモノト思惟シ且内的經驗ヲ捨テテ

外部の經驗ノミニ偏執セシモノナレドモ經濟學ヲ始メ刑法學其ノ他國家法律政治學ノ各方面ニ影響セシトコロ尠カラズ。是等ノ諸學問ヲシテ社會學ノ研究ヲ基礎又ハ參考トシテ立論セシムルニ至レリ。而シテ是等研究者ノ主義トスル所ハ概シテ在來ノ社會及ビ其ノ制度ヲ保存スルコトヲ以テ満足セザルモノニシテ大略左ノ三種アリ。

此ノ三種ノ主義ノ有スル缺點ノ根本ハ眞ノ普通及ビ表現ヲ悟ラズ徒ラニ個人ノ差別ニ拘泥スルノ點ニ在リ。從ツテ個人ノ集合ヲ見得ルモ本來ノ一心同體ヲ見ル能ハズ。本來ノ一心同體ヲ悟ラベ是等ヲ統括スル一層健全ナル主義ニ達シ得ベシ。

第一 自由主義

自由主義ハ及ブ丈ケ社會ヲ國家及ビ其ノ權力ヨリ解放セムコトヲ主意トナス。國家ガ社會生活經濟生活ニ干渉スルハ社會ノ活動ヲ妨害スルモノ故全ク之ヲ社會事業ニ委スベキモノトナス。サレバ社會經濟ノ必然ナル調和ハ自由貿易ニアリテ保護貿易ニ在ラズ精神教育ノ事業モ出來得ル丈ケ之ヲ人民ノ私業又ハ社會ノ自治ニ委スベキモノニシテ成ルベク國權ヲ制限セザルベカラズ

自由競争
契約ノ自由
所有權ノ自由

トナス。此ノ主義ハ第十九世紀ノ後半ノ中頃マデハ極メテ有力ナリシ所ノモノナリ。

Ronsseau
ノ所有ノ論
参照

今日ノ社會
政ノハ狹ク
モノハ呼ブ
労働者ノ保
護ヲ當面ノ
内容トナス

社會全部
平均ヲ保ツ
及ビ國權
リ及モノガ
均ガ保ツ

第二 國家社會主義 Staatsocialismus 國家ノ社會政策主義 Socialpolitik des Staates
國家社會主義ハ君主及ビ國家國法ニ信賴シ之ニ依リテ社會各種ノ階級ノ別
ヲ廢シ殊ニ財力ノ專制ヲ打破セムトス。愛情信仰武力權力智力各種ノ專制ノ
消滅ト共ニ獨リ財力ノミガ其ノ專制ヲ逞フスルニ至リ財產ノ所有額ハ同時ニ
各個人間ニ差別ヲ立テシムル唯一ノ標準トナリ財力ノ存スル所其ノ壓制力ノ
存スル所ニシテ自由獨立神聖ト感ゼラレタル人格者ハ人格者ニ對シテニ非ズ
財力ニ對シテ禮拜シ財物ニヨリテ驅使セラレタルコトヲ感ズルノ切ナルヲ致セ
リ。然ルニ經濟學及ビ社會學ノ進歩ト共ニ財物ハ即チ人格者全體ノ創設スル
所ニシテ又一個人一人ノ作ル所ニ非ズ。個人ノ集合ニヨリテ存スル社會ノ作
ル所ナリ。一人ノ私スベスキ物ニ非ズシテ社會ノ利用スベスキ物ナリ。故ニ國
家ノ權力法律ハ此ノ財力ノ分配ヲシテ其ノ當ヲ得セシムベキモノニシテ形式
ニ舊套ヲ墨守スルヲ以テ足レリトナスベキモノニ非ズ。社會ニ於テハ各種ノ

優者特ニ財力家ガ自己ノ私ヲ恣ニスル傾向アルニ對シ此ノ私ヲ抑壓シ國民及
ビ社會全部ノ平均ヲ保ツモノガ國權及ビ國法ナリ。國家ハ人民ノ自由ニ干渉
シテマデモ此ノ公平ナル社會目的ヲ達スルコトニ盡力スベキモノナリ。國家
ノ成立存在スル所以モ亦實ニ社會ノ健全公平ヲ維持スルコトニ在リ。而シテ
此ノ國家社會主義ノ或部分ハ社會政策トイフモ方針 國家ヲ刺戟シテ殊ニ第十
九世紀ノ末葉ヨリ國家ノ社會政策ヲ定メシメ立法及ビ行政ニヨリテ着實行
セシメツツアリテ益其ノ歩ヲ進ムルノ傾向ヲ有ス。 租稅、公用徵收、專賣事業、國
營事業等其ノ重要ナル手
段ナ

社會ノ進歩人心ノ發達ト共ニ社會ニ於ケル各般ノ專制主義絕對主義ハ
次第ニ打破セラレ何人モ社會ノ普遍的產物ヲ私シ得ザルニ至レリ。獨リ
財物ニツキテハ未ダ充分ナル解決ヲ見ズ。財力專制ハ他ノ專制ガ存ゼザ
ルニ至リシト共ニ益專制的獨占的ニ其ノ暴威ヲ振ヒツツアリ。此ノ財力
ニ對スル私ヲ整理シ表現人ノ根柢ノ上ニ財力ヲ運用スルニ至ラシムルニ
ハ如何ニスベキカ。コハ世界全體ニ跨ガル大問題ナリ。 食物ノ不足等ハ
愈々此ノ問題ヲ重

如何ニシテ
健全ナル
第一歩ヲ
信仰ノ確
立ガ第一
ナレザル
確立ガ必
要ナル

歸一	二二三	貴族政治	二二三	義務	三六五	希臘思潮	三
歸一關係	五五七	規則正シキ力	八五	義務ト責任	五六〇	希臘殖民地ニ於ケル哲	二五
救濟	五三八	歸納	一六二	強固ナル意思	四一六	理ノ發達	二五
救世行爲	五四一	歸納推理「アリスト	三〇三	強迫主義	五四四	希臘人	八〇
救世主	五六九	歸納推理「テレス	三〇二	共觀福音書	五三九	希臘人ト羅馬人	四一〇
機械的宇宙觀	四三三	歸納法「エビタヨス	三三〇	共通	二二一	希臘人ト羅馬人	四一〇
機械論	六三八	歸納法「ソクラテス	三三〇	共通意識	四四一	希臘哲學	四七五
「キケロ」ノ學說	四三九	「キニコス」學派	一四一	極微論	七六一	希臘哲學ト羅馬思想	四一六
「キケロ」不滅ノ偉功	四四七	急務中ノ急務	小引三	極微論者	七六一	希臘哲學者ノ神	五一九
擬制	四三六	「キプリアニス」	六〇二	希臘教會	五八五	希臘哲學ノ制限	四三二
		詭辯主義	六	希臘教會	六〇二	希臘哲學ノ啟蒙時代	八七
		詭辯論者ト「ソプラキス	九一	希臘思想	四六五	希臘ノ超越神	五二二
		詭辯論者時代	八七			希臘ノ美心	一五一
						希臘文化散布時代	三二〇

「キリスト」	五六九	基督教ノ結成	五九一	近世思潮	一八	「クセノフオン」	一三七
基督「イエス」	五七〇	基督教ノ興起	五一〇	近世ノ國家	五三四	「クナイスト」	六九七
基督教	一六	基督教ノ特質	五八〇	禁欲	四九	「クノージス」	六〇二
		基督教ノ發達	五九七	苦	一四三	「クノステイカー」	四八二
		基督教ノ發達「希臘地方	六〇二	「悔イ改メヨ」	五七八	愚民	三三三
		基督教ノ本質	五九七	空	一一六	愚民政策	三〇一
		規律	五八	空虛ナル空間	一一九	「グムプロウキツ」	六九六
		規律意思	四〇四	空宗	一四	「クラウゼ」	六八三
		規律心	六六八	「クエネー」	六〇	「クラテロス」	一五三
		規律普遍意思	四〇五	「クエネー」	六五四	「クラテリス」	一四五
		「ギールケ」	六九七	「クエネー」	六五四	「クリジッポス」	一一
		「キレーネ」學派	一四五	「クセノクラテリス」	一〇	「クリスト」	五三六
		均一的ノ神	五三二	苦悶	四一〇	「クリティアス」	九二
		近世	四五七	「クセノファネー」	四九	「クレアンテリス」	三三〇
			六二七		七五		三六四
			六三二				

賢人「キレーホ」	一四七	權利義務	四四四	公法私法ノ地位	四五三	國家「アロチウス」	六四〇
賢人「ピルロ」	一四八	權利義務ト神ノ意思	五六〇	公法ノ發達	四五四	國家「ストア」	三七一
賢人「プラト」	一八九	權力	一〇二	公理	一六三	國家「アキメテス」	二二四
賢人「アトラス」	一九七	權力ノ分配	二九〇	功利主義	六九二	國家「ソラト」	一八八
原素	七五	權力ノ分配ノ標準	二九〇	功利主義者	六五二	國家「ホツアス」	一九三
「ケンソル」	三七七	憲法	二七四	功利的道德説	六五一	國家「ホツアス」	一九八
憲法生活	六八七	公益	四九九	「ヘーテ」	六八〇	國家「ホツアス」	一九八
還誠	六八七	恒久示令	四九九	個我	六八〇	國家「ホツアス」	一九八
還誠門	五〇三	孔子	二六三	國家	二九四	國家「ホツアス」	一九八
權利	四四一	恒隨轉	二六三	國家「アリストテレス」	二九四	國家「ホツアス」	一九八
	六四五	幸福説	六四八	國家「サタル」	六五九	國家「ホツアス」	一九八
	六五五	公平ト衡平	六七一	國家「カント」	六七一	國家「ホツアス」	一九八
		公法	四四一			國家「ホツアス」	一九八

國家的教育ノ根據	一三七	克己	一四五	國內公法學ノ發達	六九六	個人主義	一八
國家的普通	四〇八	國君	三三五	國法「亞里士多」	五八	古神道	一〇二
國家的利己主義	四〇九	國教	六〇一	國民國別主義	六四八	古神道ノ大精神	四〇九
國家ト宗教	五四三	國權	四〇一	國民主義	六二九	吾人ト神	五〇〇
國家ト性愛	二六六	國權ノ主體	三九八	國民主義ノ隆興	六九七	個人ノ幸福	六九七
國家ノ概念	一八八	國權萬能主義	三九八	國民的宗教	五九七	個人ノ集合	六九〇
國家ノ基礎	二六二	國權分類論	三九八	護教	三九八	個人ノ自由	六九〇
國家ノ社會政策主義	六九二	國權論	二八七	護教	三九八		
國家ノ存スル基礎	二六七	國憲論	二八七	護教	三九八		
國家ノ目的	三二四	國際法學	六九七	護教	三九八		
國家論「アウグスティヌス」	六一四	國體ト政體	二七三				
國家論「アリストテレス」	二六二		二九三				
國家論「エビタロス」	三三七						
國家論「ストア」	三五七						
國家論「ソラト」	一三六						
國家論「フロン」	一八六						
國家論ニ於ケル理想論	一九二						

社會契約論 <small>見前</small> 六三一	自由..... 三〇九	宗教ト國家..... 五四三	自由力..... 三三五
社會主義..... 六六一	自由觀念論..... 四〇一	宗教ト政治..... 五四六	需要..... 三三六
社會主義者..... 六九四	自由觀念論者..... 三七一	宗教ト哲學..... 五〇六	主客觀..... 四九五
社會ト個人..... 五六五	自由觀念論者..... 三七一	宗教ト歴史的事實..... 六〇〇	主客觀觀念論..... 六七三
社會ノ規律..... 五八	宗教..... 三三五	宗教ノ自性..... 五一一	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
社會ノ要求..... 六九〇	宗教..... 五五〇	宗教ノ勝利..... 一六一	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
社會民主主義..... 六九五	宗教改革..... 六〇四	宗教論..... 九六	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
社會力..... 二九〇	宗教時代..... 三九六	自由權..... 二〇九	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
社會論..... 一四三	宗教時代思潮..... 一六一	重商主義..... 六四八	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
釋迦ト「イエス」..... 五九八	宗教上ノ階級..... 五三〇	自由主義..... 六二七	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
寫實主義..... 三一	宗教團體..... 六一四	自由證得..... 六二七	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
「シャト、ブリアン」..... 六八四	宗教的開明時代..... 四三六	自由ト因果..... 三〇九	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
「ジャン、ボードン」..... 六八四	宗教的經驗..... 六〇〇	自由ト理想..... 三〇九	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
「ボエチア、イヌス」..... 六三〇	宗教的事實..... 六〇〇	重農主義..... 六五四	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
	宗教的第一事實..... 一〇七	自由放任..... 六四八	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
	宗教的哲學ノ徒..... 四八三	自由發達..... 二二一	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
		自由理想..... 三一一	主觀觀念 <small>前或稱觀念論</small> 四〇七
			種子..... 八三

「シュタール」 <small>「スタール」</small> 三九七	純理論..... 二二四	信仰..... 三二〇	人格ト知識..... 三四八
「シュライエルマッヘル」..... 六八四	稷粒論..... 七一	諸物ノ境界..... 七二	人格ノ價..... 六八〇
主理論..... 六四五	諸物ノ大サ..... 八二	「シヨ、ベンハウエル」..... 五一	人格ノ完成..... 三三九
「シュレーゲル」..... 六八〇	「ジヨルダノ、ブルノ」..... 六二六	自力教..... 五八七	人格ノ自由..... 六六九
循環説..... 四一	自力教..... 五八七	自力ト他力..... 六一三	神學ノ復興..... 六八三
殉教..... 五九九	自力ト他力..... 六一三	「シルレル」..... 六六七	新「カント」學徒..... 三
純自力教..... 五三三	「シルレル」..... 六六七	示令..... 四九五	真空..... 三〇五
純粹理性..... 六六六	示令..... 四九五	仁..... 一八六	真空論 <small>「ソクラーテイス」</small> 一三五
純粹理性ノ批判..... 六六四	仁..... 一八六	仁愛..... 三五五	真空論 <small>「プロティマス」</small> 四九八
純哲學..... 二二九	神意..... 五五七	神意..... 五五七	真空論 <small>「ヘッダライトス」</small> 五二
純知作用..... 二六二	神意..... 五五七	神意..... 五五七	真空論ト懷疑論..... 三三三
純理..... 二七九	神意..... 五五七	神意..... 五五七	進化..... 五七九
純理的一神..... 一六四	神意..... 五五七	神意..... 五五七	
純理的一神..... 一六七	神意..... 五五七	神意..... 五五七	

先見	三三八	善美	一七七	「ソフキスト」	二九六
禪宗	三六〇	善福	一七八	「ソフキスト」時代	二九七
專制	三六一	全部相對關係	二六三	「ソフキスト」ト「ストア」	三〇〇
專制君權國	三六二	全部の研究	二六四	「ソフキスト」ト羅馬人	三〇一
專制打破ノ第一聲	三六三	全部ト部分	二六五	「ソフキスト」ノ缺點	三〇二
專制的侵略主義	三六四	訴訟法	三〇三	「ソフキスト」輩	三〇三
專制的統一主義	三六五	「ソフキスト」	三〇四		三〇四
專擅政治	三六六		三〇五		三〇五
戰爭	三六七		三〇六		三〇六
戰爭ト公法	三六八		三〇七		三〇七
漸斷	三六九		三〇八		三〇八
先天的觀念論	三七〇		三〇九		三〇九
善ト美	三七一		三一〇		三一〇
仙人	三七二		三一一		三一一
善人	三七三		三一二		三一二
	三七四		三一三		三一三
	三七五		三一四		三一四
	三七六		三一五		三一五
	三七七		三一六		三一六
	三七八		三一七		三一七
	三七九		三一八		三一八
	三八〇		三一九		三一九
	三八一		三二〇		三二〇
	三八二		三二一		三二一
	三八三		三二二		三二二
	三八四		三二三		三二三
	三八五		三二四		三二四
	三八六		三二五		三二五
	三八七		三二六		三二六
	三八八		三二七		三二七
	三八九		三二八		三二八
	三九〇		三二九		三二九
	三九一		三三〇		三三〇
	三九二		三三一		三三一
	三九三		三三二		三三二
	三九四		三三三		三三三
	三九五		三三四		三三四
	三九六		三三五		三三五
	三九七		三三六		三三六
	三九八		三三七		三三七
	三九九		三三八		三三八
	四〇〇		三三九		三三九
	四〇一		三四〇		三四〇
	四〇二		三四一		三四一
	四〇三		三四二		三四二
	四〇四		三四三		三四三
	四〇五		三四四		三四四
	四〇六		三四五		三四五
	四〇七		三四六		三四六
	四〇八		三四七		三四七
	四〇九		三四八		三四八
	四一〇		三四九		三四九
	四一一		三五十		三五十
	四一二		三五一		三五一
	四一三		三五二		三五二
	四一四		三五三		三五三
	四一五		三五四		三五四
	四一六		三五五		三五五
	四一七		三五六		三五六
	四一八		三五七		三五七
	四一九		三五八		三五八
	四二〇		三五九		三五九
	四二一		三六〇		三六〇
	四二二		三六一		三六一
	四二三		三六二		三六二
	四二四		三六三		三六三
	四二五		三六四		三六四
	四二六		三六五		三六五
	四二七		三六六		三六六
	四二八		三六七		三六七
	四二九		三六八		三六八
	四三〇		三六九		三六九
	四三一		三七〇		三七〇
	四三二		三七一		三七一
	四三三		三七二		三七二
	四三四		三七三		三七三
	四三五		三七四		三七四
	四三六		三七五		三七五
	四三七		三七六		三七六
	四三八		三七七		三七七
	四三九		三七八		三七八
	四四〇		三七九		三七九
	四四一		三八〇		三八〇
	四四二		三八一		三八一
	四四三		三八二		三八二
	四四四		三八三		三八三
	四四五		三八四		三八四
	四四六		三八五		三八五
	四四七		三八六		三八六
	四四八		三八七		三八七
	四四九		三八八		三八八
	四五〇		三八九		三八九
	四五一		三九〇		三九〇
	四五二		三九一		三九一
	四五三		三九二		三九二
	四五四		三九三		三九三
	四五五		三九四		三九四
	四五六		三九五		三九五
	四五七		三九六		三九六
	四五八		三九七		三九七
	四五九		三九八		三九八
	四六〇		三九九		三九九
	四六一		四〇〇		四〇〇
	四六二		四〇一		四〇一
	四六三		四〇二		四〇二
	四六四		四〇三		四〇三
	四六五		四〇四		四〇四
	四六六		四〇五		四〇五
	四六七		四〇六		四〇六
	四六八		四〇七		四〇七
	四六九		四〇八		四〇八
	四七〇		四〇九		四〇九
	四七一		四一〇		四一〇
	四七二		四一一		四一一
	四七三		四一二		四一二
	四七四		四一三		四一三
	四七五		四一四		四一四
	四七六		四一五		四一五
	四七七		四一六		四一六
	四七八		四一七		四一七
	四七九		四一八		四一八
	四八〇		四一九		四一九
	四八一		四二〇		四二〇
	四八二		四二一		四二一
	四八三		四二二		四二二
	四八四		四二三		四二三
	四八五		四二四		四二四
	四八六		四二五		四二五
	四八七		四二六		四二六
	四八八		四二七		四二七
	四八九		四二八		四二八
	四九〇		四二九		四二九
	四九一		四三〇		四三〇
	四九二		四三一		四三一
	四九三		四三二		四三二
	四九四		四三三		四三三
	四九五		四三四		四三四
	四九六		四三五		四三五
	四九七		四三六		四三六
	四九八		四三七		四三七
	四九九		四三八		四三八
	五〇〇		四三九		四三九
	五〇一		四四〇		四四〇
	五〇二		四四一		四四一
	五〇三		四四二		四四二
	五〇四		四四三		四四三
	五〇五		四四四		四四四
	五〇六		四四五		四四五
	五〇七		四四六		四四六
	五〇八		四四七		四四七
	五〇九		四四八		四四八
	五一〇		四四九		四四九
	五一一		四五〇		四五〇
	五一二		四五一		四五一
	五一三		四五二		四五二
	五一四		四五三		四五三
	五一五		四五四		四五四
	五一六		四五五		四五五
	五一七		四五六		四五六
	五一八		四五七		四五七
	五一九		四五八		四五八
	五二〇		四五九		四五九
	五二一		四六〇		四六〇
	五二二		四六一		四六一
	五二三		四六二		四六二
	五二四		四六三		四六三
	五二五		四六四		四六四
	五二六		四六五		四六五
	五二七		四六六		四六六
	五二八		四六七		四六七
	五二九		四六八		四六八
	五三〇		四六九		四六九
	五三一		四七〇		四七〇
	五三二		四七一		四七一
	五三三		四七二		四七二
	五三四		四七三		四七三
	五三五		四七四		四七四
	五三六		四七五		四七五
	五三七		四七六		四七六
	五三八		四七七		四七七
	五三九		四七八		四七八
	五四〇		四七九		四七九
	五四一		四八〇		四八〇
	五四二		四八一		四八一
	五四三		四八二		四八二
	五四四		四八三		四八三
	五四五		四八四		四八四
	五四六		四八五		四八五
	五四七		四八六		四八六
	五四八		四八七		四八七
	五四九		四八八		四八八
	五五〇		四八九		四八九
	五五一		四九〇		四九〇
	五五二		四九一		四九一
	五五三		四九二		四九二
	五五四		四九三		四九三
	五五五		四九四		四九四
	五五六		四九五		四九五
	五五七		四九六		四九六
	五五八		四九七		四九七
	五五九		四九八		四九八
	五六〇		四九九		四九九
	五六一		五〇〇		五〇〇
	五六二		五〇一		五〇一
	五六三		五〇二		五〇二
	五六四		五〇三		五〇三
	五六五		五〇四		五〇四
	五六六		五〇五		五〇五
	五六七		五〇六		五〇六
	五六八		五〇七		五〇七
	五六九		五〇八		五〇八
	五七〇		五〇九		五〇九
	五七一		五一〇		五一〇
	五七二		五一一		五一一
	五七三		五一二		五一二
	五七四		五一三		五一三
	五七五		五一四		五一四
	五七六		五一五		五一五
	五七七		五一六		五一六
	五七八		五一七		五一七
	五七九		五一八		五一八
	五八〇		五一九		五一九
	五八一		五二〇		五二〇
	五八二		五二一		五二一
	五八三		五二二		五二二
	五八四		五二三		五二三
	五八五		五二四		五二四
	五八六		五二五		五二五
	五八七		五二六		五二六
	五八八		五二七		五二七
	五八九		五二八		五二八
	五九〇		五二九		五二九
	五九一		五三〇		五三〇
	五九二		五三一		五三一
	五九三		五三二		五三二
	五九四		五三三		五三三
	五九五		五三四		五三四
	五九六		五三五		五三五
	五九七		五三六		五三六
	五九八		五三七		五三七
	五九九		五三八		五三八
	六〇〇		五三九		五三九
	六〇一		五四〇		五四〇
	六〇二		五四一		五四一
	六〇三		五四二		五四二
	六〇四		五四三		五四三
	六〇五		五四四		五四四
	六〇六		五四五		五四五
	六〇七		五四六		五四六
	六〇八		五四七		五四七
	六〇九		五四八		

索引
洋字
部

V

Vaihinger (Hans) (III 92, b)
 Vaticano 2
 Vatke (III 68)
 Vedantaphilosophie 62
 Venn (I 53)
 Vernunft 633
 vernünftiges Wesen 667
 Verstand 633
 Vico 654
 Villemain (II 37)
 Vischer (III 71)
 volonté générale 660
 Voltaire 605, 653 * 658

W

Wagner 667, (III 21)
 Wahrscheinlichkeitstheorie 679
 Werder (III 70)
 Whewell (I 5)
 William Occam 623
 Windelband (III 145)

Wolff 654, * 655 f
 Wordsworth (I 30)
 Wundt (III 79)

X

Xenokrates 10
 Xenophanes 49, * 61 ff
 Xenophon 9, 133 f

Z

Zarathustra 37
 Zeising (III 72)
 Zeit 249
 Zeller 120, (III 75, 87)
 Zenon (Ζήνων) 49, * 68 ff
 Zenon (Stoa 學派) ... 8, 11, 339 ff
 Zeus 44
 Zola (II 17, b)
 Zōon politikon 265
 Zoroaster 6
 Zoroasterreligion 515
 Zustand 249
 Zwingli 627

七
四
三

希臘語索引

索引
洋字
部

ἀρετή 96
 αριστοκρατία 284
 ἀταραξία 336
 αὐτάρκεια 270
 γένος 236
 δημοκρατία 273, 284
 δυναστεία 285
 δίκη 56
 εἶδος 236
 εἶδος 252
 ἐποχή 381
 εὐδαιμονία 263, 380
 ζῶον πολιτικόν 265
 κυνικός 141
 λόγος 56, 94, 344, 351
 μετά 239
 τὸ μὴ ὄν 176f, 183, 252, 502
 μοναρχία 281
 μορφή 252
 νοητός 497
 νόμος 351, 381
 νοῦς 84, 501
 ολιγαρχία 273, 284
 ὄργανον 241
 οὐσία 250
 πνεῦμα 343, 352
 πόλις 265
 πολιτεία 271, 273, 284
 πολιτεύμα 271
 πρώτη φιλοσοφία 239
 τῆμοκρατία 273
 τὸ δαιμόνιον 128
 τὸ μὴ ὄν 176f, 183, 252, 502
 τὸ πρῶτον 487
 τυραννίς 273, 284
 ὕλη 252
 φυσικά 239
 φύσις 342
 χάος 85
 χριστός 536
 ψυχή 501

七
四
二

索引
部

Ruge	(III 57)	Scott	(I 27)
Ruskin	(I 33)	Scotus (Duns)	623
Russel (H. Bertrand) (I 22, b)		Sempronius Proculus	465
S			
Sabinianer	406	senatus	414, 433
Sabinus (Massurius)	465	Seneca	341, * 451
sacerdotes	455	Sextos Empirikos	369
sacra	455	Shaftesbury	652
Säcularisation	624	Sigwart (Wilh.)	(III 53)
Saint-Simon ... 695, (II 6, 7, III 114)		Sigwart	244 III 54)
samsära	47	Si vis pacem, para bellum. 416	
Sanguiniker	21	Skepticismus	235
Satz der Identität	66	Smith (Adam) ... 649, * 653, (I 1)	
Satz des ausgeschlossenen Dritten	66	Socialdemokraten	695
Satz des Widerspruchs ... 66		Socialdemokratie	694
Saviguy	683, (III 105)	Socialdemokratismus	694
Scaevola	340, 439	Socialorganismus	697
Schaller	(III 69)	Socialpolitik des Staates ... 692	
Schein	67	Sokrates (Σωκράτης) 7, 80, * 124 ff	
Schelling		Solger	(III 38)
... 667, 683, (I 28, II 22, 42, * II 14)		Solon	29
Schiller ... 667, 683, (III 4)		Sophist (-en)	7, 87, ff, 89 ff
Schlegel (August)	(III 10)	Sophokles	156
Schlegel (Friedrich) ... 680, (III 12)		Speculation	324
Schleiermacher 684 (III 9, 76, 141)		Spencer	688, (I 38)
Schopenhauer	51, (III 5, * 20)	spermata	83
Schubert	(III 39)	Spensippos	10
Schulze	(III 30)	Spinoza	51, 74, 235, 638, * 641, (III 17, 24, 80)
Schwegler	(III 73)	Stael (M ^{me} de)	(II 13, a)
Scipio Africanus	340, 430	Stahl	397, 6-4, (III 43)
		Staatssocialismus	692
		Steffens	(III 34)
		Stammler	(II 92, a)
		Stein	697, (III 112)

七四五

索引
部

Stilpon	141	Thrasymachos	92	
Stirner	(III 58)	Thun	249	
Stoa (Στοά)	339 ff	Timaios (Timäus)	158	
Stoa Poikile	339	timokratia	273	
Struggle for existence	689	Tiziano Vecellio	1	
Straton	344	Tolstoj	328	
Strauss	(III 55)	Tracy	(II 5)	
Suarez	631	transcendental Philosophie 664		
Substanz	249	transcendentaler Idealismus 665		
Suum cuique tribuere	370	transcendentale synthetische Apperception	106	
Sydgwick	688, (I 54)	Trendelenburg	(III 23)	
Syllogismus	242	tribuni plebis	414	
T				
Taine	658, (II 17 a)	tropen	389	
Tatianus	601	Turgot	654, (II 2)	
Teichmüller	(III 86)	Twardowski	(III 149)	
Terpander	5	Tyndall	(I 56)	
Tertullianus	601	tyrannis	273, 284	
Thackeray	(I 13)	U		
Thales	29, 33	Uebermensch	(III 123)	
Theaitetos	166	Ueberweg	(III 52)	
Theismus	681, (III 59)	Ulpianus	462, 464	
Theist	652	Unitarier	569	
Theodoros	147, 143	Universalia sunt nomina post rem	623	
Theodosius	466	Universalia sunt realia ante rem	623	
Theophrastos	11, 321	Universalia sunt realia in rebus	623	
Thomas Campanella	201	urbanus	459	
Thomasius	654	Utopia	630	
Thomas Morus	201, 630			
Thomas von Aquino	259			
Thibaut	(III 104)			
Thierry	(II 36)			

七四四

索引
洋字
ノ部

P	
Panätius (panaitios)	340, 426, * 428
pandecta	467
Panentheismus	681, (III 42)
Panlogismus	(III 10)
Panpneumatismus	(III 28)
Panpsychismus	(III 25)
Pantänus	602
Pantheismus	681
Panthelentismus	(III 5)
Pantheismus	(III 5, 20)
Pansatanismus	(III 20)
Panvitalismus	(II 43)
Papinianus	464
Parallelismus	164, (III 81)
Parmenides	49, 61, * 61 ff 234
Passivität	249
patres ecclesiae	342
Paulsen	(III 81)
Paulus (使徒) ...	21, 535, * 594 ff
Paulus (法學者)	464
Pentateuch	529
Peras	40, 43
Pericles	79
Peripatetos	11, 321
persona	473
Pestalozzi	654, (III 95)
Petero (Petrus = 同ジ) ...	21, 513
Petrarca	452
Pfeiderer	(III 85)
Phaidros	10
Phaleas	149
phainomenon	116
Phänomenalismus	663
Pharisäer	19, 533
Phidias (Pheidias = 同ジ) ...	9, 80, 156
Peilolaus (-os)	39, 41, 111, 234
Philon (Larissa 出)	388
Philon	486 ff
Phil. des Unbewussten (III 28)	
philosophische Schule... (III 1 4)	
Phlegmatiker	22
physika	239
Physiokraten	649
Physiokratisches System ...	649
physis	342
Platon (Πλάτων)	
.....	3, 7, 80, * 149, ff, (III 18)
Plotinus (-os)	396, * 493 ff
Plutarchos	493
pneuma	343, 352
Poincaré (Henri)	(II 17, c)
polis	265
Politeia	192 ff
politie	184
Politikos	189
Polybius	340, * 430 ff
Pompeius	340
Porphyrius	508
Posidonius	340, 426
Positivismus	641
practor	459
praetor peregrinus	459, 461
praetor urbanus	459
Pragmatismus	(I 39)
prajña pāramitā	383

七
四
七

索引
洋字
ノ部

R	
praktische Vernunft	667
Prämisse	375
prästabilierte Harmonie	644
prima philosophia	239
Primat der praktischen Ver- nunft	666
Primat der Wille	666
Princip per Legitimität ...	297
Princip der Legitimität der ersten Thatsache	678
Proculianer	465
Proculus	465
Prodikos	92
Proklus	508
Protagoras	92 ff
Proudhon	(II 11)
Psammetich	27
Psychophysik	(III 25, 79)
Psychophysiologie	(III 139)
Ptolemaios	6
publica utilitas	459
Puchta	(III 106)
Pufendorf	643
Puritaner (puritans)	631
Pyrrhon	13, 379 ff
Pythagoras (Πυθαγόρας) 4, * 36 ff	
Q	
Qualität	249
Quantum	249
Quesnay	649, 654
Raffaello Santi	1
Rationalismus	164, 645
Ravaisson	(II 39)
Real-Idealismus	(III 27)
Realismus	622, 663
Reid	632 (I 2)
Reformation	624
Reinhold	(III 93)
Relation	249
Religion als Vernunftwissen- schaft	(III 9)
Religion de l'humanité (II 15)	
Renaissance	624
Renan (Erneste)	683, (II 16)
Renouvier	(II 43)
Resignation	143
Restauration	678
Revolution	647, 678
Rickert (Heinrich)	(III 146)
Riehl	(III 132)
Ritschl	(III 141)
Ritter	(III 48)
Robinet	688, (II 15)
Rokitansky	(III 137)
Romanist	(III 104, 105, 106)
Romanticismus	680
Romantik	680
Roscelinus	623
Rosenkranz	(III 67)
Rothe	(III 50)
Rousseau	344 653, * 659 ff
Royer-Collard	(II 24)

七
四
六

H

索引
洋字
部

Hadrianus	459
Haeckel	(III 124)
Hallam	(I 9)
Haller	684, (III 101)
Haltung	249
Hamilton	(I 3)
Harnack	(III 144)
Hebräer	515
Hegel	51, 69, 235, 248, 638, (I 18, II 30, * III 11)
Hegesias	147
Hekatäus (-taios)	33
Hellenist	322
Helmholtz	100, (III 88)
Henotheismus	527
Herakleitos	4, * 48 ff
Herbart	(III 97)
Herder	654, (III 1, 13 n)
Herodotos	108
Herrmann	(III 142)
herstellende Gerechtigkeit	275
Hertz	(III 136)
Hesiodos	63
Hinrichs	(III 64)
Hipparchos	323
Hippias	92, * 101, 447
Hippodamus	148
Hippokrates	111, 352
Hippolytus	601
Hobbes	15, 638, * 640, (I 41)
Hobbesianismus	641
Hoffnung	403
Homeros (Homer)	55, 63, 323
Homo	473
Homoiusios	570
Homocousios	570
Hooker	630
Humbolt	100, (III 6)
Humanismus	629, 639
Hume	383, 364, 652
Huxley	688, (I 55)
Hylozoismus	31
I	
idea	154, 175
Ideal	8, 173
Idealismus	665
Identitätslehre	(III 14)
Identitätsphilosophie	642, (III 28)
Ihering	436
Imperium	401
Individualismus	629
Induction	162
institutiones	467
intelligibler Charakter	320
Irenaeus	601
Irrationalismus	(II 43, III 3)
Isokrates	149
Israel	515
J	
Ja	518
Jacob	596
Jacobi	(II 31, III 3)
Jahaveh	518
Jahweh	518

七五
一

Jamblich	508
James	(I 39)
Janet	(II 38)
Jehovah	518
Jellinek	697, (III 119)
Jesuit	631
Jesus Christus	539
Jevons	(I 35)
Johannes	22
Johannes der Täufer	533, 578
Jouffroy	(II 29)
Julianus	508
jus	446
jus civile	415, 458 ff
jus gentium	415, * 457 ff 475
jus honorarium	460
jus naturale	446
jus personarum	470
jus quiritis	458
jus rerum	470
Justinianus	456, 466, 492
Justinus	601
K	
Kaftan	(III 143)
Kallikles	92, 106 ff
Kalvin (Calvin, Caulviu = 同シ)	637, 639
Kampf ums Dasein	889
Kanonik	329
Kant	72, 652, 654, * 662 ff (I 16, II 27, III 1, 注意)
Katechismus	134
Kategorischer Imperativ	668
Karneades	392 ff
Kepler	38, 182, 646
Kleanthes	11, * 340 ff
Kohler	(III 121)
Kollektive Vernunft	664
Königtum	284
Kopernicus	323, 625
Kosmos	43
kosmos noëtos	152
Krates	145
Kratylos	153
Krause	683, (III 42)
kremata	83
Kritias	7, 92
Kritik der praktischen Ver- nunft	666
Kritik der reinen Vernunft	664
Kritik der Urteilskraft	666
kritischer Idealismus	665
kritischer Philosophie	664
Kriticismus	(III 132)
Külpe	(III 82)
kynikos (κυνικός)	141
L	
Laband	676, (III 110)
Labeo	465
Lactantius	604
Laelius	340
Lafitte	688, (II 14)
Lage	249
Lagrange	654

索引
洋字
部

七五
〇

aufgeklärter Despotismus 649, 654	Bentham 652, 690 (I 29, * 44)
Aufklärung 646	Berger (III 33)
August Bebel 202	Bergson (II 45, 注意)
Augustinus 605	Berkeley 394, 652
Auguste Comte 688, (I 15, 37, 46, * II 13, III 125)	Berolzheimer (III 122)
Augustus 465	Bijn 83
Aurelius (Marcus) 452	Biran (II 28)
austeilende Gerechtigkeit... 275	Blackston 653
Austin (I 43)	Böckh (III 45)
Avenarius 688, (II 128)	Bodin (Bodinus = 同シ) 630
Averrhoës 5	Böhme (III 15)
Axiom 375	Bois-Reymond (III 1.6, b)
	Boole (I 34)
B	Bonald (II 18 b)
Baco (Bacon = 同シ) 638	Boutroux (II 44)
Bacon (Francis) ... 344, 638, (I 40)	Bradley (I 20)
Bacon (Roger) 623	Brahmanismus 146
Baeder (III 32)	Brandis (III 47)
Bain 688, (I 49)	Brentano (III 147)
Baktria 482	Bruno 626
Basilica 469	Buchanan 630
Bauer (III 56)	Buckle (I 51)
Bazard (II 8)	Buffon 653
Bebel 202	Bulwer (I 11)
Beccaria 654	Burke 652, (I 26)
Beck (III 31)	Busse (III 83)
Bellamy 202	Byron (I 27)
Bellarmin 631	
Bellum omnium contra omnes. 631	C
Beneke (III 98)	Cabanis (II 4)
	Caird (John) (I 21)
	Caird (Edward) (I 22, a)
	Companella 201
	Capito 465

素
引
洋
字
ノ
部

七
五
五

caput 473	Comte (Auguste) 688, (I 15, 37, 46 * II 13, III 125)
carita 551	Conceptualismus 622
caritas 551	Condillac 653, (I 43)
Carlyle (I 7)	Condorcet 653, (II 3)
Carus (Lucretius) (Lukrez) 115, 434	Connotation 179
Carus (III 40)	conscientia .. 429
Cäsar 447, 466	consensus gentium * 441, 446, 448
Cato 430	Constantin 466, 597
Calvin (Calvin = 同シ) 630, 639	Constitution 595
ensor 415, 435	Constitutionalismus 595
Celsus 493	consul 433
chaos 85	Copernicus 323
charité 551	corpus juris civilis 468
charity 551	Cour de droit naturel ... (II 29)
Châteaubriand 684, (II 20)	Cousin (Victor) 684, (II 34)
Choleriker 21	Cromwell 646
Chrisippos 11, 340, * 345 ff	cynische Schule 141
Christos (χριστός) 536	Cyprianus 602
Cicero 431, 434, * 438	Cyrene 145
civitas caelestis 615	
civitas terrena 615	D
Class (III 84)	Daimonion (τό δαμόνιον) ... 128
Claudius Galenus 243, 323	D'Alembert 116, 653, (II 1)
Classen (III 139)	Dante 259
Clemens 602	Darwin 79, 689
codex 467	Darwinismus 689
cogito ergo sum 638	das Ich als intelligibler Cha- rakter 669
Cohen (III 138)	das Königtum von Gottes Gnade 684
Coleridge (I 29)	Daub (III 63)
Combination 41	David 536
comitia 433	
comitia centuriata 415	
comita tributa 415	

素
引
洋
字
ノ
部

七
五
四

法理學第二卷索引

其二

注意 括弧内ノ数字ハ表及ビ表中ノ番號ヲ他ノ他ノ頁數ヲ示ス*ハ主要ノ印トス。

A	
Academie	382
actiones	478
Adam	611
Africanus	340
Ahrens	(III 44)
Aine-idesmos (Änesidemus = 同ジ)	389
Aischines (Äschines = 同ジ)	9
Aktivismus	(III 78)
Albrecht Dürer	1
Aleidamas	92
Alkibiades	9
Althusius	639
Ambrosius	604
Amhareez	53
Ammonius Sakkas (Seccas)	493
Ampère	(II 23)
Anaxagoras ('Αναξαγόρας)	5, 4, 75, 79ff, 184
Anaximandros	30ff
Anaximenes	34ff
Änesidemus	389
Audronikos	239
Anthropologismus	(III 59)
Antimacchiavelli	654
Antiochos	388, 426
Antisthenes	138, *141, 268
apeiron	*30, 40, 41
Apollo ('Απόλλων)	2
Apollonius	484
Apologeten	341, 601
a posteriori	643
a priori	666
Aquino	259
Arcesilaos	14, 382, 679
Archimedes	6, 323
Archytas	39
artē	96
arithmetische Gerechtigkeit	275
Aristarchos	323
Aristippos (Aristipp) ..	2, 18, 145
Aristippos (Epikuros 派) ..	12
Aristokratie	284
Aristoteles ('Αριστοτέλης)	2, 7 ff (II 40, III 22)
Aristxenos	4
Aristxenos (Aristotelesノ弟子)	11
Äschines (Aischines = 同ジ)	9
Äschlos	88
Aterus Copito	465
Athene	9

索引洋字ノ部

七五六

第三表 第十九世紀ニ於ケル獨逸人ノ思想

Immanuel Kant 1724-1804
 批判哲學、超絶觀念論。理性ハ自然界ノ一部ヲラズ
 自然界ガ反ツテ理ニヨリテ存ス
 (Herder, Forster ト共ニ「自然世界ノ研究ヨリ轉ジテ」
 「人生ノ發達ノ研究ニ向ハシムル思潮」ヲ創設セリ。)

